

年 報

青 森 県 立 美 術 館

令 和 5 年 度

目 次

003 青森県立美術館の沿革

展覧会

004 企画展

032 コレクション展

041 アートプロジェクト

048 5館連携プロジェクト

051 各種イベント

学芸

052 美術資料収集

055 美術資料貸出状況

056 作品保存修復

教育普及

057 普及プログラム

058 スクールプログラム

059 サポートスタッフ

パフォーマンスアーツ

060 演劇

063 音楽

069 映画

070 バレエ

サービス等

074 貸館

076 図書室

077 キッズルーム

078 博物館実習

079 サポートシップ倶楽部

資料

081 広報

082 広聴

083 入館者数

084 運営予算・決算

085 組織

086 関係規程等

089 施設設備概要

青森県立美術館の沿革

1990年 3 月	美術館の設置について検討を開始することを表明
1991年 1 月	美術館、音楽・演劇ホール等の複合文化ゾーンである「総合芸術パークの検討開始
1996年 2 月	総合芸術パークの建設場所を、三内丸山遺跡に隣接した移転予定の総合運動公園跡地に決定 総合芸術パークの核となる美術館を先行し整備することが決定
1999年度	美術館設計競技を実施、最優秀者に青木淳氏
2000年度	建築基本設計
2001年度	建築実施設計
2002年度	美術館建築工事着工
2003年度	別棟で建築予定だったアトリエとレジデンスを休止、同じく別棟で建築予定だったレストランとミュージアムショップを美術館本体に組み込む等見直しを行う
2005年 9 月20日	美術館竣工
2005年10月17日	「青森県立美術館条例」制定
2006年 3 月17日	「運営諮問会議」設置
2006年 4 月 1 日	青森県立美術館開館準備室設置
2006年 6 月13日	開館プレス発表開催
2006年 7 月13日	開館（館長 三村 申吾）
2007年 7 月24日	博物館法に基づく博物館相当施設登録（青森県教育委員会告示第11号）
2007年 9 月13日	「県民のための美術館づくり懇話会」設置
2008年 7 月19日	あおもり犬屋外連絡通路開通
2008年 7 月20日	青森県立美術館2周年記念シンポジウム開催
2009年 1 月 1 日	館長 鷹山 ひばり 就任
2010年 5 月 7 日	入館者150万人達成
2010年 7 月 8 日	あおもり犬えさ皿完成
2011年 7 月11日	入館者200万人達成
2011年 7 月13日	開館5周年
2012年11月14日	入館者250万人達成
2013年11月14日	入館者300万人達成
2015年 4 月 1 日	館長 杉本 康雄 就任
2016年 3 月	入館者350万人達成
2016年 3 月19日	「青森県立美術館アドバイザリーボード」設置
2016年 7 月13日	開館10周年
2016年12月23日	八角堂リニューアル 《Miss Forest / 森の子》完成
2018年 5 月25日	入館者400万人達成
2021年 6 月	入館者450万人達成
2021年 7 月13日	開館15周年
2023年11月18日	入館者500万人達成

企画展

生誕 120 年 棟方志功展 メイキング・オブ・ムナカタ

開催概要

2023 年 7 月 29 日（土）－9 月 24 日（日）

休館日：8 月 14 日、8 月 28 日、9 月 11 日（第 2、第 4 月曜）

開館時間：9:30－17:00（最終入場 16:30）

（ナイトミュージアム）8 月 19 日、9 月 23 日

9:30－20:00（最終入場 19:30）

開催日数：55 日（58 日間）

主 催：生誕 120 年棟方志功展青森実行委員会

（青森県立美術館、棟方志功記念館、NHK 青森放送局、NHK エンタープライズ東北、青森県観光国際交流機構）

協 賛：DNP 大日本印刷

後 援：青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、青森ケーブルテレビ、エフエム青森、東奥日報社、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、青森県教育委員会、青森市教育委員会

観覧料：①一般チケット

1,800 円（1,700 円）コレクション展も入場可

収入内訳 企画展 1,390 円（1,290 円）・コレクション展 410 円

②高大生チケット

1,200 円（1,100 円）コレクション展も入場可

収入内訳 企画展 960 円（860 円）・コレ展 240 円

③棟方志功記念館との共通プレミアムデザインチケット

2,300 円で数量限定販売（現金のみ）

収入内訳 企画展 1,440 円・コレ展 410 円・記念館 450 円

※（ ）は前売券、20 名以上の団体料金。

企画展チケット購入によりコレクション展も観覧可。

※小中学生無料

※心身に障がいのある方と付添者 1 名は無料

※前売券は県立美術館総合案内、棟方志功記念館及びコンビニで販売

会 場：青森県立美術館 企画展示室

入場者数：総入場者数 34,486 人

内、有料入場者数 28,376 人（目標値 27,000 人）

事業概要

（1）企画概要及び所感

【企画概要】

本展は、「世界のムナカタ」として国際的な評価を得た版画家・棟方志功（1903-1975）の生誕 120 年を記念し、棟方が居住し、あるいは創作の拠点として、芸術家としての棟方の形成に大きな影響を与えた青森、東京、富山の三つの地域の美術館（富山県美

術館、青森県立美術館、東京国立近代美術館）が協力して開催する大回顧展。棟方と各地域の関わりを軸に、板画、倭画、油彩画といった様々な領域を横断しながら、本の装丁や挿絵、包装紙などのデザイン、映画・テレビ・ラジオ出演にいたるまで、時代特有の「メディア」を縦横無尽に駆け抜けた棟方の多岐にわたる活動を紹介。手のひらサイズの絵葉書から、公共の建築空間の大壁画まで、「板画」の可能性を広げ、様々なメディアを通じて「世界のムナカタ」が社会現象になるまでの道程―「メイキング・オブ・ムナカタ」を辿る展覧会である。

【所 感】

本県における棟方志功生誕 120 年の主要事業として、ねぶたの時期を含む夏期に開催。スタートの富山会場、最後の東京会場と、基本的に内容は同一でもそれぞれに館の空間の特色をいかした個性的な展示が行われた。なかでも青森会場では、青森県立美術館の広大な空間に『大世界の柵』『花矢の柵』『華厳松』など大規模な作品をダイナミックに展示。装丁本や挿絵版画などの手のひらにのる小さな世界から公共建築の壁面を飾る巨大な作品にいたるまで、棟方志功の画業の幅広さ、奥深さを伝える展示となっており、他館の展示を見た方からも好評を得ていた。

この他、関連事業としては、教育普及スタッフが熱意をもって取り組んで会期中毎日開催していたワークショップ「私たちの柵綴り」、記録映画「彫る」上映会と石井頼子氏によるアフタートーク、棟方ファンである原田マハ・ヤマザキマリ両氏と石井氏による記念鼎談など多彩な関連イベントを開催し、夏休み以降も終盤まで広く観客にアピールすることができた。また、実行委員会に参加した NHK 青森放送局が、展覧会期前から会期中にかけて、生誕 120 年記念の番組を制作・放送、前記の記念鼎談もたつぷりと時間をとって放送したほか、新町キューブでの写真展示や釈迦十太弟子のプロジェクションなど市内中心部でも多彩なイベントを実施。会期中には青森市主催による棟方志功サミットも美術館シアターで開催するなど、連携しての事業も数多く行われた。本展は、企画展単体としても目標人数をうわまわる集客があったが、同時期には棟方志功記念館の特別展も開催され、双方で利用できるプレミアムチケットを販売するなど、記念館と県立美術館での積極的な連携も行うことができたことも本展の成果の一つである。この二つの展覧会を中心として、放送局や新聞連載、青森市などで多くの顕彰のための取組が行われ、あらためて棟方志功の業績を広く知らしめることができたという点を鑑みれば、本展は単なる企画展をこえ、棟方志功生誕 120 年の機会における顕彰事業として、大きな意義があったと思われる。

(2) 関連行事

・棟方志功ご令孫の棟方良氏、石井頼子氏らを招いてのオープニングセレモニー・内覧会を行った。また、オープン当日の 7 月 29 日に石井頼子氏による上映会＋アフタートークを実施した。期間中は参加型ワークショップ「私たちの柵綴り」を毎日開催、4,898 名が参加した。8 月 25 日には石井氏、ヤマザキマリ氏・原田マハ氏の 3 名による鼎談を行った。また、キリ番セレモニーを実施した。

①オープニングセレモニー・内覧会

日 時：7 月 28 日（金）14:00～14:30

会 場：地下 2 階アレコホール、企画展示室

内 容：オープニングセレモニー、関係者向け内覧会

②参加型ワークショップ「私たちの柵綴り」

日 時：平日 14:00～16:00

土日祝 10:00～12:00、14:00～16:00

（企画展開催期間中毎日開催）

会 場：地下 2 階踊り場スペース

参加数：4,298 名

⑤生誕 120 年棟方志功展 記念鼎談「スピーキング・オブ・ムナカタ」

石井頼子 × 原田マハ × ヤマザキマリ

日 時：8 月 25 日（金）14:00～16:00

会 場：1 階スタジオ

参加者：50 名（応募者多数により抽選）

・青森県立美術館サポートシップ倶楽部の協賛により実施

・当日の様子は NHK 青森放送局「スピーキング・オブ・ムナカタ」にて放映。（放映後、NHK プラスでも配信）

(3) 広報

1) メディアと連携した広報・宣伝

① テレビ

・2023 年 1 月から 2 月にかけて実施した長島小学校特別授業の様子が民放 3 社及び NHK にてニュース報道された。

・NHK 青森放送局において「発見！あおり深世界 志功が愛した青森」「あっぷるワイド開催前特集」「あおりもりもり 棟方志功にせまる」「あっぷるワイド棟方ウィーク特集」など放映。民放各社でも開催前報道やキリ番セレモニーについて報道された。

・NHK「あさイチ！愛でたい nippon 青森」にて特集。NHK-E テレ「びじゅチューン」にて二菩薩釈迦十大弟子の回放映。記念鼎談「スピーキング・オブ・ムナカタ」が NHK 青森放送局で放映（その後 NHK プラスで配信）棟方志功企画展入場者 5,000 人

No.	日 付	曜日	社 名	番 組 名	備 考
1	2023 年 1 月 27 日	金	NHK	あっぷるワイド	長島小学校特別授業①
2	2023 年 1 月 27 日	金	ATV	わっち!! ニュース	長島小学校特別授業①
3	2023 年 1 月 27 日	金	ABA	スーパー J チャンネル ABA	長島小学校特別授業①
4	2023 年 2 月 14 日	火	NHK	昼のニュース（青森）	長島小学校特別授業③
5	2023 年 2 月 14 日	火	RAB	ニュースリーダー With	長島小学校特別授業③
6	2023 年 2 月 14 日	火	RAB	RAB ニュースリーダー	長島小学校特別授業③
7	2023 年 2 月 14 日	火	ABA	スーパー J チャンネル ABA	長島小学校特別授業③
8	2023 年 2 月 17 日	金	NHK	発見！あおり深世界	志功が愛した青森
9	2023 年 6 月 16 日	金	NHK	あっぷるワイド	棟方志功生誕 120 年 来月から過去最大規模の企画展開催へ
10	2023 年 6 月 16 日	金	青森ケーブルテレビ	ACT news	棟方志功生誕 120 年 企画展開催
11	2023 年 6 月 16 日	金	RAB	ニュースリーダー With	メイキング・オブ・ムナカタ 来月開催
12	2023 年 6 月 24 日	土	NHK	あおりもりもり	棟方志功にせまる
13	2023 年 7 月 21 日	金	NHK	あおりもりもり	棟方志功にせまる
14	2023 年 7 月 24 日	月	NHK	あっぷるワイド	棟方志功の企画展 準備始まる
15	2023 年 7 月 28 日	金	NHK	あっぷるワイド	生中継・いよいよ明日から志功展スタート
16	2023 年 7 月 28 日	金	RAB	ニュースリーダー With	棟方志功の回顧展 あす開幕
17	2023 年 7 月 28 日	金	NHK	あす開幕！生誕 120 年棟方志功展 メイキング・オブ・ムナカタ	

No.	日 付	曜日	社 名	番 組 名	備 考
18	2023 年 7 月 28 日	金	NHK	あっぱるワイド 845	棟方志功の企画展 準備始まる (再放送)
19	2023 年 7 月 31 日	月	NHK	あっぱるワイド	棟方志功生誕 120 年の企画展
20	2023 年 7 月 31 日	月	ABA	ハレのちあした	棟方志功生誕 120 年企画展始まる
21	2023 年 8 月 7 日	月	NHK	あっぱるワイド	棟方志功企画展 入場者 5,000 人に
22	2023 年 8 月 7 日	月	RAB	ニュースリーダー With	棟方志功企画展 入場者 5,000 人
23	2023 年 8 月 17 日	木	RAB	1550 ニュースリーダー With	棟方志功回顧展 入場者 10,000 人
24	2023 年 8 月 21 日	月	青森ケーブルテレビ	あーとふる県美	メイキング・オブ・ムナカタ (前編)
25	2023 年 8 月 21 日	月	青森ケーブルテレビ	あーとふる県美	メイキング・オブ・ムナカタ (後編)
26	2023 年 8 月 31 日	木	NHK	あさいチ	愛でたい nippon 青森
27	2023 年 9 月 2 日	土	NHK	発見! あおもり深世界	志功が愛した青森
28	2023 年 9 月 2 日	土	NHK	ねこのめ美術館 1 2 歩め	青森で 抜き足差し足 棟方志功
29	2023 年 9 月 2 日	土	NHK	びじゅチューン!	十大弟子のバスケ大会
30	2023 年 9 月 2 日	土	NHK	生誕 120 年棟方志功展 メイキング・オブ・ムナカタ	
31	2023 年 9 月 4 日	月	NHK	あっぱるワイド	ムナカタウィーク 1 日目 志功とどんちょう
32	2023 年 9 月 5 日	火	NHK	あっぱるワイド	ムナカタウィーク 2 日目 志功とねぶた
33	2023 年 9 月 6 日	水	NHK	あっぱるワイド	ムナカタウィーク 3 日目 志功と津軽民謡
34	2023 年 9 月 7 日	木	NHK	あっぱるワイド	ムナカタウィーク 4 日目 志功と八甲田
35	2023 年 9 月 8 日	金	NHK	あっぱるワイド	わんつか旅日記 ヤマザキマリさんと 棟方志功満喫旅
36	2023 年 9 月 10 日	日	NHK	日曜美術館	自然児、棟方志功〜氏・柳宗悦との交流〜
37	2023 年 9 月 15 日	金	NHK	メイキング・オブ・ムナカタ 2min	門舞女神人頌
38	2023 年 9 月 15 日	金	NHK	メイキング・オブ・ムナカタ 2min	華厳松
39	2023 年 9 月 15 日	金	NHK	メイキング・オブ・ムナカタ 2min	基督の柵
40	2023 年 9 月 15 日	金	NHK	メイキング・オブ・ムナカタ 2min	幾利壽當頌耶穌十二使徒屏風
41	2023 年 9 月 15 日	金	NHK	メイキング・オブ・ムナカタ 2min	弁財天妃の柵
42	2023 年 9 月 15 日	金	NHK	メイキング・オブ・ムナカタ 2min	捨身飼虎の柵
43	2023 年 9 月 15 日	金	NHK	スピーキング・オブ・ムナカタ	「棟方志功展 記念鼎談」
44	2023 年 9 月 21 日	木	NHK	あっぱるワイド棟方	棟方志功展 来場者が 3 万人に

② ラジオ

・県広報番組を活用し、展覧会告知を行った。

No.	日 付	曜日	時 間	社 名	番 組 名	備 考
1	2023 年 7 月 27 日	木	16:55-17:00	FM 青森	あおもり・ふぁん	
2	2023 年 7 月 27 日	木	7:30-7:35	RAB ラジオ	広報タイム	
3	2023 年 8 月 16 日	水	7:30-7:35	RAB ラジオ	広報タイム	

③ 新聞

・プレスリリースによる記事掲載や、イベント報道などにより、連載を実施した。
展覧会の情報発信を行った。また、東奥日報に全 5 回の記事

No.	日 付	曜日	社 名	番 組 名	備 考
1	2023 年 1 月 1 日	日	東奥日報社	生誕 120 年 今こそ志功	
2	2023 年 1 月 28 日	土	東奥日報社	長島小学校特別授業	
3	2023 年 1 月 30 日	月	朝日新聞社	偉大な先輩 熱い息吹に触れる 青森・長島小で特別授業	
4	2023 年 4 月 5 日	水	公明新聞	木版画の巨匠ゆかりの富山、青森、 東京を巡回	
5	2023 年 6 月 17 日	土	陸奥新報	幅広い芸術性知って 来月 29 日から	
6	2023 年 7 月 23 日	日	東奥日報社	棟方志功展 多彩な活動を紹介	
7	2023 年 7 月 29 日	土	陸奥新報社	「メイキング・オブ・ムナカタ」29 日、県美で開幕 志功、最大規模の回顧展	
8	2023 年 7 月 29 日	土	東奥日報社	棟方志功生誕 120 年記念展覧会 希代の芸術家 全容迫る	
9	2023 年 7 月 30 日	日	東奥日報社	大作一堂 志功に迫る 県美きょうから 生誕 120 年で企画展	
10	2023 年 8 月 9 日	水	東奥日報社	志功の晩年に「胸が痛い」企画展開幕 孫・石井さん 裏話披露	最大規模の回顧展 イメージの形成過程紹介
11	2023 年 8 月 9 日	水	朝日新聞社	メイキング・オブ・ムナカタ 生誕 120 年 棟方志功展①	
12	2023 年 8 月 16 日	水	東奥日報社	棟方志功生誕 120 年 創作の軌跡 県立美術館 過去最大規模 250 点展示	福光で描いた「華厳松」 あふれる躍動感と気迫
13	2023 年 8 月 18 日	金	河北新報社	メイキング・オブ・ムナカタ 生誕 120 年 棟方志功展②	
14	2023 年 8 月 18 日	金	読売新聞社	棟方志功展 1 万人来場 開幕 19 日で達成	
15	2023 年 8 月 18 日	金	東奥日報社	棟方志功展 1 万人到達	
16	2023 年 8 月 23 日	水	東奥日報社	志功企画展 1 万人突破	最大の板画「大世界の柵」 筆で描かれたような勢い
17	2023 年 8 月 26 日	土	東奥日報社	メイキング・オブ・ムナカタ 生誕 120 年棟方志功展③	
18	2023 年 8 月 30 日	水	東奥日報社	志功の放熱「見習いたい」 県美でトークショー	文学に関わる仕事 想像力と巧みな演出
19	2023 年 9 月 5 日	火	デーリー東北新聞社	失った楽譜 50 年ぶり復元 棟方志功の詩に 曲を付けた内田勝彦さん	
20	2023 年 9 月 6 日	水	東奥日報社	メイキング・オブ・ムナカタ 生誕 120 年棟方志功展④	破天荒なまでの生命力 自分自身を描き、語る
21	2023 年 9 月 8 日	金	東奥日報社	鷺田めるろのあおもりアート探訪 棟方志功という芸術家像	
22	2023 年 9 月 13 日	水	東奥日報社	棟方志功展に 2 万人	
23	2023 年 9 月 15 日	金	赤旗	棟方志功生誕 120 年 伝統や民族の上に革新的な表現創出	
24	2023 年 9 月 16 日	土	日本経済新聞社	世界のムナカタの成り立ち	

No.	日 付	曜日	社 名	番 組 名	備 考
25	2023 年 9 月 18 日	月	読売新聞社	志功ゆかりの地 首長集結 青森でサミット 東京や富山、岡山功績振り返る	
26	2023 年 9 月 18 日	月	陸奥新報社	志功作品 街づくりにも 生誕 120 年 ゆかりの地から 集結 青森サミットで共同宣言	
27	2023 年 9 月 18 日	月	東奥日報社	志功を核に地域づくり ゆかりの 5 自治体 7 年ぶり青森でサミット	
28	2023 年 9 月 22 日	金	東奥日報社	志功展 3 万人突破 「研究、顕彰、後世につなげる」	

④ プレスリリース資料の配付による県内外メディアへの情報発信

・県内外メディア各社へ情報提供し、雑誌や情報誌、フリーペーパー等に掲載されたほか、美術系雑誌や県内外情報系のウェブ（雑誌）

ウェブサイトへ掲載された。

No.	日 付	曜日	社 名	種 別	媒 体 名	内 容
1	2022 年 12 月 20 日	火	生活の友社	美術	美術の窓 12	「展覧会ダイジェスト 日本全国 200」 青森巡回スケジュール掲載
2	2022 年 11 月 25 日	金	芸術新潮編集部	美術	芸術新潮 12 月号	生誕 120 周年棟方志功展（巡回）
3	2023 年 1 月 30 日	月	ぴあ株式会社	美術	美術展ぴあ 2023	生誕 120 周年棟方志功展（巡回）、 美術館マップ
4	2023 年 6 月 1 日	木	日本民藝協会	美術	『民藝』6 月号	展覧会 項目
5	2023 年 6 月 25 日	日	川口印刷工業	経済	Rakra7・8 月号	絶対行くべき 2023 アート旅青森、
6	2023 年 6 月 28 日	水	日経 BP	経済	日経トレンディ 8 月号臨時増刊 「日経おとなの OFF」	展覧会 項目
7	2023 年 7 月 20 日	木	青森大学	ライフスタイル	はっけん！新青森第 45 号	棟方志功 生誕 120 年記念の回顧展
8	2023 年 7 月 28 日	金	ワイエス株式会社 ミッド事業部	ライフスタイル	クリッパー 8 月号	イベントカレンダー & インフォメーション
9	2023 年 8 月 1 日	火	株式会社 Qvou	経済	月刊のむシリカ 8 月号	大人のたしなみ、美術館便り
10	2023 年 8 月 1 日	火	ものの芽舎	ライフスタイル	季刊あおもりのき第 14 号	ギャラリーイベントスケジュール
11	2023 年 8 月 20 日	日	青森大学	ライフスタイル	はっけん！新青森第 46 号	「世界のムナカタ」多彩な活動紹介
12	2023 年 8 月 28 日	月	東洋アドシステム	ライフスタイル	岩手アキュート 9 月号	アート&展覧会
13	2023 年 9 月 1 日	金	小学館	美術	美術和楽 10・11 月号 （創刊 22 周年記念号）	生誕 120 年世界のムナカタ！ 棟方志功最強伝説 12

(web)

No.	日 付	曜日	社 名	種別	媒 体 名	内 容
1	2023 年 1 月 19 日	木	(株)アートビート	美術	Tokyo Art Beat	青森県立美術館で奈良美智の個展を 10 月から開催。 夏には生誕 120 年を迎えた棟方志功の回顧展も
2	2023 年 7 月 2 日	日	CCC メディアハウス	美術	Pen オンライン	「Pen」が選んだ、2023 年下半年 「必見の展覧会」5 選
3	2023 年 7 月 8 日	土	(株) KAMADO	美術	KAMADO ジャパン	展覧会情報
4	2023 年 7 月 14 日	金	(株) FAITH	美術	アートアジェンダ	展覧会情報
5	2023 年 7 月 21 日	金	読売新聞社	美術	美術展ナビ	展示会情報
6	2023 年 8 月 4 日	金	ミュージアムマン	美術	Web メディア「スフマート」	展覧会情報
7	2023 年 8 月 16 日	水	マガジンハウス	美術	コロカル	生誕 120 年版画家・棟方志功の全貌に迫る 展覧会
8	2023 年 8 月 25 日	金	ケイティコム	美術	Katycom	展覧会情報
9	2023 年 9 月 4 日	月	CCC メディアハウス	美術	Pen オンライン	“あもり犬”、棟方志功記念館、純喫茶… 気軽に巡る青森市内のスポット 5 選

- ⑤ 県立美術館ホームページ、Instagram、Facebook、Twitter、YouTube など
- ・美術館ホームページの基本情報及び関連イベントの掲載とブログによる情報発信を実施した。
 - ・県立美術館の Instagram、Facebook、Twitter を活用し、即時に情報発信を行った。
- 2) そのほかの主な広報・宣伝
- ① 青森県地元紙、東北地方紙、中央紙等へのプレスリリース
- ② ポスター、チラシの設置、配布
- ・JR 青森駅・新青森駅構内（JR 管理スペース）
 - ・駅ビル（新青森駅旬味館、ラビナ、アブリーズ）
 - ・青森空港総合案内所、レンタカー店（青森空港・青森駅・新青森駅）
 - ・函館駅前観光案内所など函館・道南主要集客施設、高校・大学等のほか、函館市内みちのく銀行支店でのポスター等設置
 - ・アスパム等青森市内主要観光施設、主要宿泊施設等での設置・配布
 - ・青森市タクシー協会の協力による市内タクシー車内でのチラシ設置
 - ・城ヶ倉観光グループの協力（慈恵会病院、レストラン、ホテル等）
- ③ 前売券、プレミアムチケットの販売
- ・前売券を美術館総合案内及び棟方志功記念館で一般及び高大生合計 100 枚を販売したほか、ローソンチケットにおいても前売券を 185 枚販売。
 - ・2024 年 3 月末で閉館予定の棟方志功記念館で同時期に開催していた企画展とセット観覧が出来るプレミアムチケットを青森県立美術館と記念館の双方で販売。棟方志功ゆかりの浅虫温泉椿館においても宿泊プランとのセット券として取り扱い、589 枚を販売した。
- ④ NHK 青森放送局の企画により、ナイトミュージアム・県庁等での二菩薩釈迦十大弟子ライトアップを実施、SNS 等で話題となった。
- ⑤ 同じく NHK 青森放送局の企画により、ねぶた期間中、青森市新町の「新町キューブ」にて棟方志功を紹介する展示ブースを設置し PR を実施した。
- ⑥ 企画展を PR する大型スタンドバナーを制作し、新青森駅 2 階ホールに設置。
- ⑦ 青森県観光国際交流機構の企画による、志功を巡る貸切タクシープラン造成。

(4) その他の取組

1) 長島小学校特別授業

棟方志功の母校である青森市長島小学校において、棟方志功の偉業を振り返り、後世に継承していくための取り組みの一環として、青森県立美術館及び一般財団法人棟方志功記念館の学芸員による、青森市立長島小学校の児童を対象にした特別授業を 3 回にわたり開催した。

開催日：①令和 5 年 1 月 27 日、②2 月 6 日、③2 月 14 日

対 象：長島小学校 3・4 学年

共 催：青森市教育委員会、（一財）棟方志功記念館、青森県立美

術館

場 所：長島小学校、青森県立美術館

2) 棟方志功記念館「棟方志功生誕 120 年特別展 友情と信頼の障屏画」

志功生誕 120 年を記念して、棟方志功記念館にて開催された。障屏画を主とした作品を通して、棟方の多彩な芸術に影響を及ぼした友人や支援者との親交を紹介。

美術館企画展と連携した広報展開やプレミアムチケットの相互販売を行った。

会 期：令和 5 年 6 月 20 日（火）－9 月 18 日（月・祝）

場 所：棟方志功記念館

3) 棟方志功生誕 120 年記念「棟方志功サミット in 青森」

棟方志功ゆかりの 5 都市（青森市、東京都中野区、南砺市、東京都杉並区、倉敷市）による「棟方志功サミット」が本展覧会中に青森県立美術館で開催された。

開催日：令和 5 年 9 月 17 日（日）

場 所：青森県立美術館シアター

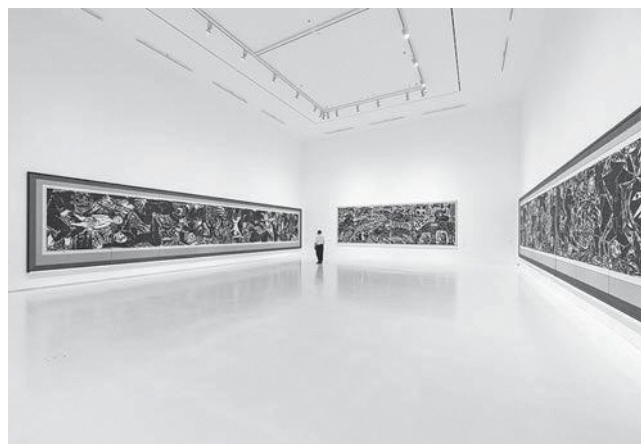
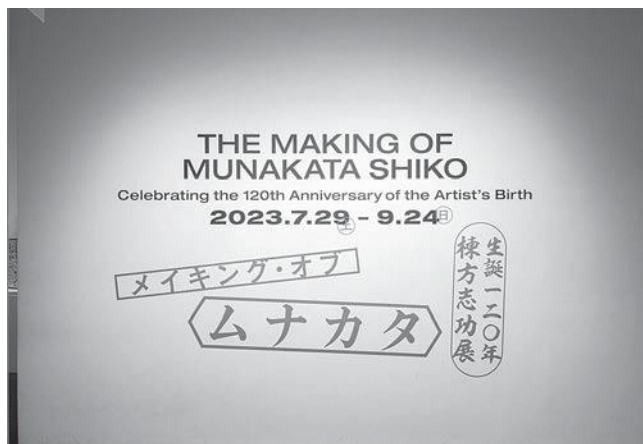
4) 南砺市立福光美術館との協定覚書の締結

青森県立美術館と棟方ゆかりの南砺市立福光美術館が、棟方志功生誕 120 年を契機に、棟方志功の生涯や作品に関する調査研究、作品や資料の展示、業績を広く伝えるための教育普及等の顕彰について、将来にわたって協力して推進することを目的として、「棟方志功顕彰の連携に関する覚書」を締結した。

締結日：令和 5 年 9 月 17 日（日）



ポスター



展示風景
撮影：小山田邦哉

出品作品

※作品サイズは原則として高さ × 横 × 奥行、又は高さ × 直径の順序で表記。
※出品リストは展示の各章毎に作品をまとめてある。

プロローグ 出発地・青森

《八甲田山麓図》
1924 年
油彩・板
23.5×33.0cm
青森県立美術館

《雪国風景図》
1924 年
油彩・板
23.0×32.0cm
青森県立美術館

第 1 章 東京の青森人

《昭和 3 年年賀状》
1927 年
多色木版・紙／葉書
14.2×8.9cm
青森県立美術館

《雑園習作》
1928 年
油彩・キャンバス
38.0×45.5cm
棟方志功記念館

《東京弁稽古の図》
1961 年
墨・紙
18.0×24.0cm
棟方志功記念館

《星座の花嫁》(10 点組)
1928-30 年 (摺 1931 年)
多色木版・紙
(6.2~21.3)×(8.0~22.0)cm
南砺市立福光美術館

《『シラノ』劇版画》(3 点組)
1931 年
多色木版・紙
各 18.0×11.8cm
青森県立美術館

《歌舞伎版画勸進帳》(3 点組)
1931 年
多色木版・紙
(6.2~31.3)×(8.6~22.0)cm
各 13.5×9.0cm
青森県立美術館

《市民体操》
1936 年
木版・紙
39.2×39.2cm
青森県立美術館

《十和田・奥入瀬 C》
1932 年
多色木版・紙
12.0×16.0cm
棟方志功記念館

《亀田・長谷川邸の裏庭》
1932 年
多色木版・紙
16.0×21.4cm
棟方志功記念館

《亀田・長谷川邸の内園》
1932 年
多色木版・紙
16.0×21.4cm
棟方志功記念館

《桃真盛り》(2 点組)
1933 年
多色木版・紙
各 16.8×23.1cm
青森県立美術館

《萬葉譜》(8 点組)
1935 年
木版・紙
各 42.9×39.6cm
棟方志功記念館

《大和し美し》(22 点組)
1936 年
木版・紙／卷子 2 巻
各 26.5×(21.3~41.7)cm
日本民藝館

《大和し美し「倭建命の櫛」》
1936 年 (1936-37 年頃摺)
木版・彩色・紙
24.2×34.8cm
棟方志功記念館

《大和し美し「倭建命の櫛」》
1936 年 (1938 年摺)
木版・彩色・紙
24.2×34.8cm
日本民藝館

《華嚴譜 (旧刻)》(3 点組)
1936 年
木版・紙
各 29.0×37.5cm
日本民藝館

《華嚴譜》(23 点組)
1936 年 (1938 年摺)
木版・紙
各 29.0×37.5cm
棟方志功記念館

《空海頌》(54 点組)
1937 年
木版・拓本摺・紙／六曲一隻屏風
各 27.3×20.5cm
棟方志功記念館

《観音経受茶羅》(35 点組より 4 点)
1938 年
木版・彩色・紙／軸装
各 41.5×53.0cm
日本民藝館

《夢応の鯉魚版画櫛》
1940 年
木版・拓本摺・紙
各 31.8×31.8cm
棟方志功記念館

《善知鳥版画巻》(31 点組)
1938 年
木版・紙／卷子 4 巻
各 22.5×31.0cm
棟方志功記念館

《勝鬘譜善知鳥版画曼茶羅》(9 点組)
1938 年
木版・紙
各 24.0×28.0cm
青森県立美術館

《東北経鬼門譜》
1937 年
木版・紙／六曲一双屏風
全 121.5×996.5cm
日本民藝館

《二菩薩釈迦十大弟子》(12 点組)
1939 年
木版・紙／軸装
各 101.5×38.0cm
日本民藝館

《二菩薩釈迦十大弟子》(12 点組)
1939 年 (1948 年改刻)
木版・紙／六曲一双屏風
各 101.5×38.0cm
東京国立近代美術館

《門舞男神人頌》(16 点組)
1941 年
木版・紙
各 119.2×41.0cm
個人蔵

《幾利壽當頌耶蘇十二使徒屏風》(12 点組)
1953 年
木版・紙／四曲一隻屏風
全 303.0×180.0cm
五島美術館

《基督の櫛 (茶掛十二月板画櫛・十二月)》
1956 年
木版・紙／軸装 3 幅
各 61.0×27.5cm
日本民藝館

《灼員大聖天不動明王尊像》
1942 年
彩色・紙／軸装
67.5×65.0cm
個人蔵

《神祭板畫巻》(17 点組より 4 点)
1943 年
木版・紙
各 31.0×40.0cm
個人蔵

《郵便葉書「貯蓄」》
1944 年
印刷・紙／葉書
14.1×9.1cm
個人蔵

第 2 章 暮らし・信仰・風土 ——富山・福光

《慈潤》
1945 年
紙・墨／軸装
130.0×68.0cm
日本民藝館

《無事》
1947 年
紙・墨
53.0×101.0cm
南砺市立福光美術館

《華嚴松》
1944 年
彩色・紙／襖 6 面
170.0×598.0cm
躑躅山光徳寺

《稲電・牡丹・芍薬図》
1944 年
彩色・紙／襖 6 面 (《華嚴松》の裏面)
170.0×598.0cm
躑躅山光徳寺

《女人観世音板画櫛》(12 点組)
1949 年
木版・紙／軸装 3 幅
各 29.5×45.0cm
日本民藝館

《立山連峰を望む海岸風景》
1950 年頃
油彩・キャンバス
70.5×83.3cm
NHK 富山放送局 (南砺市立福光美術館寄託)

《群鯉魚図》
1944 年頃
彩色・紙／軸装
134.8×33.5cm
個人蔵

《法林經水焰卷》
1945 年
彩色・紙／卷子 2 巻
各 22.0×642.0cm
個人蔵

《四季福光風景》
1953 年
彩色・紙／軸装 4 幅
各 65.5×34.0cm
南砺市立福光美術館

《火の願ひ》
1946 年
木版・彩色・紙／冊子
26.0×18.8×1.0cm
青森県立美術館

《挿頭花板畫集》(14 点組)
1948 年
木版・彩色・紙
各 22.5×17.5cm
青森県立美術館

《瞞着川板畫卷》(38 点組)
1950 年
木版・彩色・紙
各 23.0×15.3cm
個人蔵

《鐘溪頌》(24 点組)
1945 年
木版・彩色・紙／六曲一隻屏風
各 45.5×32.7cm
日本民藝館

《道祖土頌》(12 点組)
1950 年
木版・紙／二曲一隻屏風
各 60.5×27.0cm
棟方志功記念館

《柳仰板画柵屏風》(3 点組)
1951 年
木版・紙／三曲一隻屏風
116.3×291.0cm
日本民藝館

《運命頌》(4 点組)
1950 年
木版・紙
各 87.5×88.5cm
南砺市立福光美術館

《歡喜頌》
1952 年
木版・紙／六曲一隻屏風
102.0×314.0cm
棟方志功記念館

第 3 章 東京／青森の国際人

《不来方板画柵》(2 点組)
1952 年
木版・彩色・紙／軸装双幅
各 22.0×29.5cm
日本民藝館

《いろは板画柵》(48 点組)
1952 年
木版・彩色・紙／六曲一双屏風
各 22.8×32.8cm
日本民藝館

《流離抄》(32 点組)
1953 年
木版・彩色・紙／四曲一双屏風
各 31.0×26.5cm
棟方志功記念館

《鍵板画柵》(59 点組)
1956 年
木版・紙／折本 2 冊
30.3×37.8×4.5cm (折本 1)
30.3×37.8×4.2 cm (折本 2)
青森県立美術館

《谷崎歌々板画柵》(24 点組)
1956 年
木版・彩色・紙／六曲一双屏風
各 33.4×31.8cm
棟方志功記念館

《追開心経の柵》(16 点組)
1957 年
木版・紙／四曲一双屏風
各 46.9×46.9cm
日本民藝館

《弁財天妃の柵》
1965 年 (1974 年摺)
木版・彩色・紙
25.5×19.8cm
棟方志功記念館

《湧然する女者達々》(2 点組)
1953 年 (1955 年摺)
木版・紙／二曲一隻屏風
各 103×115.4cm
公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム

《宇宙頌〈四神板経天井画柵〉》(2 点組)
1949 年 (1953 年改刻・1959 年摺)
木版・彩色・紙／軸装双幅
各 106.2×99.8cm
棟方志功記念館

《華狩頌》
1954 年
木版・紙
132.0×158.0cm
棟方志功記念館

《柳緑花紅頌》(2 点組)
1995 年
木版・紙／六曲一隻屏風
各 46.5×46.7cm
棟方志功記念館

《群生の柵 (2 点組)》
1957 年 (1960 年摺)
木版・紙／八曲一双屏風
各 140.8×373.0cm
棟方志功記念館

《龍原頌 (飛流の柵)》(2 点組)
1958 年
木版・紙／二曲一双屏風
各 132.8×183.5cm
棟方志功記念館

《ハドソン河自板像の柵》
1959 年
木版・紙
40.3×30.0cm
棟方志功記念館

《ミシシッピー河自板像の柵》
1965 年 (1971 年摺)
多色木版・彩色・紙
29.3×25.5cm
棟方志功記念館

《ホイットマン詩集抜粋の柵》(9 点組)
1959 年
木版・彩色・紙
各 30.5×29.5cm
棟方志功記念館

《摩奈那発門多に建立すの柵》
1959 年
木版・紙
109.5×148.5cm
青森県立美術館

《賜顔の柵》
1964 年
木版・紙
121×94.7cm
青森県立美術館

《審判の柵》
1967 年
版・紙／パネル装
186.5×110.0cm
棟方志功記念館

《驚嘆の柵》
1960 年
木版・紙
135.0×255.0cm
青森県立美術館

《大世界の柵 (乾—人類から神々へ)》
1969 年 (1970 年摺)
木版・紙
175.4×1284.0cm
棟方志功記念館

《大世界の柵 (坤—人類から神々へ)》
1963 年 (1964 年摺)
木版・紙
175.4×1284.0cm
棟方志功記念館

《花矢の柵》
1961 年
木版・彩色・紙
215.0×688.0cm
青森県立美術館

《誓刻の柵》
1967 年 (1974 年摺)
木版・紙
47.0×23.0cm
棟方志功記念館

《道標の柵》
1963 年 (1964 年改刻・1964 年摺)
木版・彩色・紙
46.8×76.7cm
棟方志功記念館

《恐山の柵》
1963 年 (1964 年摺)
木版・彩色・紙
70.2×91.0cm
棟方志功記念館

《東北風の柵》
1969 年
木版・彩色・紙
65.5×86.0cm
棟方志功記念館

《津軽海峡の柵》
1965 年
木版・紙
103.6×129.0cm
棟方志功記念館

《津軽味三味線の柵》(4 点組)
1967 年
木版・紙
各 55.0×32.3cm
棟方志功記念館

《飛神の柵》
1968 年
木版・彩色・紙
105.0×140.0cm
棟方志功記念館

《青森風絵》(2 点組)
1971 年
彩色・紙
各 60.0×43.2cm
棟方志功記念館

《富嶽頌》(26 点組)
1965 年
木版・彩色・紙／六曲一双屏風
各 172.0×606.0cm (屏風)
棟方志功記念館

《東海道棟方板画》(62 点組から 8 点)
1963-64 年 (1964 年摺)
木版・彩色・紙
26.0×27.0/48.2×38.1/36.84×45.5cm
棟方志功記念館

《庭濃の柵》 1972 年 木版・紙／八曲一隻屏風 45.0×687.0cm 棟方志功記念館	《ロートレックと自画像》 1967 年 木版・紙 35.7×29.1cm 青森県立美術館	《河口安三『源為朝』》 1935 年 5 月 21.0×15.9×1.0cm 個人蔵	《『青森版画』創刊号〈表紙「仏婦裸体」ほか〉》 1939 年 27.5×19.8cm 青森県立郷土館
《ゴッホの青女図 (A)》 1967 年 優画・彩色・紙 23.0×24.0cm 棟方志功記念館	《脱男の柵》 1967 年 木版・紙 9.5×7.3cm 棟方志功記念館	《『現代童話集』児童文學研究會編》 1934 年 7 月 19.7×13.6×2.3cm 個人蔵	《『工藝』第 118 号》 1947 年 9 月 22.0×15.2×0.5cm 個人蔵
《オーベールのゴッホ兄弟墓の柵》 1959 年 木版・紙 13.5×15.0cm 棟方志功記念館	《黒板自板像の柵》 1971 年 木版・紙 37.0 × 25.0 cm 棟方志功記念館	《野村愛正『虹の冠』》 1932 年 12 月 15.8×10.9×1.0cm 個人蔵	《『工藝』第 101 号》 1939 年 5 月 22×15.5×1cm 個人蔵
《ニューヨーク近代美術館図》 1967 年 彩色・紙 34.5 × 34.0 cm 棟方志功記念館	《沢瀉風の柵》 1970 年 木版・彩色・紙 20.1×14.4cm 棟方志功記念館	《加藤朝鳥（アンナ・シュエエル原作）『黒馬物語』》 1932 年 12 月 15.8×10.8×1.4cm 個人蔵	《『工藝』第 71 号》 1936 年 11 月 22.2×15.3×0.8cm 個人蔵
《大印度の花の柵》 1972 年 木版・紙 36.4×31.0cm 青森県立美術館	《くりぐりの柵》 1972 年 木版・紙 7.2×4.9cm 青森県立美術館	《楠山正雄『鏡の國－アリス物語』》 1933 年 1 月 15.2×10.5×1.0cm 個人蔵	《『月刊民藝』第 3 巻第 1・2 合併号 通巻第 22・23 号》 1941 年 2 月 21.0×15.0×0.5cm 個人蔵
《捨身飼虎の柵》 1974 年 木版・金彩・紙 137.0 × 111.0 cm 棟方志功記念館	《杓アゴの柵》 1972 年 木版・紙 2.5×2.5cm 青森県立美術館	《『アサヒコドモノカイ コドモの本』第 3 巻第 6 号》 1933 年 6 月 25.8×19.5cm 個人蔵	《『出雲の紙』池田敏雄編》 1952 年 5 月 23.0×16.5×3.0cm 個人蔵
《光額の柵》 1971 年 木版・紙 7.0×6.0cm 棟方志功記念館	《長頬の柵》 1972 年 木版・紙 5.1×3.9cm 青森県立美術館	《『児童文学』第 2 冊》 1984 年 8 月（初版 1932 年 3 月） 22.5×16.3×2.1cm 個人蔵	《水谷良一『赤繪の系譜』》 1948 年 9 月 22.0×15.3×1.0cm 個人蔵
第 4 章 生き続けるムナカタ・イメージ	《筆くわいの柵》 1972 年 木版・紙 9.0×8.0cm 青森県立美術館	《『ソルゲ－ネフ（菊池武英訳）『時計』》 1937 年 4 月 21.0×15.4×1.0cm 個人蔵	《式場隆三郎『脳室反射鏡』》 1939 年 4 月 23.2×15.5×3.4cm（箱寸） 個人蔵
《雑華山房主人像図》 1942 年 油彩・板 31.5×24.0cm 青森県立美術館	《武奈加多胡慶志図》 1972 年 彩色・紙 40.5×22.5cm 棟方志功記念館	《堀口大夢『ヴェニウス生誕』》 1934 年 9 月 22.0×15.9×1.5 cm（箱寸） 個人蔵	《ステファン・ボラチェック（式場隆三郎訳）『炎と色』》 1955 年 11 月 22.0×13.0×1.0cm 個人蔵
《コスモス自板像の柵》 1959 年 木版・紙 30.3×20.0cm 青森県立美術館	《自画像》 1964 年 油彩・キャンバス 33.0×24.3cm 公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム	《『版藝術』第 12 号 棟方版画集》 1933 年 29.3×21.3cm 青森県立美術館	《蔵原伸二郎『詩集 東洋の満月』》 1939 年 3 月 22.9×15.4×2.0cm 個人蔵
《美魅寿玖と自画像》 1967 年 リトグラフ・紙 32.9×23.9cm 青森県立美術館	《欽喜自板像・第九としての柵》 1963 年（1974 年摺） 木版・彩色・紙 47.7×37.5cm 棟方志功記念館	《版画誌『版書』第 2 号「夏泊・夏山」》 1933 年 26.5×19.8cm 青森県立美術館	《保田興重郎『改版 日本の橋』》 1939 年 9 月 18.6×12.8×2.0cm（中寸） 個人蔵
	棟方志功装画本	《版画誌『陸奥駒』第 17 号「蟹々集まる集まる」》 1935 年 24.7×18.6cm 青森県立郷土館	《伊藤佐喜雄『花の宴』（新ぐろりあ叢書）》 1939 年 10 月 19.6×13.4×1.5cm 個人蔵
	《詩文雑誌『星座圖』第 1 巻第 6 号》 1928 年 23.0×19.8 cm 個人蔵	《『十銭版画 木葉づくし』》 1934 年 9.7×10.0cm 青森県立美術館	《山岸外史『芥川龍之介』（新ぐろりあ叢書）》 1940 年 3 月 19.1×12.9×2.0cm 個人蔵

《木山捷平『昔野』（新ぐろりあ叢書）》 1940年7月 19.1×12.9×2.0cm 個人蔵	個人蔵 《『辛夷』第26巻第7号（8月号）》 1950年7月 20.9×14.7×0.1cm 個人蔵	《谷崎潤一郎『鍵』連載第七回『中央公論』第71年第11号》 1956年10月 21.0×14.8×1.7cm 個人蔵	《『東宝現代劇春陽特別公演 鍵』パンフレット》 1978年3月 27.2×20.8×0.4cm 個人蔵
《浅野晃『楠木正成』（新ぐろりあ叢書）》 1940年12月 18.9×12.9×1.0cm 個人蔵	《『辛夷』第26巻第12号（1月号）》 1950年12月 20.9×14.7×0.1cm 個人蔵	《山崎豊子『女系家族』（上）》 1963年4月 20.0×13.9×2.5cm 個人蔵	《『民芸の仲間』第38号》 1958年5月 25.7×18.2×0.3cm 個人蔵
《影山正治『歌集 みたみわれ』（新ぐろりあ叢書）》 1941年4月 18.2×12.8×1.2cm 個人蔵	《『貌』第8号》 1950年4月 12.6×17.8×0.1cm 個人蔵	《山崎豊子『花のれん』》 1958年6月 20.0×13.9×2.5cm 個人蔵	《横田利平『ビキニの灰』（日本歌人叢書）》 1954年8月 26.0×18.6×0.5cm 個人蔵
《堀場正夫『遠征と詩歌』（新ぐろりあ叢書）》 1942年9月 18.2×12.7×1.4cm 個人蔵	《『貌』第11号》 1950年10月 12.6×17.8×0.1cm 個人蔵	《柴田錬三郎『新編 三国志』》 1958年4月 18.7×13.4×1.8cm 個人蔵	《築波善夫『研究と完成—中学政治経済社会』》 1955年4月 21.0×15.0×0.7cm 個人蔵
《田中武彦『歌集 瑠璃』（新ぐろりあ叢書）》 1942年2月 18.2×12.8×1.0cm 個人蔵	《『貌』第19号》 1952年5月 12.6×17.8×0.1cm 個人蔵	《松本清張『大奥婦女記』》 1957年3月 17.3×11.5×1.3cm 個人蔵	《『研究と完成—中学数学』奈良女子大学付属 高校中学校数学研究会》 1950年9月 21.0×15.0×1.2cm 個人蔵
《保田與重郎『民族と文藝』（ぐろりあ文庫）》 1941年9月 18.5×13.0×1.3cm 個人蔵	《『医王』第3巻第3号》 1958年3月 21.2×15.1×0.1cm 個人蔵	《今東光『悪妻』》 1958年11月 20.0×13.7×2.3cm（箱寸） 個人蔵	《中曾根康弘『日本の主張』》 1954年3月 18.1×13.0×1.8cm 個人蔵
《保田與重郎『近代の終焉』》 1941年12月 21.6×15.4×1.8cm 個人蔵	《『医王』第3巻第11号》 1958年11月 21.2×15.1×0.1cm 個人蔵	《獅子文六『バナナ』》 1959年12月 20.2×13.8×2.7cm 個人蔵	《大沢久明・鈴木清・塩崎要祐『農民運動の反省』》 1956年11月 18.2×12.8×0.2cm 個人蔵
《箕浦克己『歌集 初年兵』》 1944年9月 18.1×12.8×1.0cm 個人蔵	《世阿彌元清『善知鳥』（英訳本）》 1947年10月 20.8×14.4×0.7cm 個人蔵	《中野繁雄『詩集 象形文字』》 1955年1月 21.1×16.2×0.7cm 個人蔵	《川勝堅一『日本橋の奇蹟』》 1957年11月 18.8×13.6×2.5cm 個人蔵
《中野繁雄『戦陣詩集 總攻撃前夜』》 1944年9月 21.0×13.8×2.5cm 個人蔵	《宮澤賢治『四又の百合』》 1948年10月 21.0×14.8×1.2cm 個人蔵	《永田耕衣『吹毛集』》 1955年10月 18.6×13.0×1.0cm（中寸） 個人蔵	《高橋義孝『隨筆 日本再発見』》 1963年3月 18.8×13.6×2.0cm 個人蔵
《横山美智子『生活の目標』》 1941年4月 19.0×13.8×2.5cm 個人蔵	《花岡大學『花ぬすつと』》 1949年8月 20.8×15.0×1.2cm 個人蔵	《『文藝』第13巻第20号（太宰治読本）》 1956年12月 21.2×15.1×1.5cm 個人蔵	《保田與重郎『日本浪漫派の時代』》 1969年12月 22.8×15.6×3.5cm 個人蔵
《『辛夷』第22巻第8号（8月号）》 1946年8月 20.7×15.1×0.1cm 個人蔵	《谷崎潤一郎『瘋癲老人日記』》 1962年5月 23.4×16.0×2.2cm 個人蔵	《『文藝春秋』第32巻第11号（臨時増刊、昭和メモ）》 1954年7月 19.1×14.9×1.5cm 個人蔵	《岡田甫『艶句』》 1962年1月 18.8×13.8×2.2cm 個人蔵
《『辛夷』第26巻第1号（2月号）》 1950年2月 20.9×14.7×0.1cm 個人蔵	《谷崎潤一郎『鍵』（イタリア語版）》 1963年 20.5×12.5×2.0cm 個人蔵	《『宝石』第12巻第16号 江戸川乱歩編集》 1957年12月 20.8×14.6×1.5cm 個人蔵	《田村泰次郎『女拓』》 1964年12月 20.4×14.0×2.0cm 個人蔵
《『辛夷』第26巻第3号（4月号）》 1950年3月 20.9×14.7×0.1cm 個人蔵	《谷崎潤一郎『鍵』》 1956年12月 23.5×16.0×2.2cm（箱寸） 個人蔵	《中島雅樂之都『禅と音楽』》 1961年 18.9×13.0×1.7cm 個人蔵	《『日本カメラ』第106号（増刊）》 1958年1月 25.8×18.3×0.5cm 個人蔵
《『辛夷』第26巻第5号（6月号）》 1950年5月 20.9×14.7×0.1cm			

《『新論』第1巻第1号（創刊号）》 1955年7月 20.8×14.9×1.0cm 個人蔵	《『板歎異』》 1954年5月 20×14.0×2cm 個人蔵	《版木 富樓那／須菩提》 93.0×30.5cm 棟方志功記念館	個人蔵 《『岩波写真文庫 187 東海道五十三次』》 1958年 18.2×13×0.5cm 個人蔵
《『新論』第1巻第2号》 1955年8月 20.8×14.9×1.0cm 個人蔵	《『板響神』》 1952年11月 18.8×13.8×2.0cm 個人蔵	《柳宗悦 基督の柵 表具指示書》 21.5×15.0cm 日本民藝館	《徳力富吉郎『東海道 昔と今』》 14.7×10.6×1.0cm 個人蔵
《『週刊公論』第1巻第1号（11月3日号・通巻第1号）》 1959年11月 25.8×18.2×0.5cm 個人蔵	《『板愛染』》 1949年5月 26×18.8×1.2cm 個人蔵	《雑華堂繪所（表札）》 1945年 44.0×12.0cm 個人蔵	《眼鏡》 幅 14.5× 眼鏡径 5.5cm 個人蔵
《『週刊公論』第1巻第2号（11月10日号・通巻第2号）》 1959年11月 25.8×18.2×0.5cm 個人蔵	《『板勁』》 1944年12月 26.3×18.5×1.5cm 個人蔵	《鯉雨画斎築成寄悦》 1947年 60.5×155.0cm 南砺市立福光美術館	《折畳眼鏡》 幅 13× 眼鏡径 5cm 個人蔵
《『週刊公論』第1巻第5号（12月1日号・通巻第5号）》 1959年12月 25.8×18.2×0.5cm 個人蔵	《『板散華』》 1942年11月 19.3×13.7×2.0cm 個人蔵	《版木 巴文の柵／緋の柵》 61.0×28.5cm 棟方志功記念館	《双眼鏡》 10.5×13.5×6cm 個人蔵
《『週刊公論』第1巻第9号（12月29日号・通巻第9号）》 1959年12月 25.8×18.2×0.5cm 個人蔵	《『わだばゴッホになる』》 1975年12月 22.5×15.9×3.0cm 個人蔵	《版木 夜事の柵》 12.9×16.0cm 棟方志功記念館	《ベレー帽》 23.5×21.5×2cm 個人蔵
《高木恭造『まるめろ』》 1953年5月 17.0×15.0×0.5cm 個人蔵	《『板極道』》 1972年4月 23.5×16.2×3.0cm 個人蔵	《版木 横体の柵》 12.9×16.0cm 棟方志功記念館	《オリンパスペン EE》 7×11.5×6.5cm 個人蔵
《木村繁編・作曲『津軽の旋律』（第1集）》 1969年11月 21.5×20.0×1.5cm 個人蔵	《『板畫の道』》 1956年11月 19.5×13.4×2.3cm 個人蔵	《版木 表題の柵》 18.4×18.9cm 棟方志功記念館	《棟方撮影スナップ 鎌倉自邸庭（リュウノヒゲ）》 1965年頃 7.7×11.2cm 撮影：棟方志功
《『棟方志功畫集』》 1942年11月 26.5×18.8×1.5cm 個人蔵	《『板畫の肌』》 1956年10月 17.2×10.6×0.8cm 個人蔵	《切手シート・放送 50 年記念切手》 1975年 22.3×14.0cm 個人蔵	《棟方撮影スナップ 鎌倉自邸一階茶室》 1965年頃 7.7×11.2cm 撮影：棟方志功
《『棟方志功板畫集』》 1947年8月 29.5×22.4×2.3cm 個人蔵	《『板畫の話』》 1954年12月 18.5×13.7×1.7cm 個人蔵	《切手シート・近代美術シリーズ第 14 集「弁財天妃の柵」》 1982年 23.0×19.0cm 個人蔵	《彫刻刀》 個人蔵
《『湧然する女者達々』》 1956年1月 23.4×17.0×2.4cm 個人蔵	《『板畫の技法』》 1955年12月 18.5×13.2×1.5cm 個人蔵	《勝烈庵 包装紙、紙バック、手提げ袋》 《日の出屋製菓 包装紙 2 種》 《亀井堂本家 包装紙、手提げ袋 2 種》	《筆》 個人蔵
《『流離抄板画巻』》 1954年10月 23.5×17.0×2cm 個人蔵	《『ペンすなっぶめい作展作品集』オリンパス光学工業編》 1963年1月 20.0×20.6×0.7cm 個人蔵	《切手シート・ふるさと切手（愛知県）「大和し美し」と佐藤一英（愛知県）》 1999年 17.6×12.8cm 個人蔵	《第 7 回青森県下小・中学生版画コンクール 入賞作品集 第 6 集》 1962年3月 17.5×19.0×0.2cm 棟方志功記念館
《『板歡喜』》 1954年1月 19.7×14.0×2cm 個人蔵	《『板畫の技法』》 1955年12月 18.5×13.2×1.5cm 個人蔵	《版木 デザイン浴衣（陸奥新報ねふた浴衣）》 1971年 個人蔵	《『新宿コマ五月 堺正章特別公演 絵馬鹿の大將』パンフレット》 1978年 27.7×21×0.4cm 個人蔵
	資料	《『国際写真情報』第 39 巻第 1 号》 1965年1月 33.5×26.0×0.5cm 個人蔵	《『テレビ朝日開局 25 周年記念 ドラマスベシャル 鬼が来た』台本》 1983年 24.5×17.5×1.2cm 個人蔵
	《雑誌『白樺』第 12 巻第 2 号》 1921年 22.3×15.0cm 日本民藝館	《『東海道棟方板画』資料 メモ帳》 10.6×7.0×0.9cm	《『平成二十三年 七・八月公演 コロッセ特別公演 棟方志功物語』パンフレット》 2011年 25.8×18.4×0.5cm

個人蔵

《『ミュージカル 棟方志功 炎じゃわめく』台
本・チラシ》

2005 年

25.7×18.3×0.7cm

個人蔵

《『すわらし劇団 わだばゴッホになる 棟方志
功小伝 プロローグとエピローグのある 3 幕』
パンフレット》

1990 年

25.7×18.3×0.3cm

個人蔵

《TV ドラマおかしな夫婦」台本》

1972 年

24.7×17.4×1.0cm

棟方志功記念館

《唐沢なをき『怪奇版画男』》

1998 年

21.6×15.1×1.1cm

《望月ミネタロウ『没有漫画 没有人生』（『ビッ
グコミックオリジナル』2022 年 3 号）》

2022 年

26.0×18.0×1.5cm

《青森地方裁判所勤務時ポートレート》

1921 年

9.6×7.8 cm

青森県立美術館

※《二菩薩釈迦十大弟子》（日本民藝館）は 7
月 29 日（金）～ 8 月 27 日（日）、《二菩
薩釈迦十大弟子》（東京国立近代美術館）は
8 月 29 日（火）～ 9 月 24 日の展示。

企画展

奈良美智 The Beginning Place ここから

開催概要

2023年10月14日(土)～2024年2月25日(日)

開催日数：119日(135日間)

休館日：10月23日(月)、11月13日(月)、27日(月)、12月11日(月)、25日(月) - 2024年1月1日(月・元日)、9日(火)、22日(月)、2月13日(火)

開館時間：9:30～17:00(最終入場 16:30)

(ナイトミュージアム) 10月21日、11月28日、12月9日、2024年1月20日、2月17日 9:30～20:00(最終入場 19:30)

会 場：青森県立美術館 企画展示室

主 催：奈良美智展 2023 実行委員会

(青森県立美術館、東奥日報社、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、青森県観光国際交流機構)

学術協力：蔵屋美香

協 力：アベイズム株式会社、Blum&Poe、P A C E Gallery、ヤマト運輸株式会社

後 援：青森ケーブルテレビ、エフエム青森、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、青森県教育委員会、青森市教育委員会

観覧料：一般 1,500円(1,300円)

高大生 1,000円(800円)

小中生 無料

※()内は前売券及びWebチケット料金。

※心身に障がいがある方と付添者1名は無料

総入場者数：87,790人

有料入場者数：74,406人

本展は、「君や僕に ちょっと似ている」展(2012-13年)から約10年ぶりの当館での奈良美智の個展。タイトルの「The Beginning Place (ザ ビギニング プレイス)」とは、奈良の創造の「はじまりの場所」としての「故郷」を示唆すると同時に、奈良の作品との出会いが生み出す「はじまりの場所」を意味する。本展では、感性の起源(はじまりの場所)へと至る「一本の幹」を探り当てるべく設けられた5つのテーマの中で、近年の作品と共に学生時代にまでさかのぼる秀作、200点以上を展観。

集客力が低下する冬期間の開催にも関わらず想定を上回る入場者数があった。これまでほとんど世に出ることがなかった初期作品の公開、作家が弘前で過ごした高校時代の思い出の場所であるロック喫茶の再現展示などを通じて、奈良美智がどのような作家か初めてわかったという声も多く聞かれ、口コミの波及へとつながった。県外のマスメディアによっても数多く取り上げられた。中でも『Casa BRUTUS』、『Tokyo Art Beat』など、アートに関心の高い層が目にする人気雑誌(オンライン含)が特集を組んだことは大きかった。後半は、テレビ番組、全国紙の露出も高まった上に、JRのキャンペーン「きゅんばす」も功を奏し、県外からの来場者がさらに増加。また海外メディアでも取り上げられたことで台湾や韓国など海外からの観光客も増えた。

町の随所にポスターが貼られていることを伝える投稿もSNSに散見され、郷土作家を応援する市民からも多大な協力を得られた。プレミアムチケットやスノードームなどグッズを通じた話題性も高かった。また研究者たちによる多くの新知見を含む論考やレクチャーによって、学術的にも実り豊かなものとなった。さまざまな意味で、単独開催の意義、強みを十分に発揮できた展覧会となった。

関連事業

オープニングセレモニー・記者会見・プレスツアー

日 時：10月13日(金) 13:00～15:40

会 場：青森県立美術館地下2階アレコホール、企画展示室

内 容：オープニングセレモニー、関係者向け内覧会



ポスター

②オープニング・トーク

日 時：10月14日（土）14:00～16:00

奈良美智「北へ進路をとる」

会 場：青森県立美術館シアター

参加数：150名

③「ムガミチル」ライブ

日 時：10月22日（日）17:30～19:50

LIVE：中村達也/MUGAMICHL. DJ：奈良美智

会 場：青森県立美術館シアター

参加数：195名

④青森県立美術館ドラマリーディング定期公演

日 時：10月28日（土）、29日（日）14:00開演

奈良美智 絵本「ともだちがほしかったこいぬ」を題材とした創作朗読公演

会 場：青森県立美術館シアター

参加数：145名

⑤矢野顕子ギャラリーライブ

日 時：12月7日（木）19:00～20:00

会 場：青森県立美術館地下2階企画展示室C

参加数：70名

⑥レクチャー1

講 師：合田正人氏（哲学研究者・明治大学教授）

日 時：12月16日（土）13:30～15:00

会 場：青森県立美術館シアター

参加数：72名

⑦おでかけ・トーク

日 時：12月17日（日）14:00～16:00

奈良美智「今までとこれからのこと」

会 場：むつ来さまい館（むつ市）

参加数：102名

⑧レクチャー2

講 師：イエワン・クーン氏（美術史家・香港大学准教授）

日 時：2月17日（土）14:00～15:30

会 場：青森県立美術館シアター

参加数：162名

⑨クロージングイベント

日 時：2月25日（日）17:30～19:00

夜のロック喫茶『33 1/3』よみがえるあのひと時

出 演：奈良美智、伊藤恵美、佐藤直人、高橋しげみ

会 場：青森県立美術館地下2階展示室E ロック喫茶『33 1/3』内

参加数：200名

展覧会カタログ

書籍名：奈良美智 The Beginning Place ここから

監 修：青森県立美術館

発 行：一般財団法人奈良美智財団

発 売：株式会社青幻舎

デザイン：須山悠里

会場写真：高野ユリカ

総 頁：348頁

製 本：並製

定 価：3,850円（本体3,500円）

広報

1）メディアと連携した広報・宣伝

① テレビ

・県内民放局だけでなく、NHKの「日曜美術館」、テレビ東京の「新美の巨人たち」などアート番組でも取り上げられた。

No.	日 付	曜日	社 名	番 組 名	備 考
1	2023年10月13日	金	ATV	わっち!!	奈良美智展 明日から開催
2	2023年10月13日	金	ABA	ハレのちあした	奈良美智展プレスツアー
3	2023年10月16日	月	NHK	青森あつるワイド	青森県立美術館で個展 奈良美智さん創作の原点に迫る
4	2023年10月20日	金	RAB	RAB ニュースレーダー	入場者5000人を超える 奈良美智さんの企画展 県立美術館
5	2023年10月30日	月	NHK	青森あつるワイド	奈良美智さんの個展1万人達成のセレモニー
6	2023年11月9日	木	ABA	ハレのちあした	ハレのちエンタで紹介
7	2023年11月13日	月	ATV	わっち!!	雑誌「ブルータス」奈良美智特集
8	2023年11月14日	火	RAB	RAB ニュースレーダー With	入場者20000人に 奈良美智さんの企画展 県立美術館
9	2023年11月28日	火	ATV	わっち!!	あおもり学び隊 アーティスト奈良美智を学ぶ
10	2023年12月4日	月	NHK	NHK ニュースおはよう日本	NEWSWEB チェック 奈良美智 創作の原点に迫る
11	2023年12月5日	火	RAB	RAB ニュースレーダー With	30,000人セレモニー
12	2023年12月5日	火	ATV	わっち!!	

No.	日 付	曜日	社 名	番 組 名	備 考
13	2023 年 12 月 20 日	水	青森ケーブルテレビ	あーとふる県美	
14	2024 年 1 月 1 日	月	NHK	日曜美術館 SP ハッピーニューアーツ！	
15	2024 年 1 月 6 日	土	テレビ東京	新美の巨人たち	奈良美智…少女が大人になるということ × 小雪 ※2/3（土）も放送
16	2024 年 1 月 10 日	水	BS よしもと	又吉・せきしろの何もしない散歩	
17	2024 年 1 月 23 日	火	RAB	17 20RAB ニュースリーダー With	50,000 人セレモニー
18	2024 年 1 月 23 日	火	ATV	JNN ニュース	50,000 人セレモニー
19	2024 年 2 月 9 日	金	RAB	RAB ニュースリーダー With	60,000 人セレモニー
20	2024 年 2 月 11 日	日	NHK	日曜美術館アートシーン「奈良美智」	
21	2024 年 2 月 16 日	金	RAB	RAB ニュースリーダー With	70,000 人セレモニー
22	2024 年 2 月 16 日	金	サンテレビ（神戸）	いこか青森こいへ青森	第一回「青森県立美術館」
23	2024 年 2 月 16 日	金	ATV	JNN ニュース	70,000 人セレモニー
24	2024 年 2 月 16 日	金	ATV	わっち!!	70,000 人セレモニー
25	2024 年 2 月 19 日	月	NHK	仙台もりすた！	青森県立美術館で開催中！ 弘前市出身の美術家・奈良美智さんの展覧会

② ラジオ

- ・県広報番組を活用し、展覧会告知を行った。カー中継 3 回を実施
- ・RAB ラジオ内、同社番組内で原稿パブリシティ 8 回、ラジオ

No.	日 付	曜日	時 間	社 名	番 組 名	備 考
1	2023 年 11 月 6 日	月	7:30-7:35	RAB ラジオ	広報タイム	
2	2023 年 12 月 11 日	土	7:30-7:35	RAB ラジオ	広報タイム	
3	2023 年 12 月 13 日	水	16:55-17:00	FM 青森	あおもり・ふぁん	
4	2024 年 2 月 1 日	木	7:30-7:35	RAB ラジオ	広報タイム	

③ 新聞

- ・プレスリリースによる記事掲載や、イベント報道などにより、事が連載された。
- 展覧会の情報発信を行った。また、東奥日報に全 5 の特集記

No.	日 付	曜日	社 名	番 組 名	備 考
1	2023 年 9 月 8 日	金	東奥日報	奈良美智さんの原風景へ 来月 14 日から 青森県立美術館で個展	
2	2023 年 9 月 8 日	金	陸奥新報	奈良美智さんが 10 年ぶり企画展 来月 14 日から県美	
3	2023 年 9 月 10 日	日	河北新報	奈良美智さん 原点たどる 青森県立美術館で企画展 来月 14 日から	
4	2023 年 9 月 26 日	火	デーリー東北	奈良美智さん（弘前出身）個展 来月 14 日から青森県立美術館	
5	2023 年 9 月 26 日	火	河北新報	東北の美術館・博物館 10 月	
6	2023 年 10 月 8 日	日	陸奥新報	震災以降の活動に主眼 県美 14 日から奈良美智展	
7	2023 年 10 月 8 日	日	東奥日報	にじみでる故郷の風景 奈良美智さん（弘前出身）個展 県美で 14 日から	

No.	日 付	曜日	社 名	番 組 名	備 考
8	2023 年 10 月 13 日	金	東奥日報	感性「弘前で培った」奈良美智さん故郷にこだわり	
9	2023 年 10 月 13 日	金	東奥日報	奈良美智さんインタビュー 個展「次世代育つきっかけに」	
10	2023 年 10 月 14 日	土	河北新報	奈良美智さん企画展 きょうから・青森「見てきた風景感じてほしい」	
11	2023 年 10 月 14 日	土	読売新聞	奈良さんの芸術活動通覧 県立美術館で個展 きょうから	
12	2023 年 10 月 14 日	土	陸奥新報	一貫したもの探る内容に きょうから県美で奈良美智展	
13	2023 年 10 月 14 日	土	デーリー東北	奈良美智さん 10 年ぶり個展 きょうから県立美術館で 新作含む 200 点	
14	2023 年 10 月 14 日	土	東奥日報	「自分を見つめ直した展示」 奈良美智展 県美きょうから	
15	2023 年 10 月 15 日	日	東奥日報	創作の原点「北への旅」奈良美智さん県美で個展開幕	
16	2023 年 10 月 21 日	土	河北新報	奈良美智展 来場者 5000 人 青森県立美術館 開幕 7 日目で達成	
17	2023 年 10 月 25 日	水	毎日新聞	新作や初公開作品も 奈良美智さん個展	
18	2023 年 10 月 26 日	木	河北新報	東北の美術館・博物館 11 月	
19	2023 年 10 月 27 日	金	東奥日報	青春の音楽「絵画の層に」 奈良美智さん DJ で魅了 県美でムガミチルとライブ	
20	2023 年 10 月 27 日	金	陸奥新報	学生時代や旅の話披露 県美で奈良美智トークイベント 150 人が熱心に聞き入る	
21	2023 年 10 月 29 日	日	デーリー東北	奈良美智さん（弘前出身）「出発点見つめ直せた」 県美で個展 震災復興への思い込め	
22	2023 年 10 月 29 日	日	東奥日報	奈良美智展 1 万人突破	
23	2023 年 10 月 29 日	日	読売新聞	奈良美智個展 1 万人突破 県立美術館	
24	2023 年 11 月 2 日	木	陸奥新報	山田スイッチ特急歳時記 芸術の秋	
25	2023 年 11 月 2 日	木	陸奥新報	展示会紹介	
26	2023 年 11 月 5 日	日	毎日新聞	「創作の原点」 奈良美智さん 弘前のロック喫茶に全てがあった	
27	2023 年 11 月 15 日	水	読売新聞	奈良美智個展来場 2 万人に 県立美術館	
28	2023 年 11 月 22 日	水	東奥日報	矢野さん 奈良展でライブ SNS きっかけ	
29	2023 年 11 月 24 日	金	東奥日報	奈良美智さん「家」特集 「カーサブルータス」12 月号	
30	2023 年 11 月 25 日	土	東奥日報	奈良作品 児童「すごい」金木小 県美で企画展見学	
31	2023 年 11 月 26 日	日	しんぶん赤旗	故郷青森で個展 半生振り返る 僕は反戦、" ロック教"	
32	2023 年 11 月 29 日	水	新美術新聞	奈良美智 The BeginningPlace ここから	
33	2023 年 11 月 29 日	水	河北新報	東北の美術館・博物館 12 月	
34	2023 年 11 月 25 日	土	東奥日報	The BeginningPlace 県美・奈良美智展 1 「はじまり」へ向かう旅	高橋学芸員寄稿
35	2023 年 12 月 1 日	金	新美術新聞	奈良美智 The BeginningPlace ここから	
36	2023 年 12 月 6 日	水	河北新報	奈良美智展 来場者 3 万人 青森県立美術館	
37	2023 年 12 月 6 日	水	東奥日報	奈良美智展 3 万人 小笠原さん（函館）に記念品	
38	2023 年 12 月 8 日	金	東奥日報	The BeginningPlace 県美・奈良美智展 2 学生時代を通じて変化高橋学芸員寄稿	高橋学芸員寄稿
39	2023 年 12 月 8 日	金	東奥日報	矢野さんの歌 × 奈良作品 県美でライブ	
40	2023 年 12 月 15 日	金	東奥日報	The BeginningPlace 県美・奈良美智展 3 心と身体解放 新たな表現高橋学芸員寄稿	高橋学芸員寄稿

No.	日 付	曜日	社 名	番 組 名	備 考
41	2023 年 12 月 17 日	日	東奥日報	「青森やっぱいっきゃの 矢野さん 県美ライブ」	
42	2023 年 12 月 18 日	月	東奥日報	創作や旅、思いを語る 奈良美智さんむつでイベント	
43	2023 年 12 月 22 日	金	東奥日報	The BeginningPlace 県美・奈良美智展 4 実社会揺さぶる力に	高橋学芸員寄稿
44	2023 年 12 月 28 日	木	東奥日報	展覧会ガイド	
45	2023 年 12 月 29 日	金	東奥日報	The BeginningPlace 県美・奈良美智展 5 小さな場所から大きな世界へ	高橋学芸員寄稿
46	2023 年 12 月 31 日	日	東奥日報	「旅の冒険」奥行き拒絶 明大・合田教授が奈良作品解説	
47	2024 年 1 月 12 日	金	東奥日報	鷺田めろのあおもりアート探訪 奈良美智の原風景	
48	2024 年 1 月 15 日	月	デーリー東北	天鐘	
49	2024 年 1 月 18 日	木	東奥日報	駒井連のマイ・ラブ！ 奈良美智展 私にとっても「はじまり」	
50	2024 年 1 月 20 日	土	陸奥新報	冬夏言	
51	024 年 1 月 24 日	水	東奥日報	奈良美智展 5 万人 県美永留さん（千葉）に記念品	
52	2024 年 1 月 20 日	土	朝日新聞	背中にへばりつく「原点」見つめ 美術家・奈良美智さん 青森で個展	
53	2024 年 2 月 10 日	土	東奥日報	県美 奈良美智展 6 万人 カナダ出身男性に記念品	
54	2024 年 2 月 12 日	月	東奥日報	天地人	
55	2024 年 2 月 12 日	月	河北新報	奈良美智展 入場 6 万人に 青森県立美術館 25 日まで	
56	2024 年 2 月 17 日	土	東奥日報	県美 奈良美智展 7 万人 氏家さん（盛岡）に記念品	
57	2024 年 2 月 17 日	土	東奥日報	「独自の視野言語」で魅了 奈良美智作品研究クーン教授（香港大）	
58	2024 年 2 月 26 日	月	東奥日報	「今までで一番名残惜しい」 閉幕イベント本人サプライズ登場	

④ プレスリリース資料の配付による県内外メディアへの情報発信

- ・県内外メディア各社へ情報提供し、雑誌や情報誌、フリーペーパー等に掲載されたほか、美術系雑誌や県内外情報系のウェブサイトへ掲載された。
- ・「Casa BRUTUS」や「BIG ISSUE」などの全国紙では、巻

頭で特集が組まれ、ウェブ「Tokyo Art Beat」では作家本人のロングインタビューのほか担当学芸員のインタビューも掲載されるなど、会期を通してバランスよく大きな広報が打ち出された。

（雑誌）

No.	日 付	曜日	社 名	種 別	媒 体 名	内 容
1	2023 年 9 月 27 日	水	ワイエスミッド	雑誌	クリッパー 10 月号	イベント情報
2	2023 年 9 月 27 日	水	青森大学	雑誌	はっしん！新青森第 46 号	展覧会情報
3	2023 年 10 月 3 日	火	白泉社	雑誌	月刊 MOE11 月号	展覧会情報
4	2024 年 10 月 10 日	木	peeps 函館	雑誌	peeps 函館 10 月号	peeps イベントピックアップ
5	2023 年 10 月 19 日	木	ハースト婦人画報社	雑誌	Harper's BazaarArt Book Vol.1	イベントカレンダー
6	2023 年 10 月 19 日	木	生活の友社	雑誌	美術の窓 No.482 2023 年 11 月号	展覧会 PREVIEW
7	2023 年 10 月 19 日	木	サン・アート	雑誌	月間美術	展覧会情報
8	2023 年 10 月 25 日	水	生活の友社	雑誌	アートコレクターズ 11 月号	今月の展覧会ガイド
9	2023 年 10 月 25 日	水	川口印刷工業	雑誌	2023 年 rakra（ラクラ）11・12 月号	ART&EXHIBITION

No.	日 付	曜日	社 名	種 別	媒 体 名	内 容
10	2023 年 11 月 1 日	水	小学館	雑誌	和楽 12・1 月号	美術展カレンダー
11	2023 年 11 月 1 日	水	プレジデント社	雑誌	GQ	THE MUST-SEE EXHIBITIONS
12	2023 年 11 月 7 日	火	宝島社	雑誌	大人のおしゃれ手帳 2023 年 12 月号	アートに会いに
13	2023 年 11 月 9 日	木	マガジンハウス	雑誌	Casa BRUTUS 2023 年 12 月号	奈良美智と家
14	2023 年 11 月 15 日	水	ビッグイシュー	雑誌	BIG ISSUE JAPAN 467 号	スペシャルインタビュー 奈良美智
15	2023 年 11 月 20 日	月	青森大学	雑誌	はっしん！新青森第 49 号	
16	2023 年 11 月 27 日	月	集英社	雑誌	TJAPAN	
17	2023 年 11 月 27 日	月	新潮社	雑誌	芸術新潮	
18	2023 年 11 月 28 日	火	東洋アドシステム	雑誌	岩手タウン誌 acute 12 月号	アート&展覧会
19	2023 年 12 月 1 日	金	美術年報	新聞	新美術新聞	展示会紹介
20	2023 年 12 月 1 日	金	アートコレクションハウス	新聞	arch 12 月号	全国主要美術館スケジュール
21	2023 年 12 月 3 日	日	クレヨンハウス	雑誌	月刊クーヨン 1 月号	新着情報コーナー
22	2023 年 12 月 5 日	火	PRESSART	雑誌	仙台 Kappo 2024 年 1 月号	INTERVIEW 奈良美智個展を語る
23	2023 年 12 月 5 日	火	朝日新聞出版	雑誌	AERA withKids 冬号	展示会トピックス
24	2023 年 12 月 12 日	火	三栄	雑誌	FUDGE	今月のアート情報
25	2023 年 12 月 15 日	金	日経 BP マーケティング	雑誌	日経おとなの OFF(日経トレンド) 2024 年 1 月号増刊)	2024 年絶対見逃せない美術展
26	2023 年 12 月 16 日	土	一個人	雑誌	一個人 1 月号	INFORMATION
27	2023 年 12 月 18 日	月	ぴあ	雑誌	美術館ぴあ 2024	美術館スケジュール 2024-2025
28	2023 年 12 月 21 日	木	東京銘酒協会	雑誌	Gen de Art Issue 14	展示会紹介、館長インタビュー
29	2023 年 12 月 25 日	月	川口印刷工業	雑誌	rakra (ラ・クラ) 1・2 月号	あおもり犬スノードーム
30	2023 年 12 月 27 日	水	ワイエスミッド	雑誌	クリッパー 1 月号	展覧会情報
31	2023 年 12 月 28 日	木	白泉社	雑誌	月刊 MOE2024 年 2 月号	展覧会情報
32	2024 年 1 月 20 日	土	青森大学	雑誌	はっしん！新青森第 51 号	真冬の青森に広がる「はじまりの場所」
33	2024 年 1 月 31 日	水	ものの芽舎	雑誌	あおもりのき第 16 号	展示会紹介

(web)

No.	日 付	曜日	社 名	種別	媒 体 名	内 容
1	2023 年 9 月 5 日	火	株式会社 FAITH	WEB	アートアジェンダ	【美術館・展覧会情報】全国の展覧会
2	2023 年 9 月 28 日	木	株式会社 KAMADO	WEB	KAMADO	展覧会情報
3	2023 年 10 月 13 日	金	GRAND SEIKO	WEB	オンライン・マガジン『GS9』	見るべき、語るべき展覧会 vol10 「奈良美智：TheBeginning Place ここから」
4	2023 年 10 月 13 日	金	青森経済新聞	WEB	青森経済新聞	青森で奈良美智さん個展 10 年ぶり開催、 新作や学生時代の作品も
5	2024 年 10 月 13 日	日	ART iT	WEB	ART iT	展示会情報
6	2023 年 10 月 14 日	土	美術手帖	WEB	ウェブ版美術手帖	青森から始まり、青森へ帰る旅路。奈良美智 40 年の作歴を総覧する青森県立美術館 「奈良美智：TheBeginning Place ここから」

No.	日 付	曜日	社 名	種別	媒 体 名	内 容
7	2023 年 10 月 14 日	土	KATYCOM	WEB	今見られる 全国のおすすめ展覧会 100	展覧会情報
8	2023 年 10 月 14 日	土	Tokyo Art Beat	WEB	Tokyo Art Beat	レポート 震災という転換点、小さな場所から大きな場所に飛び立つこと
9	2023 年 10 月 27 日	金	平凡社	WEB	Web 太陽	展覧会情報
10	2023 年 11 月 9 日	木	扶桑社	WEB	ヌメロ	展覧会情報
11	2023 年 11 月 14 日	火	玄光社	WEB	イラストレーション Web	展覧会情報
12	2023 年 11 月 15 日	水	MONOCLE	WEB	MONOCLE	ここから 僕の奈良美智展案内（岡本仁）
13	2023 年 11 月 21 日	火	インフォメーション テクノロジー	WEB	じゃらん Web	展覧会情報
14	2023 年 11 月 22 日	水	COOLHUNTING	WEB	COOLHUNTING	A comprehensive look at the beloved Japanese artist's work
15	2023 年 11 月 24 日	金	TokyoWeekender	WEB	Web 版 TokyoWeekender	展覧会情報
16	2023 年 12 月 4 日	月	青森経済新聞	WEB	青森経済新聞	青森で奈良美智展の公式図録「ここから」先行販売 深層を描いた表紙
17	2023 年 12 月 13 日	水	FRAGILE	WEB	FRAGILE	奈良美智「The Beginning Place ここから」展 青森県立美術館で開催中
18	2023 年 12 月 13 日	水	つくりびと	WEB	つくりびとネット	展覧会情報
19	2023 年 12 月 14 日	木	集英社	WEB	TJAPAN	奈良美智「はじまりの場所」への旅 故郷・青森でしか見られない展覧会に込めた思いとは？
20	2023 年 12 月 18 日	月	コンデナスト・ジャパン	WEB	GQ JAPAN	何かを見据える少女の絵、奈良美智の《Midnight Tears》——今月のアートを深掘り
21	2023 年 12 月 20 日	水	Tokyo Art Beat	WEB	Tokyo Art Beat	ロングインタビュー（前編） 自分を育んだホーム、感性のルーツ、 東日本大震災という転換点を振り返って
22	2023 年 12 月 26 日	火	オークコーポレーション	WEB	Tokyo Art Beat	青森県立美術館特集その 1 絶対見逃せない！ 青森県立美術館の 「奈良美智：The Beginning Place ここから」展
23	2024 年 1 月 1 日	月	TBS	WEB	TBSNEWSDIG	【解説】企画展「奈良美智：The Beginning Place ここから」（11/28 番組編集）
24	2024 年 1 月 4 日	木	MINGPAODAIRY	WEB	MINGPAODAIRY	展覧会情報、おもしろ写真掲載
25	2024 年 1 月 5 日	金	MAGUS	WEB	ARTnews JAPAN	今週末に見たいアートイベント TOP5: 奈良美智の 40 年を振り返る大規模個展、 龍つくし！ 恒例「博物館に初もうで」
26	2024 年 1 月 10 日	水	Tokyo Art Beat	WEB	Tokyo Art Beat	ロングインタビュー（後編） 願い続けてきた PEACE、旅と場所づくり、 アートよりもっと自由な人生を求めて
27	2024 年 1 月 11 日	木	Tokyo Art Beat	WEB	Tokyo Art Beat	「美術館がない場所から奈良美智が生まれた ことに希望を感じるんです」。青森県立美術館 学芸員・高橋しげみインタビュー
28	2024 年 1 月 18 日	木	貴ちゃんねる	WEB	Youtube	世界的美術家『奈良美智』の作品を観るため 青森へ!! 石橋貴明〜美術館を巡る〜
29	2024 年 2 月 1 日	木	JR 東日本	WEB	TikTok	JR 東日本おとキュンパスと併せた 展示会情報紹介

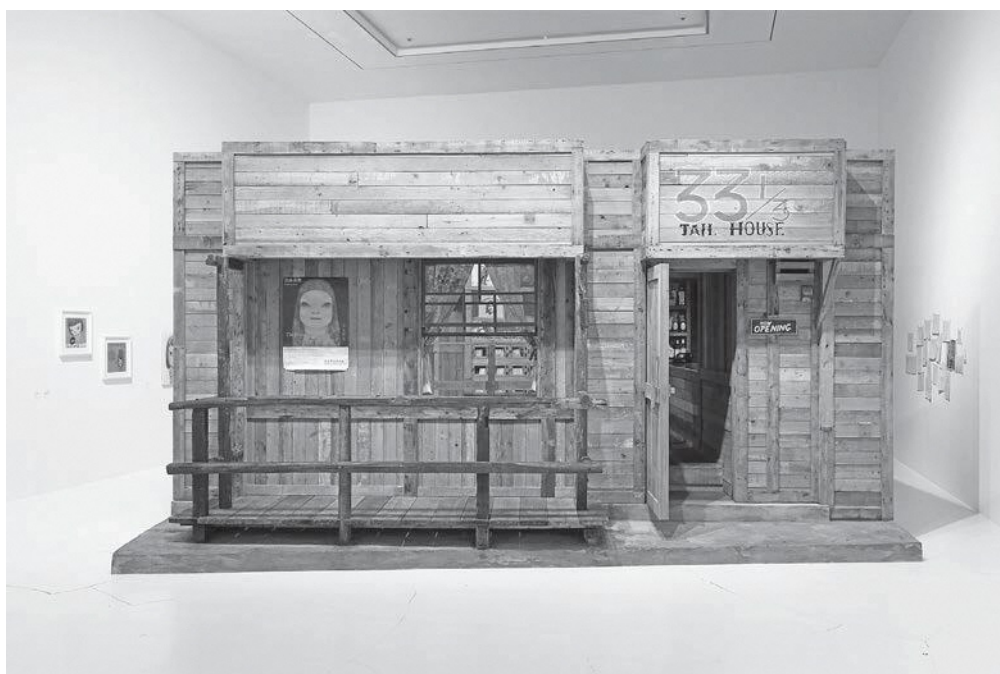
- ⑤ 県立美術館ホームページ、Instagram、Facebook、Twitter、YouTube など
- ・美術館ホームページの基本情報及び関連イベントの掲載とブログによる情報発信を実施した。
 - ・県立美術館の Instagram、Facebook、Twitter を活用し、即時に情報発信を行った。

2) そのほかの主な広報・宣伝

- ① 青森県地元紙、東北地方紙、中央紙等へのプレスリリース
- ② ポスター、チラシの設置、配布

- ・ JR 青森駅・新青森駅構内（JR 管理スペース）
- ・ 駅ビル（新青森駅旬味館、ラビナ、アブリーズ）
- ・ 青森空港総合案内所、レンタカー店（青森空港・青森駅・新青森駅）
- ・ 函館駅前観光案内所など函館・道南主要集客施設、高校・大学等のほか、函館市内みちのく銀行支店
- ・ 青森市内主要宿泊施設等
- ・ 青森市タクシー協会の協力による市内タクシー車内でのチラシ設置

- ・城ヶ倉観光グループの協力（慈恵会病院、レストラン、ホテル等）
- ③プレミアムチケットの販売
- ④大型スタンドバナーを制作し、新青森駅2階ホールに設置。
- ⑤株式会社また旅くらぶが企画し、青森県立美術館と弘前れんが倉庫美術館、奈良美智ゆかりの地を結ぶバスツアー商品を造成した。



「奈良美智：The Beginning Place ここから」展会場風景
撮影：木奥恵三

作品リスト

凡例

- ・奈良美智作品に関する情報は、カタログ番号、作品名、制作年、素材・技法、サイズ（縦×横あるいは直径×奥行き cm）、所蔵、協力、奈良美智のアーカイブサイト「Yoshitomo Nara The Works」（www.yoshitomonara.org）内オンラインカタログレゾネ番号（YNF番号）の順に記載した。
- ・カタログ番号と展示の順序は一致していない。
- ・資料の出品については【資料】という見出しの後にリストアップした。
- ・4-1、5-1以外、所蔵に特に表記の無いものはすべて作家蔵。

1. 家 House/Home

1-1
カッチョのある風景
1979
油彩・キャンバス
53.5x65.3
個人蔵
YNF920230822

1-2
Futaba House, Waiting for Rain Drops
1984
アクリル絵具、色鉛筆、コラージュ・石膏ボード
45x72
青森県立美術館
YNF21

1-3
Rain Hill Story
1984
アクリル絵具、マーカー・キャンバス
100x80
個人蔵
YNF7352

1-4
There Is No Place Like a Home
1984
アクリル絵具、色鉛筆、ペン・紙
54x72.5
青森県立美術館
YNF26

1-5
Untitled
1984
色鉛筆、ペン、コラージュ・紙
68.3×49.5
個人蔵
YNF29

1-6
Dog Is Man's Best Friend!
1985
アクリル絵具、鉛筆、色鉛筆・板に貼った紙
62.8x91
青森県立美術館
YNF42

1-7
キリスト II
1987
アクリル絵具、色鉛筆・板
36x45
志水堅二蔵
YNF95

1-8
Merry-Go-Round
1987
アクリル絵具、色鉛筆、コラージュ・キャンバス
130.3x130.3
個人蔵
YNF88

1-9
天使の家
1987
アクリル絵具、色鉛筆、ペン、鉛筆・紙
25x20.4
YNF7569

1-10
Dream Time
1988
アクリル絵具、色鉛筆・キャンバス
116.7x90.9
豊田市美術館
YNF145
＊前期展示 [2023 年 10 月 14 日―12 月 24 日]

1-11
Romantic Catastrophe
1988
アクリル絵具、色鉛筆・キャンバス
116.7x90.9
個人蔵 (豊田市美術館寄託)
YNF146
＊後期展示 [2024 年 1 月 2 日―2 月 25 日]

1-12
Drawings
1988
アクリル絵具、色鉛筆、鉛筆、ペン、スタンプ・紙
各 21x14.5
豊田市美術館
YNF160
＊前期展示 [2023 年 10 月 14 日―12 月 24 日]

1-13
NSWE
1988
ペン、色鉛筆・紙
19.7x14.8
青森県立美術館
YNF176

1-14
Untitled
1988
アクリル絵具、色鉛筆・紙
85×99
個人蔵 (豊田市美術館寄託)
YNF104
＊後期展示 [2024 年 1 月 2 日―2 月 25 日]

1-15
Untitled
1988
色鉛筆、アクリル絵具・紙
98.6×60.4
YNF156

1-16
Untitled
1988
ペン、色鉛筆、コラージュ・紙、プラスチック袋
30.5x11.5
YNF268

1-17
アパートメント
1989
色鉛筆、鉛筆・紙
20.5x14.5
青森県立美術館
YNF419

1-18
地球がとんでく
1989
水彩、鉛筆、ペン、スタンプ・紙
20.5x14.5
青森県立美術館
YNF391

1-19
港のあの娘
1989
水彩、色鉛筆、鉛筆、ペン・紙
20.5x14.5
青森県立美術館
YNF389

1-20
家
1989
水彩、色鉛筆、鉛筆、ペン・紙
20.5x14.5
青森県立美術館
YNF388

1-21
積木がくずれる夜、大粒の涙
1989
水彩、色鉛筆、鉛筆・紙
20.5x14.5
青森県立美術館
YNF385

1-22
首のない馬は No.5
1989
水彩、色鉛筆、鉛筆・紙
20.5x14.5
青森県立美術館
YNF410

1-23
On the Ships Own My Q
1989
水彩、色鉛筆、鉛筆・紙
20.5x14.5
青森県立美術館
YNF409

1-24
Sleepless Night、先生の夢
1989
水彩、色鉛筆、鉛筆・紙
20.5x14.5
青森県立美術館
YNF399

1-25
Somewhere in the Sleepless Night
1989
水彩、鉛筆、色鉛筆・紙
20.5x14.5
青森県立美術館
YNF398

1-26
Untitled
1989
水彩、色鉛筆、鉛筆・紙
20.5x14.5
青森県立美術館
YNF400

1-27
西と東、2 々の兎
1989
色鉛筆、鉛筆・紙
20.5x14.5
青森県立美術館
YNF406

1-28
続いてゆく道に
1990
アクリル絵具、色鉛筆・キャンバス
100x100
青森県立美術館
YNF462

1-29
There Is No Place Like Home
1995
色鉛筆、ペン・紙
21x14.7
青森県立美術館
YNF1511

1-30
くまは夜行性
1996
鉛筆、色鉛筆・紙
各 21x14.8
青森県立美術館
YNF1723

1-31
Untitled
2005
ペン、色鉛筆・紙
15.3 × 12

1-32
Fire
2009
アクリル絵具・板
90 × 90
川崎祐一コレクション
YNF5056

1-33
Days
2011
ミクストメディア
17.9 × 42.9 × 29.6
YNF7571

1-34
作家の部屋の中から
2023
こけし等民芸品 16 点

2. 積層の時空 Space-Time in Layers

2-1
I Want to See the Bright Lights Tonight
2017
アクリル絵具・キャンバス
220 × 195
Collection: Mr. & Mrs. Joseph Lau
YNF6435

2-2
Crying in the Wind
2018
陶器
35 × φ19.5
YNF6608

2-3
Fired Up Generation
2018
陶器
23 × φ30
YNF6596

2-4
心の銃
2018
陶器
22.5 × φ14
YNF6616

2-5
じゃがいも機関車
2018
陶器
24.5 × φ17
YNF6617

2-6
Invisible Vision
2019
アクリル絵具・キャンバス
195 × 150
YNF6680

2-7
Hazy Humid Day
2021
アクリル絵具・キャンバス
220 × 195
YNF6865

2-8
Slight Fever
2021
アクリル絵具、コラージュ・キャンバス
120 × 110
YNF6866

2-9
バーカー少女
2021
ペン、色鉛筆・紙
24 × 30
YNF6867

2-10
Tainan Quarantine Drawings
2021
ドローイング・グインスタレーション（ドローイング 42 点と表紙、裏表紙にドローイングがあるノートが置かれたテーブル 1 台、ドローイング 39 点と表紙、裏表紙にドローイングがあるノート 2 点が置かれたテーブル 1 台）
サイズ可変
YNF6916

2-11
Here to Stay
1996-2022
アクリル絵具、色鉛筆・紙
29.5 × 21
YNF7227

2-12
Kiss Again
1990s-2022
アクリル絵具、色鉛筆・紙
28 × 21.5
YNF7225

2-13
On the street
1990s-2022
色鉛筆、ペン、アクリル絵具・紙
29.5 × 21
YNF7228

2-14
Story of My life
1990s-2022
アクリル絵具、色鉛筆・紙
29.5 × 21
YNF7224

2-15
Uptight
1990s-2022
アクリル絵具、鉛筆、色鉛筆・紙
28 × 21.5
YNF7223

2-16
Ennui
2022
色鉛筆、アクリル絵具・ダンボール紙に重ねられた紙
32.2 × 32.3×3.5
YNF7332

2-17
Girl
2022
色鉛筆、アクリル絵具・ダンボール紙に重ねられた紙
33 × 33.2 × 3.1
YNF7337

2-18
In the Empty Fortress
2022
色鉛筆、アクリル絵具・ダンボール紙に重ねられた紙
40.2 × 33.3 × 2
YNF7334

2-19
Long Way
2022
色鉛筆、アクリル絵具・ダンボール紙に重ねられた紙
38.5 × 32.5 × 3
YNF7335

2-20
Mountain Girl
2022
色鉛筆、アクリル絵具・ダンボール紙に重ねられた紙
28.5 × 28.2 × 2.5
YNF7339

2-21
No Matter What
2022
色鉛筆、アクリル絵具・ダンボール紙に重ねられた紙
53 × 49 × 3.6
YNF7343

2-22
Okey
2022
色鉛筆、アクリル絵具・ダンボール紙に重ねられた紙
33 × 22.5 × 2.5
YNF7342

2-23
Round Eyed Girl
2022
色鉛筆、アクリル絵具・ダンボール紙に重ねられた紙
31.5 × 24.5 × 2.5
YNF7340

2-24
どうしてこんなに涙が…。
2022
陶器
37.2 × φ25.2
YNF7018

2-25
Midnight Tears
2023
アクリル絵具・キャンバス
240.5 × 220
YNF7346

2-26
作家の部屋の中から [リチャード&リンダ・トンプソンのアルバム [I Want to See the Bright Lights Tonight] (1974 年) のレコードジャケット]
2023
レコードジャケット 1 点

3. 旅 Travel

3-1
Submarines in Girl
1992
アクリル絵具、コラージュ・キャンバス
100 × 150
Collection: Cloudia & Cynthia
YNF826

3-2
Abandoned Puppy
1995
アクリル絵具・綿布を貼ったキャンバス
120 × 110
個人蔵
Private collection
YNF1245

3-3
深い深い氷たまり II
In the Deepest Puddle II
1995
アクリル絵具・綿布を貼ったキャンバス
120 × 110
高橋龍太郎コレクション
YNF1237

3-4
Mumps
1996
アクリル絵具・綿布を貼ったキャンバス
120 × 110
青森県立美術館
YNF1566

3-5
The Last Match
1996
アクリル絵具・綿布を貼ったキャンバス
120 × 110
青森県立美術館
YNF1567

3-6-1 Untitled 2003 鉛筆・紙 30 × 21 YNF3758	3-6-11 Untitled 2003 色鉛筆、鉛筆・紙 30 × 21 YNF3758	3-15 アフルバルー二つの顔 2018 鉛筆・紙 Pencil on paper 29.7 × 42 YNF6522	3-24 SHOTARO Theater 2021 鉛筆・紙 109 × 79 グッゲンハイム・アブ・ダビ美術館 YNF6910
3-6-2 Untitled 2003 鉛筆・紙 42 × 60 YNF3758	3-7 横浜のためのエスキース 2012 ペン・紙 (2点組) 29.7 × 42 (右 right) / 21 × 29 (左 left) YNF5554	3-16 山子妹 2019 アクリル絵具・ダンボール紙 88.3 × 106.5 YNF6692	3-25 TOKI 2021 鉛筆・紙 65 × 50 YNF6875
3-6-3 Untitled 2003 色鉛筆、鉛筆・紙 30 × 21 YNF3758	3-8 シウ 2017 木炭・紙 182 × 91 YNF6459	3-17 旅する山子 2019 顔料印刷・アルミニウム 各 30 × 30(14 ピース) / 20 × 20(1 ピース) YNF6760	3-26 Peace Head 2021 ウレタン塗装・アルミニウム 247.5 × 263.5 × 227.5 YNF6889
3-6-4 Untitled 2003 色鉛筆、鉛筆・紙 30 × 21 YNF3758	3-9 ユノア 2017 木炭・紙 182 × 91 YNF6460	3-18 オホーツク少女島 知床岬 2020 アクリル絵具、クレヨン、色鉛筆・ダンボール 117.5 × 89.8 個人蔵 YNF6773	3-27 Ennui Head 2022 ウレタン塗装・アルミニウム 243 × 257 × 149 YNF6888
3-6-5 Untitled 2003 色鉛筆、鉛筆・紙 30 × 21 YNF3758	3-10 コウ 2017 木炭・紙 182 × 91 YNF6457	3-19 Can' t See Kunashir Island 2020 2021 鉛筆・紙 65 × 50 YNF6877	3-28 Ahunrupar 2023 アクリル絵具・陶器 26.5 × 51.9 × 44.5 YNF7388
3-6-6 Untitled 2003 色鉛筆、鉛筆・紙 30 × 21 YNF3758	3-11 ココネ 2017 木炭・紙 182 × 91 YNF6456	3-20 End of the Road 2021 鉛筆・紙 65 × 50 YNF6874	3-29 TAIWAN 2015 顔料印刷・アルミニウム image: 42 × 56 YNF6400
3-6-7 Untitled 2003 アクリル絵具、色鉛筆、鉛筆・紙 30 × 21 YNF3758	3-12 レノア 2017 木炭・紙 182 × 91 YNF6458	3-21 I Don' t Care 2021 鉛筆・紙 109 × 79 グッゲンハイム・アブ・ダビ美術館 YNF6913	3-30 TAIWAN 2015 顔料印刷・アルミニウム image: 42 × 56 YNF6401
3-6-8 Untitled 2003 アクリル絵具、色鉛筆、鉛筆・紙 30 × 21 YNF3758	3-13 飛生 2017 アクリル絵具、色鉛筆・紙 16.8 × 20 × 7 YNF6461	3-22 The Little Flower Girl 2021 鉛筆・紙 65 × 50 YNF6878	3-31 TAIWAN 2015 顔料印刷・アルミニウム image: 42 × 56 YNF6402
3-6-9 Untitled 2003 鉛筆・紙 30 × 21 YNF3758	3-14 Ahunrupar 2018 鉛筆・紙 65 × 50 個人蔵 YNF6504	3-23 Over the Rainbow 2021 鉛筆・紙 65 × 50 YNF6876	3-32 TAIWAN 2015 顔料印刷・アルミニウム image: 42 × 56 YNF6403
3-6-10 Untitled 2003 色鉛筆、鉛筆・紙 30 × 21 YNF3758			3-33 TAIWAN 2015 顔料印刷・アルミニウム image: 42 × 56 YNF6404

3-34
TAIWAN
2015
顔料印刷・アルミニウム
image: 42 × 56
YNF6405

3-35
TAIWAN
2015
顔料印刷・アルミニウム
image: 42 × 56
YNF6406

3-36
TAIWAN
2015
顔料印刷・アルミニウム
image: 42 × 56
YNF6407

3-37
TAIWAN
2015
顔料印刷・アルミニウム
image: 42 × 56
YNF6409

3-38
TAIWAN
2015
顔料印刷・アルミニウム
image: 42 × 56
YNF6410

3-39
TAIWAN
2015
顔料印刷・アルミニウム
image: 42 × 56
YNF6411

3-40
TAIWAN
2015
顔料印刷・アルミニウム
image: 42 × 56
YNF6666

3-41
TAIWAN
2015
顔料印刷・アルミニウム
image: 42 × 56
YNF6667

3-42
TAIWAN
2015
顔料印刷・アルミニウム
42 × 56
YNF6668

3-43
TAIWAN
2015
顔料印刷・アルミニウム
image: 42 × 56
YNF6669

3-44
TAIWAN
2015
顔料印刷・アルミニウム
image: 42 × 56
YNF6470

3-45
サハリン
2014
スライドショー
サイズ可変
YNF6079

3-46
アフガン小屋（青森バージョン）
2004/2023
ミクストメディア
サイズ可変
YNF7597

3-47
カプール・ノート（青森バージョン）
2002/2023
スライドショー
Slide show
可変 Variable
YNF7598

【資料】
3-R1
ライシャ・ドミトリエヴナ・アグミナ氏に
よるニヴフ民族の物語の刺繍絵画 2点

4. No War

4-1
平和の祭壇
2023
インスタレーション

4-1-1
Innocent Being
1986
アクリル絵具、色鉛筆、コラージュ・キャンバス
194 × 130.3
愛知県立芸術大学
YNF68

4-1-2
ゼロ戦の夢
1989
水彩、色鉛筆、鉛筆・紙
20.5 × 14.5
青森県立美術館
YNF403

4-1-3
Untitled
1989
アクリル絵具、色鉛筆・紙
56 × 41.7
YNF312

4-1-4
Untitled
1989
アクリル絵具、色鉛筆・紙
34.5 × 49.5
YNF340

4-1-5
Untitled
1990
色鉛筆、アクリル絵具、コラージュ・紙
21 × 29.5
YNF534

4-1-6
Untitled
1990
アクリル絵具、色鉛筆・紙
68 × 48
YNF537

4-1-7
No Means No
1991
アクリル絵具、色鉛筆・紙
20.7 × 14.6
青森県立美術館
YNF679

4-1-8
Untitled
1993
アクリル絵具、コラージュ・紙
42.0 × 55.7
YNF1006

4-1-9
夜のケガ猫
1993
アクリル絵具、色鉛筆・紙
41.8 × 55.6
YNF993

4-1-10
回天
1994
アクリル絵具・キャンバス
60 × 60
青森県立美術館
YNF1132

4-1-11
Untitled
1994
アクリル絵具・紙
34.5 × 48.6
YNF1171

4-1-12
おんぼろカミカゼ
1996
アクリル絵具・キャンバス
120 × 110
青森県立美術館
YNF1564

4-1-13
No Nukes
1998
アクリル絵具、色鉛筆・紙
36 × 22.5
長瀬雅之蔵
YNF2105

4-1-14
No Nukes!, "In the Floating World"
1999
富士ゼロックスコピー
33 × 42.2
YNF2572

4-1-15
Punk Ebizo, "In the Floating World"
1999
富士ゼロックスコピー
41.5 × 29.5
YNF2564

4-1-16
Slash with a Knife, "In the Floating World"
1999
富士ゼロックスコピー
41.5 × 29.5
YNF2558

4-1-17
I Don' t Mind, If You Forget Me.
2001
インスタレーション（プレキシガラス、ぬいぐるみ、合板、玩具）
上 部：57 × 745 × 10 / 下 部：54 × 745 × 33.5
個人蔵
Courtesy of Blum
YNF3054

4-1-18
Der Norden ist Feucht
2003
色鉛筆・紙
16.5 × 23
YNF3722

4-1-19
M (S. M. L. より)
M From the S. M. L.
2003
プレキシガラス、ぬいぐるみ
60 × 67.2 × 12
YNF3771

4-1-20
Peace Mark
2004
プレキシガラス、ぬいぐるみ、木
φ100 × 12
YNF3944

4-1-21
Peace Mark
2004
アクリル絵具、ペン・板
φ143 × 4.2
YNF7586

4-1-22 Untitled 2004 色鉛筆・紙 16 × 22.5 YNF3915	4-1-31 Untitled 2006 色鉛筆・紙 23 × 12 YNF4391	4-1-41 Untitled 2008 鉛筆・紙 Pencil on paper 51.5 × 36.5 YNF4834	4-1-50 Untitled 2011 アクリル絵具、色鉛筆・板 Acrylic on wood 25 × 11.6 YNF5490
4-1-23 Untitled 2005 ペン、色鉛筆・紙 25.7 × 36.3 YNF4179	4-1-32 Hey! Ho! Let' s Go 2006 アクリル絵具、ペン・玩具のタンバリン 17.5 × 17.5 × 4 YNF4418	4-1-42 Untitled 2008 色鉛筆・紙 26.5 × 36.6 YNF4857	4-1-50 Love 2013 色鉛筆・紙 33.3 × 24 YNF7266
4-1-24 Puppy (56 pieces) 2005 アクリル絵具・FRP 26 × 22 × 45 YNF4196, 4197	4-1-33 Untitled 2007 アクリル絵具、コラージュ・紙 72.3 × 51.6 YNF4462	4-1-43 24 Hour Diner 2008 ペン、色鉛筆・紙 22.8 × 16.2 YNF4965	4-1-51 Untitled 2013 色鉛筆・紙 36.5 × 26 YNF5829
4-1-25 Eve of Destruction 2006 アクリル絵具・キャンバス 117 × 91 公益財団法人アルカンシエール美術財団／原美術館コレクション YNF4219	4-1-34 Untitled 2007 色鉛筆・紙 23 × 32.6 YNF4572	4-1-44 Atomkraft Baby 2011 アクリル絵具・キャンバス 45.8 × 38 一般財団法人文化振興ネットワーク YNF5466	4-1-52 Untitled 2013 色鉛筆・紙 30.5 × 22.7 YNF5831
4-1-26 Kate 2007 アクリル絵具、色鉛筆・板 45 × 23 × 2 YNF4238	4-1-35 Untitled 2007 色鉛筆・紙 25 × 32.3 YNF4580	4-1-45 Help 2011 アクリル絵具、色鉛筆、ペン・板 25.9 × 17.5 YNF5485	4-1-53 Untitled 2013 色鉛筆・紙 33 × 24 YNF5832
4-1-27 Too Drunk to Figure Out, They' re Fading Away. 2006 色鉛筆、アクリル絵具、ペン・ダンボール紙 53.5 × 46 YNF4259	4-1-36 Drive All Night 2008 色鉛筆、ペン・紙 22.8 × 16.2 YNF4967	4-1-46 2時5分前 2011 アクリル絵具、色鉛筆・板 40.5 × 30 YNF5489	4-1-54 請戸小学校／黒板と2011年3月11日3時 38分で止まった時計 2013 顔料印刷 Image: 320 × 425 YNF5863
4-1-28 Untitled 2006 色鉛筆・紙 38 × 24 YNF4324	4-1-37 No Persons under 21 Allowed 2008 色鉛筆、ペン・紙 23 × 16.2 YNF4942	4-1-47 Untitled 2011 アクリル絵具、色鉛筆、ペン・キャンバス 25.9 × 17.5 YNF5485	4-1-55 請戸小学校／2011年3月11日3時38分 に止まった時計 2013 顔料印刷 Image: 425 × 320 YNF5864
4-1-29 Untitled 2006 ペン・紙 22.7 × 16.2 YNF4336	4-1-38 Social D 2008 ペン・紙 22.8 × 15.2 YNF4966	4-1-48 Untitled 2011 アクリル絵具、色鉛筆・板 25.9 × 17.5 YNF5487	4-1-56 請戸小学校前の道／福島第一発電所まで7km 2013 顔料印刷 Image: 320 × 425 YNF5865
4-1-30 Untitled 2006 色鉛筆・紙（封筒） 22.7 × 32.3 YNF4347	4-1-39 Untitled 2008 鉛筆・紙 Pencil on paper 65 × 50 YNF4829	4-1-49 White Girl 2011 アクリル絵具、色鉛筆・ダンボール紙 76.5 × 55.5 YNF5496	4-1-57 Angel 2014 色鉛筆・紙 31.2 × 22.8 YNF5899
	4-1-40 Untitled 2008 鉛筆・紙 65 × 50 YNF4833		

4-1-58 Bad Head 2014 アクリル絵具・板 146.1 × 150.9 × 7.6 YNF5875	4-1-67 Alone in the Wind 2018 アクリル絵具・キャンバス 53 × 53 YNF6495	4-1-77 Hamburg in 1962 2019 アクリル絵具、色鉛筆・ダンボール紙 31.3 × 31.5 YNF6714	4-1-87 Bones on Head 2020 陶器 12.7 × 13.8 × 8.1 YNF6840
4-1-59 Untitled 2014 アクリル絵具、鉛筆、色鉛筆・板 14.4 × 13.9 × 2 YNF5888	4-1-68 Meeting 2018 ペン、色鉛筆・紙 18.9 × 14.8 YNF7317	4-1-78 NYC in 1976 2019 色鉛筆・ダンボール紙 31.3 × 31.5 YNF6711	4-1-88 団子少女 2020 陶器 18.5 × 18 × 13.5 YNF6832
4-1-60 About Her 2016 色鉛筆・紙 Colored pencil on paper 22.8 × 31.2 YNF6289	4-1-69 Tribute to Bloodthirsty Butchers 2018 色鉛筆、アクリル絵具・紙 31.2 × 22.8 YNF6533	4-1-79 Peace 2019 アクリル絵具、色鉛筆・ダンボール紙 31.3 × 31.5 YNF6710	4-1-89 Eyepatch 2020 陶器 12.7 × 14.8 × 8.4 YNF6837
4-1-61 ミニ・ドローイング 2016 色鉛筆、ボールペン・紙 11.5 × 9.7 YNF6231	4-1-70 6/23 Now 2018 色鉛筆・紙 50 × 61.5 YNF6509	4-1-80 Searching 2019 アクリル絵具、木炭、色鉛筆・紙 75.1 × 42.9 グッゲンハイム・アプ・ダビ美術館 YNF6709	4-1-90 Flat Face 2020 陶器 7.5 × 8.0 × 4.0 YNF6830
4-1-62 No War! 2016 ペン・紙 29.7 × 21 YNF6294	4-1-71 In the Water 2019 アクリル絵具、木炭・板に貼ったキャンバス 45.3 × 60.1 × 4.4 YNF6678	4-1-81 In the Pink Water 2020 アクリル絵具・綿布を貼ったキャンバス 145.5 × 112 YNF6768	4-1-91 Grin Grin 2020 陶器 12.2 × 10.2 × 13 YNF6829
4-1-63 Stop the Bombs 2016 ペン・紙 29.7 × 21 YNF6293	4-1-72 Peace Girl 2019 アクリル絵具・板に貼ったジュート 180.5 × 160.5 × 4.8 YNF6671	4-1-82 LOVE FROM THE SEA 2020 ペン・紙 29.7 × 21.1 YNF6804	4-1-92 Stay Good 2020 陶器 18 × 18.8 × 10.2 YNF6833
4-1-64 Reach Out to the Moon, Even If We Can' t 2016 陶器 38 × 23 × 23 YNF6312	4-1-73 Sweet Home Gate 2019 アクリル絵具・板に貼ったジュート 180.5 × 160.5 × 4.8 YNF6672	4-1-83 届け、君の町へ 2020 色鉛筆・紙 33 × 24 YNF6803	4-1-93 Push Button 2021 色鉛筆・紙 33 × 24 YNF6992
4-1-65 From the Bomb Shelter 2017 アクリル絵具・板に貼ったジュート 180.5 × 160.5 × 4.8 YNF6433	4-1-74 Banging the Drum 2019 ペン、色鉛筆・紙 23 × 15 YNF6703	4-1-84 東北ロケンロー！ 2020 アクリル絵具、色鉛筆、ペン・紙 26 × 18.5 YNF6805	4-1-94 Soldier 2021 色鉛筆・紙 34 × 24 YNF6991
4-1-66 Home 2017 アクリル絵具・板に貼ったジュート 180.5 × 160.5 × 4.8 YNF6432	4-1-75 Fuck the Politics 2019 ペン、色鉛筆・紙 18 × 14.5 YNF7323	4-1-85 東北ロケンロー！ 2020 アクリル絵具、色鉛筆、ペン・紙 26 × 18.5 YNF6807	4-1-95 Untitled 2021 色鉛筆、ボールペン・紙 22 × 19.4 YNF7304
	4-1-76 Fuck' bout Everything 2019 アクリル絵具、色鉛筆、ペン、コラージュ・ ダンボール紙 65.5 × 58.8 YNF6728	4-1-86 Tomorrow' s Far Away 2020 ペン、色鉛筆、アクリル絵具・紙 28.6 × 24.6 YNF6800	

4-1-96 My Drawing Room 2004/2021 インスタレーション（ミクストメディア） 312 × 200 × 448 公益財団法人アルカンシエール美術財団／原美術館コレクション YNF3947	4-1-105 Fuckin' Love My Guitar 2022 グリーススティック、アクリル絵具・紙 37.5 × 53.5 YNF7230	4-1-114 ビーター・アイヴァース 2022 陶器 3.9 × φ32.1 YNF7022	5. ロック喫茶「33 1/3」と 小さな共同体 Rock Café 33 1/3 and a Small Community
4-1-97 Wish for World Peace 2022 アクリル絵具、グリーススティック・トタン板 100 × 90 × 4.5 YNF7196	4-1-106 The Long and Winding Road 2022 グリーススティック、ラッカーズプレー・スチロール板 Grease stick and lacquer spray paint on form core board 47.8 × 66.3 × 0.8 YNF7212	4-1-115 台座としての「森の子」 2023 FRP にウレタン塗装 228 × 241.3 × 233.1 YNF7599	5-1 ロック喫茶「33 1/3」再現 2023 インスタレーション 再現・施工：ミラクルファクトリー（青木一将、谷薫、古畑大気、櫻井隆平、高橋和広、鷲尾友公、水口智之）
4-1-98 Mr. New Jersey 2022 アクリル絵具、グリーススティック・紙 37.5 × 53.5 YNF7244	4-1-107 Love, Peace and Rock' n' Roll 2022 グリーススティック・紙 37.5 × 53.5 YNF7242	4-1-116 Untitled 2023 ペン、色鉛筆・紙 24.3 × 21.3 YNF7321	5-2 Peace Flag 2001 インク・綿布、金具 100.5 × 156 YNF3058
4-1-99 My Way 2022 アクリル絵具、グリーススティック・紙 37.5 × 53.5 YNF7229	4-1-108 No War Xmas 2022 ペン、色鉛筆・紙 36.2 × 25.7 YNF7250	4-1-117 作家の部屋の中から 2023 棚、レコード、CD、ぬいぐるみ、人形、小物、書籍、他	5-3 ミラーボール盆踊り 2012 色鉛筆・ダンボール紙 32 × 32 YNF5659
4-1-100 Gone? 2022 色鉛筆、アクリル絵具・ダンボール紙に重ねられた紙 32 × 29.1 × 2.9 YNF7338	4-1-109 Peace 2022 アクリル絵具、色鉛筆・紙 32.3 × 24.5 YNF7284	【資料】 4-R1 《TWINS II》のパナー 2022 印刷物 協力：ステラマッカートニー	5-4 レコード盤 2012 色鉛筆・ダンボール紙 31 × 31 YNF5677
4-1-101 Peace 2022 色鉛筆、アクリル絵具・ダンボール紙に重ねられた紙 31.3 × 24 × 3 YNF7341	4-1-110 Rock' n Roll Guitar 2022 アクリル絵具、グリーススティック・紙 37.5 × 53.5 YNF7234	4-R2 《No War》のパナー 2022 印刷物 協力：ステラマッカートニー	5-5 Melody 2018 アクリル絵具・キャンバス 65.2 × 50.2 YNF6488
4-1-102 Punks 2022 色鉛筆、アクリル絵具・ダンボール紙に重ねられた紙 34.5 × 28 × 2.7 YNF7331	4-1-111 Rock' n Roll Music 2022 グリーススティック、ラッカーズプレー・スチロール板 48.4 × 65.9 × 0.8 YNF7213	4-R3 《春少女》のパナー 2012 印刷物 協力：「さようなら原発 1000 万人アクション」実行委員会	5-6 Peace in Your Heart 2019 アクリル絵具・キャンバス 65 × 53 YNF6687
4-1-103 Different Drums 2022 グリーススティック・紙 37.5 × 53.5 YNF7243	4-1-112 33 1/3 2022 グリーススティック・紙 grease stick on paper 37.5 × 53.5 YNF7248	4-R4 《Missing in Action — Girl Meets Boy —》のパナー 2023 印刷物 協力：広島市現代美術館	5-7 作家の部屋の中から 2023 レコードジャケット 144 点
4-1-104 Drumming Kid 2022 色鉛筆、ペン・紙 21 × 21.3 YNF7319	4-1-113 72 Years Old 2022 グリーススティック、アクリル絵具・紙 37.5 × 53.5 YNF7231	4-R5 写真雑誌『写楽』からの切り抜き [「彼女たちが選びとった生き方は、パンク魂とノー・ニュークス」、『写楽』1983 年 10 月号、104-105 頁] ペン・印刷物	【資料】 5-R1 エマーソン・レイク & パーマーのアルバム『恐怖の頭脳改革』（1973 年）のジャケットとライナーノーツ 個人蔵

令和5年度コレクション展

Permanent Exhibition 2023

通年展示

アレコホール | マルク・シャガールによるバレエ「アレコ」の舞台背景画

青森県立美術館の中心には、縦・横 21m、高さ 19m、四層吹き抜けの大空間が設けられており、アレコホールと呼ばれるこの大きなホールには、20 世紀を代表する画家、マルク・シャガール (1887-1985) によるバレエ「アレコ」の背景画が展示されている。青森県は 1994 年に、全 4 作品から成るバレエ「アレコ」の舞台背景画中、第 1 幕、第 2 幕、第 4 幕を収集した。これらの背景画は、帝政ロシア (現ベラルーシ) のユダヤ人の家庭に生まれたシャガールが、第二次世界大戦中、ナチス・ドイツの迫害から逃れるため亡命していたアメリカで「バレエ・シアター (現アメリカン・バレエ・シアター)」の依頼で制作したもので、大画面の中に「色彩の魔術師」と呼ばれるシャガールの本領が遺憾無く発揮された舞台美術の傑作である。残る第 3 幕の背景画《ある夏の午後の麦畑》は、アメリカのフィラデルフィア美術館に収蔵され、長らく同館の西側エントランスに展示されていたが、現在長期借用が認められ、青森県立美術館で全 4 作品を鑑賞することができる。全 4 作品揃っての展示は、2006 年に当館が開館記念として開催した「シャガール『アレコ』とアメリカ亡命時代」展以来のことである。

★アレコ特別鑑賞プログラム

高さ約 20 メートルの大ホールに展示された「アレコ」背景画に舞台用の照明をあて、音楽とともにバレエのステージを彷彿とさせる演出を加えながら、作品制作の背景、バレエのストーリーなどをナレーションで紹介する約 15 分間の鑑賞プログラムを、開館中、定時で上映した。

上映時間：① 11:00- ② 14:00-

コレクション展 2023-1 及び 2023-2 共通

展示室 F+G | 奈良美智：1990 年代を中心に

青森県出身の美術作家・奈良美智は、挑むような目つきの女の子の絵や、ユーモラスでどこか哀しげな犬の立体作品で、国内外の多くの人の心をとらえてきた。現在 170 点を超え、世界最大規模を誇る当館収蔵の奈良美智作品の多くは、美術館が開館する 8 年前の 1998 年に収集されている。その頃ドイツに留学していた奈良は、制作の拠点をケルンに置いていた。欧米での発表の機会が増え始め、個人コレクターの間でも人気が高かった奈良の作品は、当時既に散逸が危ぶまれていた。郷土が輩出した新しい世代のアー

トの旗手として奈良を注視していた青森県は、その年、1980 年代後半の初期作品から当時の最新作にいたるまで 124 点の作品を一度に収集した。本展はその年の収集作品を多数含む奈良の 1990 年代のドイツ時代の作品を中心にしつつ、作家から寄託されている 2000 年代以降の作品も合わせて展示した。奈良は 2000 年にドイツから帰国。翌年以降、初の大規模な個展「I DON'T MIND, IF YOU FORGET ME.」が横浜美術館を皮切りに、広島や弘前 (現：弘前れんが倉庫美術館) など全国 5 か所で開催されると、奈良美智の名前は日本国内に広く知られるようになった。

コレクション展 2023-1

COLLECTION 2023-1

2023 年 4 月 22 日 (土) ~ 2023 年 7 月 17 日 (月・祝)

春から夏へ。青森の自然が最も華やぎ、生命の息吹に彩られる季節にあわせて、美しい色彩により独自の作品世界を創造した 3 人の作家、石井康治のガラス工芸、工藤甲人の日本画、佐野ぬいの油彩画による特集展示を行った。

この他、生誕 120 年を迎える棟方志功、怪獣デザインなど多彩なジャンルで活躍した成田亨、若手アーティスト青秀祐と大森記詩によるインスタレーションを紹介した。

展示室 N/J,K | 石井康治：詩・季・彩

青森の自然に魅せられ、北国の光と風が織りなす四季を彩り豊かなガラス作品にうつしとった石井康治。1991 年、現在青森県立美術館が建つ場所に程近い、青森市内に工房を構え、96 年に急逝するまで、この地で精力的にガラスの素材と技法について研究を重ね、青森の四季と風土にインスピレーションを受けた独自の造形を次々と生み出した。

「色ガラスを用いて自分のイメージを詩のような感じで作りたい」—石井はこう語り、自身の創作テーマを「詩・季・彩 (し・き・さい)」という言葉で表している。生命の息吹と共に華やぐ春、爽やかな初夏から鮮烈な夏、秋の燦めく彩り、そして冬の雪がみせる様々な表象。残された作品は、今も彼の愛した青森の四季を謳う一編の詩のように私たちに語りかけてくる。

今回は、石井が工房で最後に制作していた作品の一つである《テンプルランプ》を始めに、春から夏へとうつろう季節をイメージさせる作品を中心に紹介した。

棟方志功展示室 | 旅する棟方志功

15 人兄弟の 6 番目として青森市に生まれた棟方志功は、画家を志し上京した後、油絵から版画に転向し民藝運動の指導者達の知遇

を得、この出会いによって仕事面でも生活面でも支えられ、板画家・棟方志功として躍進していく。その一助となったのが旅であった。棟方は旅が好きで、故郷青森とは違う山並みや建築物のある風景、その土地の食べ物や産業といった異文化に触れる経験からも作品を生み出している。

民藝運動の指導者達の知遇を得た 1936 年には、「仏さまが見たいです」と京都の河井寛次郎邸に約 40 日間滞在。寺社を巡り、多くの訪客と会い、初めてきく禅話には自分がひっくり返るような大きな力を感じ、「魂命の太って来る」のを覚えたという。本州最北の青森で小学校しか出ておらず、貧しい暮らしの中でも志を高く持っていた棟方にとって、初めて訪れる西も、見聞を広めることも心震える出来事であり滋養であった。その後も、民藝同人らの沖縄民芸調査に参加したり、京都の木喰仏を訪ねたり、民藝のつながりから各地の窯で陶器に絵を付けたりと、民藝から始まった縁は全国に広がり、行きたい場所というだけでなく各地に訪れる理由ができる。

仕事から始まる旅もある。日本人の海外渡航がまだ自由化されていない 1959 年、ロックフェラー財団とジャパン・ソサエティによる招きで初めてアメリカへと渡る。個展の開催や、各地の大学で板画の講義、夏には約 1 か月間ヨーロッパを旅行し、念願叶って対面した絵画から想を得た作品も制作している。また、東海道新幹線開業を目前に控えた 1963 年には、東海道五十三次を大阪まで延ばした《東海道棟方板画》制作のため取材旅行を始める。これは後に全国版海道シリーズへと発展し、九州、四国、東北を旅して制作された板画は安川電機のカレンダーに使われ現在まで愛好されている。

大都市以外では道路舗装も行き届いていない時代に、忙しい中予定を詰め込んででも各地を回り、生涯にわたって旅を楽しみ多くのものを得た棟方の、その一端をご覧いただきたい。

展示室 O | 特別企画「青秀祐 × 大森記詩 ARMORY SHOW SITE-A : Damage Control」

青秀祐と大森記詩は、2017（平成 29）年に青森県立美術館で開催された「ラブラブショー 2」展に参加。同展では、それぞれ別の作家とコラボレーションで作品を発表し、その後の 2021（令和 3）年には青が「富野由悠季の世界」展、大森が同時開催の「コレクション展 2021-1 ~ 2」に特別出品するなど、間接的に影響を受けあう関係にあった。その 2 人の作家が、県立美術館の特徴的な空間を最大限に活用し、現代社会と文化のあり方を問う、初のコラボレーション展示を行った。

本展のタイトルである ARMORY（アーモリー）は本来、火器弾薬を備蓄する保管施設を指し、2 人が作品で扱うイメージやモチーフに通底するキーワードである。さらに、緊急的に発生している、もしくはいずれ発生するかもしれない事態への処置、対策や対応を意味する軍事用語「Damage Control（ダメージ・コントロール）」を付すことで、分断と混乱の進む世界の情勢に対するひとつの視座を提示する。

我々を取り巻く世界の状況は加速度的に変化しており、世界を駆け巡る膨大な情報もまた非常に短いタイムラグで、かつ相応のリアルティをもって私たちの意識へと到達する。重要な点は、世界

のあらゆる人間がメディアをとおして否応なく世界のトータルダメージに巻き込まれ、さらに、その分配されたダメージの再分配に加担しているという「事実」である。

今回、青はこれまで自身の制作において重要な要素となっている「ダミーバルーン」から着想した表現をより深化させ、一方の大森は現在進行形の紛争によって都市の中に出現したビジュアルから受けた衝撃を「土嚢」というモチーフに象徴させることで、それらの問題と対峙する。ダミーバルーンや土嚢は、本来ダメージを肩代わりし、あるいは緩和、防衛する役割を担うものであり、現実の戦争におけるダメージ・コントロールの一種と捉える事ができる。青と大森は、それらモチーフの引用の過程で、メディアをとおして伝播される衝撃、もしくはこれから我々が実際に直面するかもしれない衝撃を、既存のイメージの分解、再構築という操作（ダメージ・コントロール）をとおして展示室内にインストールする。そのわずかな痛みを伴う虚実皮膜のダメージイメージは、「超安全圏」である美術館という武器庫に安置され、次の媒介者を静かに待ち続けるのである。



展示室 P,Q | 成田亨のエッセンス：美術 / 特撮 / 怪獣

成田亨は彫刻家、画家、デザイナー、特撮美術監督とジャンルの垣根を越えた多彩な表現活動を行った作家である。旧制青森中学（現：青森高等学校）在学中に画家・阿部合成と出会い、絵を描く技術よりも「本質的な感動」を大切に考える考え方を、さらに彫刻家の小坂圭二からモチーフの構造とその構成を重視する手法を学んだ後、武蔵野美術学校（現：武蔵野美術大学）で絵画、彫刻を学び、新制作展を舞台に気鋭の彫刻家として活躍を続ける。一方、アルバイトとして映画「ゴジラ」（1954 年）の製作に参加したことをきっかけに、以降特撮美術の仕事も数多く手がけていく。1965 年から 68 年にかけて制作、放映された「ウルトラ Q」、「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」では実質的美術総監督としてヒーロー、宇宙人、怪獣、メカニックやセット等のデザインを担当し、「成田怪獣」と称される名キャラクターを次々に生み出していった。成田の高い芸術的感性が反映された卓越した造形センスにより、「成田怪獣」は放映から 50 年以上経った今もなお愛され続けている。「ウルトラ」以降も、テレビ番組では「マイティジャック」や「突撃ヒューマン」、「円盤戦争バンキッド」など、映画では「新幹線大爆破」や「戦争と人間」、「この子を残して」、「麻雀放浪記」などの特撮を手が

ける一方で、個展を中心に油彩画や彫刻の作品発表も続けている。また古今東西のモンスターへの関心と知識を深めた成田は、1990年に巨大彫刻「鬼モニュメント」(京都府福知山市)を制作しており、本作は彫刻家としての成田の集大成的作品と言えるだろう。

今回は、多彩なジャンルで活躍した成田亨の仕事のエッセンスを紹介するとともに、開催中の「庵野秀明展」と連動した特別出品として、認定 NPO 法人アニメ特撮アーカイブ機構と須賀川特撮アーカイブセンター、RAB 青森放送のご協力により、成田がデザインし、庵野秀明が敬愛する「万能戦艦マイティジャック号」の大型ミニチュアを公開した。

展示室 M | 工藤甲人：永日 ― 日はながく、うららかに

故郷、津軽を創造の源泉として独自の作品世界を築き、日本画に斬新な表現を切り拓いた工藤甲人。弘前の農家に生まれ、身近な自然の小さな草花や生き物、或いは家の中の畳の目や壁のシミをじっと見つめて想像の世界に遊び、詩や文学に熱中した少年は、やがて画家を目指して上京する。働きながら絵を学び、公募展への入選を果たすも、戦争により招集を受けて画業は中断され、戦禍により作品も失われてしまう。終戦後、故郷で農作業に従事しながら再出発を期し、新しい日本画の創造を目指す作家達が結成した「創造美術」に参加。1960年代初頭には、自然を題材としながら樹、鳥、枯葉などが現実を超えた存在と化して画面に息づく独自の世界を創造し、やがて蝶をはじめ小さな生き物や草花、さらに象徴的な人物像が現れるようになる。1962年からは神奈川県平塚市に居を構え、2011年、96歳の誕生日を迎える前日に逝去するまで、独創的な作品世界を創造し続けた。

工藤の作風は、しばしば幻想的といわれるが、工藤は自らの作品が幻想的と評されることをよしとせず、夢幻と現実のはざまに漂う世界こそが自分にとっての真実だと繰り返し語っている。《夢と覚醒》という作品タイトルにもあるように、二つの相対する世界が、豊かな色彩と精緻な技法に裏付けられた洗練された作風によって調和され、独特な詩情を湛えた世界が創造される。それは、1975-76年に四季をテーマに制作された《休息(冬)》、《渴仰(春)》、《化生(夏)》、《野郷仏心(秋)》の四部作が、「春」ではなく、暗く長い「冬」に春を待つ想いから始まるように、故郷、津軽の自然に育まれた画家の精神から生まれた世界であり、工藤の創作の根源には、深い雪の中で春を恋う想い、そして春の訪れに感じる

生命が湧き上がるような喜びがある。

その夢と覚醒のはざまを漂う世界から、今回は春と夏をテーマにした作品を中心に紹介した。

展示室 I,H | 佐野ぬい：ブルー・ノート／オペラ・ノート

1932年、佐野ぬいは弘前市の菓子店に生まれる。店内にはクラシックが流れるティールームがあり、家業の傍ら同人誌を発行していた父の友人たち、文学者や画家らがよく集っていた。父は娘に津軽民謡を教える一方、フランス近代詩を暗唱させたりしたという。やがて女学校に入ると、終戦後に再び上映され始めた欧米映画、特に1930年代のフランス映画に心酔し、フランスに行きたい、パリの街を描きたいという思いに駆られ、まず津軽よりパリに近い東京へ行こうと、1951年、女子美術大学に入学する。戦後間もない東京では、海外から新しい潮流が押し寄せ、それに呼応する斬新な芸術活動が次々と生まれていた。佐野は卒業後も大学に残り、画家の道を歩み始める。やがて作品からは具体的な事物が消え、色彩の対比で画面構成を行う独自の作風を築き上げてゆく。画面上では様々な色と形が響き合い、ニュアンスに富んだ筆線がときには素早い、ときにはゆっくりとした動きやリズムを奏でている。

佐野の作品には様々なイメージを想起させるタイトルがつけられており、しばしば色の名前や地名などが織り込まれているが、そのなかで、いくつもの作品タイトルに登場するものに、「ブルー・ノート」と「オペラ・ノート」或いは「オペラ色」、がある。「ブルー・ノート」はジャズ、「オペラ・ノート」はオペラと、それぞれ音楽を連想させ、実際、画面をよくみると、音符や楽譜に思えるイメージがみつかることもある。

一方で、「ブルー」は「青」色であり、佐野が創作の要として位置づけ、最も大切にしている色である。佐野自身もしばしば語っているように、明るく澄んだ青から暗く沈んだ青まで、とても幅の広い色で、西洋由来の絵具にも、セルリアンブルー、インディゴブルー、ウルトラマリンブルー、等々いくつもの青がある。そして「オペラ」は、20世紀初頭に華やかなオペラをイメージして作られた絵具の色の名前でもあり、明るい赤紫、或いは濃いピンクに見える「オペラ」色は、画面の中でひととき目を引く、美しく華やかな色である。いくつもの「青」色、「オペラ」色、そして黄、赤、白、黒、など、選び抜いた色の絵の具で、佐野はあるときは大胆に、またあると



きは繊細に、キャンバスに形や線を描いてゆく。やがて色と形と線が隣り合い、重なり合いながらリズムを刻み、ハーモニーを奏ではじめる。一つ一つの画面の中で、多彩な色と形と線が織りなすセッションをじっくりと味わっていただきたい。

コレクション展 2023-2

COLLECTION 2023-2

2023年7月22日(土)～2023年9月24日(日)

※展示室Eのみ、7月29日(土)より公開

企画展「生誕 120 年 棟方志功展 メイキング・オブ・ムナカタ」関連企画として、棟方が描いた女性像や、交友のあった作家たちによる個性豊かな「棟方志功像」、そして、いくつもの版を摺り重ねて完成させる多色摺り版画の魅力を集集展示した。

この他、青森の四季折々の光と風を彩り豊かにうつしとった石井康治のガラス工芸作品、初期ウルトラシリーズの怪獣デザインなど多彩なジャンルで活躍した成田亨を紹介した。

展示室E | 棟方志功展関連企画：棟方志功 女神とめがね

青森市で生まれた棟方志功、本業の板画の他にも多岐にわたる彼
出品作家：棟方志功、飯窪敏彦、今純三、下澤木鉢郎、関野準一郎

棟方作品のイメージとして“女人”と“仏”がまず挙げられるのではないだろうか。それらは棟方が最も多く描いたモチーフの一つであり、求められたモチーフでもあった。「裸体の、マツバダカの顔の額の上に丸い星をつければ、もう立派な佛様になって仕舞うんだから、ありがたく、忝けないんですね。それが、ホトケさまというもののなのです。その額の星がつくと付かないので、タダの素裸の女であったり、ホトケサマに成り切ったりするという大きな世界は、うれしいものです」(『板画の肌』1956)。故郷の母のありがたさが原点にある棟方の女人への想いは、広大無辺な仏様の世界へとつながっていった。生命エネルギーに溢れ健康の時に官能的な女人像は、モデルは使わず心の中の美を描く棟方にとって女神ともいえるだろう。その姿は献身的に棟方を支え続けた妻チャに似ているとも言われる。単に美しい女神を描くだけでなく、女人の姿を借りて経典や詩歌、音楽や故郷、大自然など様々に表現し、生涯、大小も公私も問わず描き続けた。

その棟方に生涯にわたって寄り添い、支えたチャ夫人。夫人が点てた大好きな抹茶を飲む棟方や、ネプタ出陣前に浴衣を着付ける様子など、二人の姿は多くの写真に残されている。もちろん、棟方も自分と二人の姿を含めてチャ夫人を描いており、そのなかには「金魚ネプタ」になった二人もいる。棟方とチャ夫人は、どちらも大きな眼鏡をかけており、特に棟方が描く二人はおそろいの眼鏡をかけているかのように、眼鏡の存在が夫婦の一体感を高めている。

眼鏡は棟方のトレードマークであり、棟方のイメージには欠かすことができない。交流のあった作家たちが描いた棟方の肖像にも必ず描かれているが、実は描かれた時代によって、棟方がかけている眼鏡は異なっている。展示の後半では、眼鏡に着目しながら、同郷の先輩、後輩である今純三、下澤木鉢郎、関野準一郎による

棟方の肖像版画を紹介した。

展示室H/L | 棟方志功展関連企画 多色摺り版画の世界

棟方志功は、墨一色で摺り、作品の裏側から色を付ける裏彩色によって、独創的な作品世界を創造した。

一方、多数の色に応じて版を何枚も作成し、摺り重ねることによって一つの作品を作り上げる多色摺りによる版画も長い歴史があり、この多色摺りの技法は、江戸時代に隆盛を誇った浮世絵によって一つの頂点まで高められる。その後明治維新を経た近代以降の日本では、社会や文化の価値観がめまぐるしく揺れ動く中で、版画における創作表現のあり方が問われ、模索が重ねられてきた。棟方志功展関連企画として、浮世絵の伝統を受け継ぎつつ、新たな表現の可能性を追求し、多色摺りによって独自の作風を築いた作家たちの作品を紹介した。

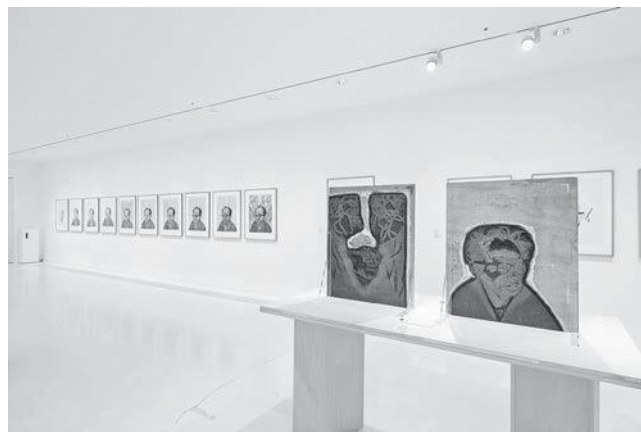
展示室H | 多色摺り版画の世界 1 摺り重ねの技

出品作家：恩地孝四郎、下澤木鉢郎、関野準一郎、高木志朗

多色摺りでは、基本的に画面で使用する色に応じて版をそれぞれ用意し、何度も摺り重ねる過程を経て作品が完成する。

関野準一郎の《棟方志功像》は、制作に用いられた版木と、版木を摺り重ねてゆく過程を知ることができる貴重な資料が残されている。摺り重ねの見本から、10 を超える版を摺り重ねることで、中央の棟方像とともに、背景に浮かび上がる棟方の代表作「二菩薩釈迦十大弟子」の図柄など、構図が面と色彩によって巧みに組み立てられていることがわかる。

青森県常盤村(藤崎町)出身の高木志朗は、戦後、新制中学に学んで美術学校に進み、世界の美術の動向をリアルタイムで感じながら学んだ世代である。1968年に制作し、国際展等で高い評価を受けた《日本の鬼》《聖女》では、人物というよりは顔、或いは頭部を中心に構図が作られている。油彩画用の絵の具を用いて、赤を基調に独特の彫り痕を摺り込んだ背景をつくり、下の色が透けて見える度合いを工夫しながら、黄や黒、青、赤などの色で多様な形の版による摺り重ねの効果と、厚みのあるマチエールの双方を実現させ、力強い造形を生み出している。続く1970年代初頭から作成した「北国の樹」シリーズでは、故郷の林檎の木をモチー



フに、北の地に佇む樹を具象と抽象の区別を超えた造形に昇華させた。

この他、棟方志功の生涯の画友であった下澤木鉢郎による、地方の伝統着を纏う女性像《下北の女》や、1944 年に青森から上京した関野準一郎が師と慕った、生涯にわたって日本の近代版画を牽引し続けた恩地孝四郎による、様々な素材の版を用いて抽象性の高い造形の可能性を追求した戦後の代表作を紹介した。

展示室 L | 多色摺り版画の世界－2「木目」のあや

出品作家：清宮質文、関野準一郎、高木志朗

木の板を彫って原版となる版木を作成し、それを紙などに摺る木版画では、版木の木目を摺り取って造形の一部としていることがある。木目であることが分かりやすい作品もあれば、なかなかそれとは気づかない作品もある。この展示室では、3 人の作家の作品に取り入れられた、それぞれの「木目」のあやを紹介した。

青森市出身の関野準一郎は、身近な人々から著名人までをモデルにした人物像とともに、故郷、青森をはじめ日本や世界各地の風景を描いた作品で知られ、多くの人々に親しまれている。青森県立美術館では、関野のアトリエに残されていた版木をはじめとする貴重な資料を多数所蔵しており、これらの調査から、関野が作品制作において、版木や摺りの効果に様々な工夫を凝らしていたことがわかる。関野の作品の中に「木目」を探すと、木々の造形として、また時には水面として、或いは空として、風景の中に溶け込んでいるものがみつかると。

また、展示室 H で紹介した高木志朗の「北国の樹」シリーズのなかにも、背景に木目が摺られている作品がある。緑を基調にした色彩に重ねられた木目は、風が渡る空、或いは樹を支える力強い大地を思わせる美しいニュアンスを画面に生み出している。

清宮質文は、静謐な詩情を湛えた作風で、木版画に独自の境地を切り拓いた作家である。画面には蝶などの小さな生き物が静かに息づき、ガラスの小壺や小筐が仄かな燦めきを放つ。また、作品に登場する人物像は大きな目を持ち、どこか寂しげで、ときには人の姿が消え、目だけが空を漂っている。

清宮は、水彩絵具を薄く重ねた美しい色彩と、筆の刷毛目や版の木目を生かした摺りによる繊細な風合いによって、これらのモチーフを包み込む光を含んだ空気を創り出し、作品に命を吹き込む。清宮自身の言葉を借りると、それは「深く、澄んだ、無限に深い」空気であり、作品を観る私たちのさまざまな想いを、その透明な世界に溶かし込んでくれるかのようなのである。

展示室 I | 成田亨：彫刻と怪獣の間で

「真の芸術って何だろう？ おそらく無償の行為だろう？ 私は、そう思っています。映画をつくったり、デザイナーと云われる人種は、芸術家ではなくなりそうです。世の中の変化と要求に、作家の方がピントを合わせて、努力は、自己探求ではなく、環境の変化への目移りだ、と云う事になりそうです。パイオニヤは薄幸の中にこの世を去り、そのパイオニヤの開いた道を、手際よく頂いて、我が世の春を謳うのがデザイナーと云う人種かも知れません。(中

略) 私はデザイナーです。これは彫刻家のアルバイトと、割り切れるものでもありません。新しい形を創ろうとしている自分は何だろう？ (中略) 私は彫刻家なのだろうか？ 或いはデザイナーなのだろうか？ その両方だろうか？ そのどちらでもないのだろうか？」(*1)

青森高校在学中、阿部合成に学び、詩人山岸外史から薫陶を受けた成田亨。合成に「君は抒情詩人だ。浪漫派だ。」と賞され、「作為に満ちたエモーションのない絵は一喝された。」という成田は、晩年まで「初発的感情」という創作動機的重要性を繰り返し述べている。少年期に戦争記録画を見て衝撃を受け、戦後の混乱期に多感な青年期を過ごし、高度成長期に入ると同時に映画、そしてテレビの仕事を手がけ、バブル期に自身の彫刻の集大成とも言える《鬼のモニュメント》(1991 年)を京都府大江町に完成させた成田は、ある意味で戦後社会の動向に沿いつつ創作活動を続けた作家と言ってよいであろう。さらに、自らがデザインしたウルトラマンや怪獣が消費の対象という「商品」になってしまったことで精神的に疲弊した成田は「悲劇的なもの」へと傾倒し、晩年には「僕の描きたい絵のテーマは〈絶望〉です」(*2)と述べるようになっていった。

怪獣デザインについても成田は、「怪獣が芸術ではないというのは、内容的に芸術的であるかないかという問題じゃなくて、やっぱり芸術の分類の形式から、そうになっているんじゃないですか。」(*3)と述べているが、それはサブカルチャーが「傍流」であるという集合的無意識を反映したものと言えるのではないだろうか。そうした一般的な価値観と、自身の表現との間で終生苦悩したのが成田亨という芸術家であった。それを成田個人の問題と捉えるのではなく、広く戦後日本の文化史／社会史の中に位置づけ、考えてみる。社会の閉塞感が再び強まりをみせる今、成田亨の歩んだ人生と残された作品から考えるべき点は多いように思われる。

*1 成田亨「彫刻と怪獣との間」『成田亨 彫刻・映画美術個展』リーフレット、1968 年

*2 成田亨『特撮と怪獣』フィルムアート社、1995 年、p.256

*3 前掲書『特撮と怪獣』 p.251



展示室 J,K | 石井康治：詩・季・彩

青森の自然に魅せられ、北国の光と風が織りなす四季を彩り豊かなガラス作品にうつしとった石井康治。1991 年、現在青森県立美術館が建つ場所に程近い、青森市内に工房を構え、96 年に急逝するまで、この地で精力的にガラスの素材と技法について研究を重ね、青森の四季と風土にインスピレーションを受けた独自の造形を次々と生み出した。

青森の工房での石井の創作は、身近な自然をドローイングやデッサンなどで写生することからはじまる。そして工房に戻り、熟したガラスを中空の棹に巻き取り、息を吹き込んで膨らませ、そこに選び抜いた色彩を溶着させ、最終的なかたちを作る。自然、そしてガラスという素材に向き合い、対話を重ねながら、繊細な感性と優れた造形感覚を研ぎ澄ませ、その確かな手の技によって、青森の自然を、ガラスに映える光と流れる色彩にうつしとっていった。1995 年には、八甲田の森の四季をテーマに、石井自身が創作における一つの到達点と自負する四季の「樹映」シリーズが生まれる。

「色ガラスを用いて自分のイメージを詩のような感じで作りたい」—石井はこう語り、自身の創作テーマを「詩・季・彩」という言葉で表している。生命の息吹と共に華やぐ春、爽やかな初夏から鮮烈な夏、秋の燦めく彩り、そして冬の雪がみせる様々な表象。石井が残していった作品は、今も彼の愛した青森の四季を謳い、彼がかつて青森の工房で日々感じていたであろう光と風を、時を超えて私たちに届け続けてくれる。

私達の生きている風土には 美しい自然があり その自然に季節が変化を与え より美しい彩りを見せてくれます。 詩人が 季節の詩を文字で表すならば 私はガラスをとおして 永遠に凍結したいと願っております

(1996 年 4 月 石井の直筆ノートより)



コレクション展 2023-3

COLLECTION 2023-3

2023 年 9 月 30 日 (土) ~ 2024 年 1 月 28 日 (日)

青森県立郷土館と連携したサテライト展示「生誕 130 年：今純三—純三が描いた戦前の青森—」を中心に、没後 40 年の節目の年となる寺山修司、成田亨の怪獣デザイン原画等を展示。さらに同時期に開催された企画展「奈良美智：The Beginning Place ここから」の関連展示として、奈良美智と棟方志功の作品をあわせて展示するユニークな試みを行った。

展示室 F+G | 奈良美智と棟方志功のあいだ

青森県出身の美術家・奈良美智は、挑むような目つきの女の子の絵や、ユーモラスでどこか哀しげな犬の立体作品などで、これまで国や世代を超えて多くの人々の心を捉えてきた。奈良は 1959(昭和 34) 年、青森県弘前市に生まれた。奈良が誕生した年からさかのぼること 50 数年、やはり後に芸術家として活躍する一人の人物が青森市に生まれている。板画家の棟方志功(1903-1975)である。同じ青森という地に生を受け、美術の世界で国際的な評価を得た二人だが、昭和生まれの奈良と明治生まれの棟方のあいだには、半世紀以上の時代の隔りがある。

郷土が輩出した偉大な芸術家である棟方志功という名になじみはあったはずであるが、若い頃から美術にとらわれず音楽や文学など幅広い同時代の文化に関心を向けてきた奈良にとって、棟方の作品世界は近くて遠い存在だったと言えるかもしれない。

今回の展示では、そんな二人の作品をあえて並べて展示した。共通のモチーフによる接近が際立たせる素材や表現の違いは、その背後にある時代の移り変わりまでも映し出すようである。そして、既存の価値観に縛られることのない自由闊達な二人の表現世界の中には、彼らの突出した個性を育んだ共通の土壌もうっすらと浮かび上がるのではないだろうか(奈良美智作品 26 点、棟方志功作品 12 点を展示)。

展示室 N + 棟方志功展示室 | 棟方志功：マイ・ボディー・アオモリ

青森市名誉市民第一号に選ばれた棟方志功。故郷に認められたことを心から喜んだ棟方は、1969 年 2 月に行われた名誉市民称号の授与式において、竹内俊吉知事や淡谷悠蔵代議士ら無名の頃から応援してくれた地元の人々に見守られ、目を潤ませながら称号記と名誉市民章を授かった。

青年時代、写生を繰り返し心と体に深く刻み込んだ青森の自然は、棟方芸術の原点である。油絵や倭画で直接的に描くことはもちろん、板画ではアレンジを加えて模様のように扱った。写生の拠点とした合浦公園や八甲田の風景は、晩年になっても、さらには海外旅行中にも描くほどであった。自然だけでなく、ねぶたや縄文といった青森の芸術も作品に豊かさをもたらした。1950 年代の板画に集中しているが、縄文土器の縄目模様やねぶたの制作技法の一種である口ウ点(口ウで施す小さな水玉模様)を思わせる点描などを人物表現や装飾表現に活かしている。

世界的に高い評価を受け多忙を極めるようになってからも青森から依頼された仕事は可能な限り引き受けるようにしていたといわ

れるが、特筆すべきは 1961 年の青森県庁新庁舎を飾る巨大な板壁画《花矢の柵》の制作である。アイヌの祭を題材にし、「青森のほうからのいのちを、今度は南の方へぶつけてやるというような形のものにしたい」と、青森がさらに発展し日本の文化の流れが北から南へと向かうよう願いを込めたといわれる。

名誉市民称号の授与にあたっての奈良岡末造市長との対談では「マイ・ボディー・アオモリです」と語った棟方。芸術家としての自分を作り上げてくれた風物やお世話になった人々など、青森のあらゆるものへの感謝の念を込めた言葉なのであろう（25 点を展示）。

展示室 O+P+Q+M+L+J | 生誕 130 年 今純三：純三が描いた戦前の青森

弘前市出身の今純三は、日本近代銅版画家を代表する一人で、青森県の洋画や版画、美術教育の礎を築き、本県美術史に大きな足跡を残した。

代々医者家に生まれた純三は、医学の道に進むことを期待されたが、家族の反対を押し切って画家になることを決意し、本郷洋画研究所に入り、当時最も権威のある文展（第 7 回）、帝展（第 1 回）で入選を果たした。その後、洋画家として東京で活動が続いていたが、1923 年の関東大震災後、青森に移り住む。

純三は、生活のために印刷の仕事をするかたわら、銅版画や石版画の研究を始める。さらに、兄和次郎の考現学調査を手伝ううちに、その魅力に引き込まれていった。版画技法の研究と考現学手法である写実的検証をもとに、青森県内の自然景観、人々のくらしの写実的記録画ともいえる『青森県画譜』（1933 年）を制作、続けてエッチングによる「奥入瀬溪流」連作（途中、病に倒れ未完）、さらに『創作版画小品集』（1935 年）制作に取り組んでいった。作品制作だけでなく、版画技法の研究と後進の育成にも情熱を注ぎ、彼が自ら建てた青森市合浦公園近くのアトリエには、多くの芸術を志す若者達が訪れた。1939 年に再び上京、銅版画の普及のために様々な仕事を引き受けつつ、1943 年に版画の技法書『版画の新技法』（三國書房）を出版。戦争が深まる中、心身の酷使により発病し世を去った。

本展の中心となる『青森県画譜』と『創作版画小品集（エッチング小品集）』は、考現学の視点で戦前の青森の姿をとらえたものである。純三は『青森県画譜』終刊を迎えた「作者の言葉」において、制作の動機を次のように語っている。

—郷土の自然と人に就いて其の真相を描写して一つの纏まった画譜としたならば何等か世を、人を、益するものがあるのでは無からうかという考えからその実現を企てたのであった。—

青森の自然、歴史、今現在の日常、人々のくらしを描き残すことが「何かしら社会的に課せられた責務」という強い思いから『青森県画譜』は制作された。

純三が描いた戦前の青森の姿は、歴史・民俗学的にも貴重な記録であるとともに、版画家としての優れた技術による高い芸術性が現代の私たちを惹きつけるのである。

青森県立郷土館では、平成 4 年の特別展「日本近代銅版画と今純三」をはじめ、これまでその業績を度々紹介したが、生誕 130 年を迎えた本年、同館コレクションを中心に、彼の画業を振り返り、昭和初期の青森の風景や人々のくらしを誠実に、そしてユニークな視点でとらえた『青森県画譜』やふるさとを見つめる優しいまなざしに満ちた『創作版画小品集』シリーズ、研ぎ澄まされた版画技法で表現された作品の数々に加え、純三が作品の中に描いた昭和初期の子どもねぶた・ねぶたや、お山参詣資料などの実物資料などあわせて 125 点の作品資料を展示した。

※本展示は、令和 5 年度青森県立郷土館サテライト展として、青森県立郷土館の企画により行った。



展示室 I | 成田亨：彫刻と怪獣の間で

「真の芸術って何だろう？おそらく無償の行為だろう？私は、そう思っています。映画をつくったり、デザイナーと云われる人種は、芸術家ではなくなりそうです。世の中の変化と要求に、作家の方がピントを合わせて、努力は、自己探求ではなく、環境の変化への目移りだ、と云う事になりそうです。パイオニヤは薄幸の中にこの世を去り、そのパイオニヤの開いた道を、手際よく頂いて、我が世の春を謳うのがデザイナーと云う人種かも知れません。（中略）私はデザイナーです。これは彫刻家のアルバイトと、割り切れるものでもありません。新しい形を創ろうとしている自分は何だろう？（中略）私は彫刻家なのだろうか？或いはデザイナーな

のだろうか？その両方だろうか？そのどちらでもないのだろうか？」（*1）

青森高校在学中、阿部合成に学び、詩人山岸外史から薫陶を受けた成田亨。合成に「君は抒情詩人だ。浪漫派だ。」と賞され、「作為に満ちたエモーションのない絵は一喝された。」という成田は、晩年まで「初発的感情」という創作動機の重要性を繰り返し述べていた。少年期に戦争記録画を見て衝撃を受け、戦後の混乱期に多感な青年期を過ごし、高度成長期に入ると同時に映画、そしてテレビの仕事を手がけ、バブル期に自身の彫刻の集大成とも言える《鬼のモニュメント》（1991 年）を京都府大江町に完成させた成田は、ある意味で戦後社会の動向に沿いつつ創作活動を続けた作家と言ってもよいであろう。さらに、自らがデザインしたウルトラマンや怪獣が消費の対象という「商品」になってしまったことで精神的に疲弊した成田は「悲劇的なもの」へと傾倒し、晩年には「僕の描きたい絵のテーマは〈絶望〉です」（*2）と述べるようになっていった。

怪獣デザインについても成田は、「怪獣が芸術ではないというのは、内容的に芸術的であるかないかという問題じゃなくて、やっぱり芸術の分類の形式から、そうになっているんじゃないですか。」（*3）と述べているが、それはサブカルチャーが「傍流」であるという集合的無意識を反映したものと言えるのではないだろうか。そうした一般的な価値観と、自身の表現との間で終生苦悩したのが成田亨という芸術家であった。それを成田個人の問題と捉えるのではなく、広く戦後日本の文化史／社会史の中に位置づけ、考えてみる。社会の閉塞感が再び強まりをみせる今、成田亨の歩んだ人生と残された作品から考えるべき点は多いように思えるのだ（33 点を展示）。

*1 成田亨「彫刻と怪獣との間」『成田亨 彫刻・映画美術個展』リーフレット、1968 年

*2 成田亨『特撮と怪獣』フィルムアート社、1995 年、p.256

*3 前掲書『特撮と怪獣』 p.251

展示室 H | 没後 40 年 寺山修司：ジャパン・アヴァンギャルド
寺山修司（弘前市出身／1935-83）は県立青森高等学校時代、「俳句」によって表現活動をはじめ、早稲田大学進学後は「短歌」の世界へ、その後凄まじいスピードでラジオ、テレビ、映画、そして競馬やスポーツ評論の世界を駆け抜けていったマルチアーティストである。1967 年には「演劇実験室◎天井桟敷」を立ち上げ、人々の旧来的な価値観に揺さぶりをかけ、さらには多岐にわたる活動の中、美術、デザイン、音楽といった様々なジャンルで新しい才能を発見し、育てていったことも特筆すべき業績の一つと言える。1960～70 年代はいわゆるアングラ文化が全盛の時代であった。高度成長によって近代化が急速に進む一方、社会的な構造と人間の精神との間に様々な歪みが生じ、そうした近代資本主義社会の矛盾を告発するかのよう権力や体制を批判、従来の価値観を否定していく活動が盛んとなっていった。特に寺山は大衆の興味や関心をひきつける術に特異な才能を発揮した。演劇や実験映画で

はそれが顕著で、演劇、映画のあらゆる「約束事」が否定され、感情や欲望を刺激するイメージで覆い尽くされた寺山の斬新な作品は多くの人々を虜にしていった。

今回の展示では、寺山が主宰したアングラ文化の象徴とも言うべき「演劇実験室◎天井桟敷」のポスター 18 点を紹介した。

AOMORI GOKAN アートフェス 2024 前期コレクション展 AOMORI GOKAN Arts Fest 2024 (early period): COMPOSTING & COLLECTIONS

2023 年度第 4 期にあたるコレクション展は、AOMORI GOKAN アートフェス 2024 内での「かさなりとまじわり」と題した県立美術館展示企画の一柱として位置づけ開催した。2021-23 年度に青森県内各地で展開したアートプロジェクト事業「美術館堆肥化計画」の総合成果を示す展示「美術館堆肥化宣言」を主として、棟方志功や奈良美智の作品を展示します。作家のみならず青森の地に生きる人びとの活動や個性の「かさなりとまじわり」をお楽しみいただきたい。

会 期：2024 年 2 月 10 日（土）～6 月 23 日（日）
休館日：毎月第 2・第 4 月曜日（この日が祝日の場合はその翌日）
および 2 月 26-28 日、3 月 18-19 日、5 月 14-15 日

特別展示

展示室 N,O,P,Q,M,L,J,I,H ほか | 美術館堆肥化宣言

→41～47 ページを参照

棟方志功展示室 | 棟方志功：交友から生まれたコレクション - 棟方とコレクター

当館が所蔵する棟方志功作品は約 270 作品。それらの当館に収まる以前の所蔵者は個人や団体など様々だが、今回はその中から棟方と直接交友のあったコレクターの旧蔵品を中心に紹介する。

当館は昨年度、歌人の小林正一が収集していた棟方作品のご寄贈を受け、「小林正一コレクション」として所蔵している。棟方作品を愛好し収集していた小林は、そこから想を得た歌「志功描く 女の顔はいとあやし 遊女とも見ゆ 菩薩とも見ゆ」が新聞の歌壇欄で第一位を獲得したことをきっかけに 1959 年頃棟方本人と初対面し、交友を深めるようになった。長野県出身である小林は、1973 年には棟方の依頼で信州スケッチ旅行の案内役を務めたこともある。当館の小林コレクションは、小林が詠んだ歌を棟方が気の向くままに板画化した《山懐頌》をはじめ、直接依頼して描いてもらったという晩年の優れた肉筆画の数々で構成されており、友情で結ばれた作家とコレクターがともに作り上げてきたかけがえのないコレクションとなっている。

安部登樹も棟方の友人であり作品を収集していた。安部は 1945 年頃に益子の陶芸家濱田庄司、次いで棟方と出会い、しばしば互いの家を行き来する仲になった。その際に作品をもらって帰る、あるいは寄せられる、ということがあったといい、こうして自然と集まった作品や棟方に制作を依頼した作品によって安部のコレクションが形成されていった。当館では安部邸の壁面に棟方自ら

希望して描いた《鷺栖図》を収蔵しており、今回は棟方志功記念館に寄贈された安部の旧蔵品と併せて展示する。

作家と同時代の友人が収集したコレクションは、それぞれの趣味や人柄、作家との縁を反映し、多彩で意義深いものとなっている。棟方とコレクターとの交友に思いを馳せながらお楽しみいただきたい。

展示室 F, G | 奈良美智 : Harmlos sein ハルムロス ザイン 純粋なるもの

国内外で活躍する青森県出身の美術作家・奈良美智は、孤独に佇む鋭い眼差しの子どもの絵画やどこか哀しげな犬の立体作品で、国や世代を超えて多くの人々の心を捉えてきた。青森県立美術館では、開館前の 1998 年から奈良の作品を収集し始め、現在、その数は 170 点を超える。ここでは当館の収蔵作品と作家からの寄託作品を合わせて展示している。

タイトル「Harmlos sein」は、小屋の作品《アオモリ・ヒュッテ 2》内に上映されている、奈良が撮った写真のスライドショーのタイトルを引用したもので、「無害なもの」や「無邪気な存在」を意味するドイツ語である。子どもたちの屈託のない笑顔、こちらをまっすぐに見つめる犬の眼差し、川面のきらめき、スライドショーに流れる写真は、生きとし生けるものの中に宿る最も純粋な部分を映し出すようである。

奈良の作品ではしかし、それら「無邪気な存在」が、時に涙をたたえていたり、怒りをむき出しにしたりしている。それは彼らの純粋な部分に何らかの圧力が加わった時、内側から湧き上がる抵抗の力の表れに見える。奈良の作品世界はいつも、あらゆる存在に備わる「純粋なるもの」とそこから引き出される内発的な力を気づかせてくれる。

アートプロジェクト

美術館堆肥化計画 2023+総合成果展示「美術館堆肥化宣言」



「美術館堆肥化計画 2023」ポスター



「旅するケンピ」マエダ本店館での展示の様子

開催概要

美術館堆肥化計画 2023

2023年9月23日(土祝) - 11月3日(金祝)

会期中無休・観覧および参加無料(全会場ともに)

旅するケンピ 〈美術館 PR & 事業ビジター展示〉

〔会場〕マエダ本店

〔営業時間〕9:00-21:00(ただし食料品以外は 10:00-20:00)

〔鑑賞者数〕およそ 12,000 名



地域展示中のマエダ本店館外観

耕すケンピ 下北編：脈動する 〈アート展示等〉

参加作家 1 An Art User Conference (アートコレクティブ)

〔会場〕大間鉄道メモリアルロードとその周辺(風間浦村)

〔鑑賞者数〕9,238 名

参加作家 2 小田 香(フィルムメーカー/アーティスト)

〔会場〕①尻屋崎公園ビジターハウス(東通村)

②釜臥山展望台(むつ市)

〔営業時間〕①9:00-17:00 ②8:30-21:30

〔鑑賞者数〕①およそ 10,000 名 ②4,910 名

参加作家 3 Itazura NUMAN(縫いもの集団)

〔会場〕①マエダ本店内各所 ②古民家カネシチ+(佐井村)

〔開館時間〕①9:00-21:00(ただし食料品以外は 10:00-20:00)

②9:00-19:00

〔鑑賞者数〕①およそ 6,000 名 ②85 名

〔主催〕青森県立美術館

〔企画HP〕<https://www.aomori-museum.jp/schedule/12310/>



「耕すケンビ」小田 香による作品展示「寒立馬 視線の遠近」の様子
(会場：釜臥山展望台)



「耕すケンビ」イタズラ・ヌーマンによる地域展示「メダルをサムヘ」の様子
(会場：古民家カネシチナ)



「耕すケンビ」小田 香による作品展示「寒立馬 視線の遠近」の様子
(会場：尻屋崎公園ビクターハウス)



「耕すケンビ」イタズラ・ヌーマンによる地域展示「メダルをサムヘ」の様子
(会場：マエダ本店)



「耕すケンビ」アート・ユーザー・カンファレンス
「ジェネラル・ミュージアム」展開



「美術館堆肥化宣言」ポスター

総合成果展示「美術館堆肥化宣言」

2024年2月10日(土)－6月23日(日)

【会場】青森県立美術館(展示室NOPQMLJIH+館内各所)

【開館時間】9:30-17:00

【料金1】(～4/12) 一般510(410)円、高大生300(240)円、
小中学生100(80)円

【料金2】(4/13～) 一般900(700)円、高大生500(400)円、
小中学生100(80)円

【鑑賞者数】50,061名

【堆肥者】An Art User Conference(アートコレクティブ)、「ありのままの表現展」に集まった作家たち、伊沢正名(糞土師)、Itazura NUMAN(縫いもの集団)、小田香(フィルムメーカー/アーティスト)、偽石器、竹内正一(開拓農家)、田附勝(写真家)、テ

ラヨンカーズ（子どもの休日応援団体）、外崎令子（農婦）、庭田植え（東通村大に伝わる予祝儀礼）、畑井新喜司（動物学者）、弘前大学教育学部有志、三上剛太郎（医師）、蓑虫山人（旅人 / 六十六庵主）、ミミズ etc.（※）

【コレクションより】青木淳（「動線体」構造）、荒川修作、大小島真木+アグロス・アートプロジェクト（※※）、工藤哲巳、斎藤義重、（成田亨）

※本展ではアーティストも地域ゆかりの文化の肥やし手も、一律に「堆肥者」と呼称し紹介した。 ※※寄託作品

【主催】青森県立美術館

【協力】青森県立郷土館、社会福祉法人あーるど、曹洞宗長福寺、中泊町博物館、日本赤十字社青森県支部、弘前大学北日本考古学研究所、六ヶ所村立郷土館

【企画HP】<https://www.aomori-museum.jp/schedule/13183/>

関連事業

美術館堆肥化計画 2023 では、むつ市と佐井村にて参加アーティストによるワークショップを開催し、総合成果展示時は「追肥」と称して様々な関連イベントを実施した。

美術館堆肥化計画 2023

（1）ワークショップ「べろっと☆NUMAN（佐井村編）ーマイバッグをつくろう、かざろう」

佐井村の古刹・長福寺を会場にイタズラ・ヌーマンが「べろっと（突然）」ワークショップを開催。村で分けていただいた布を主な材料として、参加者持ち込みによるバッグをかざったり、作品を新しく作ったりすることのできるワークショップを時間中随時開催。時間中はテラヨンカーズによる縁日が会場に隣接する大広間で開催されるなど、終始にぎやかな雰囲気であった。

2023年9月23日（土）13:30-16:30

【会場】長福寺本堂 参加無料

（2）ワークショップ「べろっと☆NUMAN（むつ市編）ータンスの肥やしでリメイクしよう」

県内主にむつ市周辺の作家たちが主催するクラフトフェア「じょいふるくらぶ BIG」にイタズラ・ヌーマンが「べろっと」出店する形で参加。会場入口にワークショップ・テーブルを設置し、むつ市内で事前に収集しておいた布を材料として参加者が持ち帰ることのできる服や手芸作品をつくるほかステンシル・ワークショップなども実施した。

2023年9月24日（日）10:00-16:00

【会場】下北文化会館 1 階展示ホール 参加無料

総合成果展示「美術館堆肥化宣言」

追肥（1）弘前大学教育学部有志による作品展示

会期中、館内救護室や授乳室を会場に弘前大学教育学部有志による作品展示を併催した。

【鑑賞時間】10:00-16:00 観覧無料

追肥（2）テラヨンカーズとミニ四駆をつくって走らせよう！

美術館を子どもの遊び場や親子で楽しむ場とするべく、展示参加の「子どもの休日応援団体」テラヨンカーズ（佐井村拠点）と共に、ミニ四駆をつくって展示室内のコースで走らせた。

2024年2月17日（土）、6月22日（土）

各日①10:30-12:00 ②13:30-15:00

【会場】ワークショップ A、展示室 O

【堆肥者】テラヨンカーズ

【参加者数】（2月）14名（6月）5名

参加無料（要コレクション展チケット） 要事前申込

追肥（3）百年芸能祭@青森製糞館（県立美術館）

関東大震災百周年を機に 2023 年に立ち上げられ、2123 年まで各地で様々な人の手により自由に開催される「鎮魂と予祝のマツリ（祭り / 祀り）」を、座談会やライブイベント、アーティストによる版画作品の公開制作やプリント体験などを二日間にわたり開催した。

座談会+演奏「ぶかぶかー忘却の野に春を想う 2024」

3月30日（土）（昼の部）14:00-16:00 頃

【会場】屋外展示室前室

【堆肥者】姜信子（游文の徒）、山内明美（歴史社会学者）、森元斎（哲学者）、zodiac

【参加者数】30名

LIVE「りんりん」

3月30日（土）（夜の部）17:00-17:45 頃

【会場】展示室 K

【堆肥者】長崎製糞社

A3BC: 反戦・反核・版画コレクティブによる公開制作

【参加者数】12名

3月30日（土）- 31日（日） 各日 10:00-16:30

【会場】展示室 H

【堆肥者】A3BC: 反戦・反核・版画コレクティブ

参加無料（要コレクション展チケット） 申込不要

追肥（4）担当学芸員による展示解説

2月10日（土）、4月29日（月祝）、5月3日（金祝）、6月23日（日）

各日 11:00-12:00

【集合】エントランスギャラリー

【講師】奥脇嵩大（展示担当学芸員）

【参加者数】計 82 名

参加無料（要コレクション展チケット） 申込不要

追肥（5）糞土師フン談+映画『うんこと死体の復権』先行上映会
展示参加の糞土師・伊沢正名によるギャラリートーク「フン談」と、伊沢が主演に名を連ねる映画『うんこと死体の復権』先行上映会を行った。

6月2日（土）（フン談）10:30-11:30（上映会）13:30-16:30

【会場】（フン談）屋外展示室前室（上映会）シアター

【堆肥者】伊沢正名、関野良晴（※）

※本映画の監督。上映会後のオンライン舞台挨拶に参加

【参加者数】計 24 名

参加無料（要コレクション展チケット） 要事前申込

追肥（6）NUMANの恩がえし -0円ショップ in 青森県立美術館
Itazura NUMAN により北半島域で制作し、成果展示で紹介した作品の多くを展示最終日に無料で鑑賞者に持ち帰っていただけるイベントを開催。展示の終わりと地域や美術館のこれからをにぎやかに祝うイベントとなった。

6月23日（日）14:00-17:00

【会場】展示室H【堆肥者】Itazura NUMAN

参加無料（要コレクション展チケット） 申込不要



「宣言1 糞虫山人：収集から共有へ」の様子。壁には《陸奥全国古陶之図／陸奥全国神代石之図》（年代不詳／弘前大学北日本考古学センター蔵）等が並ぶ。



「宣言2 漏らしは肥やし」の様子。壁や床には伊沢正名《野糞跡掘り返し調査》（2007-09）を展開。



「宣言2 漏らしは肥やし」の様子。



「百年芸能祭@青森製糞館」での姜信子、森元高、山内明美、zodiacを迎えた座談会の様子。壁には大小島真木+アグロス・アートプロジェクト《明日の収穫》（2017-18）を展示。



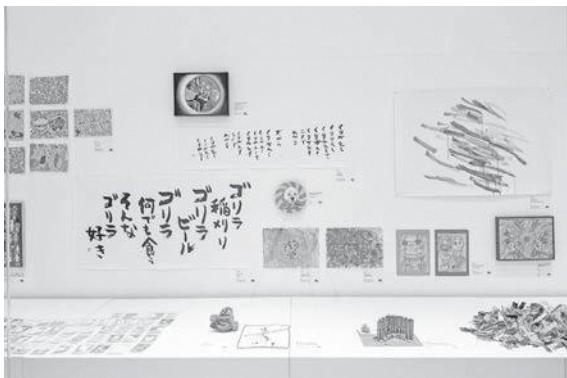
「宣言3 堆肥者は至るところに」の様子。「子どもの休日応援団体」テラヨンカーズらによるミニ四駆コースなどが並ぶ。



追肥「テラヨンカーズとミニ四駆をつくって走らせよう！」の様子



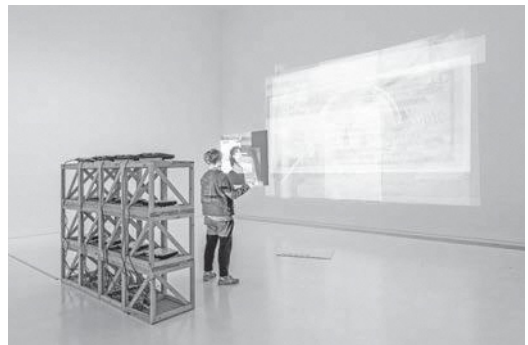
「宣言 4 田附 勝：刻み込む土地・わたし」の様子。



「宣言 5 共に生きるための距離を再設定する」の様子。県内「ありのままの表現展」に近年出品された作品等が並ぶ。



「宣言 5 共に生きるための距離を再設定する」の様子。小田香による県内福祉施設の日常や寒立馬を撮影した映像作品等が並ぶ。



「宣言 6 アート・ユーザー・カンファレンス：ジェネラル・ミュージアム | 墓」の様子。



「宣言6 アート・ユーザー・カンファレンス：ジェネラル・ミュージアム | 墓」の様子。



「宣言7 ここはリビング・インフラとしての美術館」の様子。
中央に三上剛太郎《手縫いの赤十字旗》(1905)



追肥「糞土師ファン談+映画『うんこと死体の復讐』」でトークを行う伊沢正名。



追肥「百年芸術祭@青森製糞館」で公開制作を行った「A3BC: 反戦・反核・版画コレクティブ」の面々が来場者から版画の刷りを教わる様子。

記録集

〔総 頁 数〕124 頁

〔サイ ズ〕A5 判 ソフトカバー

〔編 集〕奥脇嵩大

〔執 筆〕An Art User Conference、ミミズ、奥脇嵩大

〔デザイン〕菊地敦己

〔印刷製本〕株式会社山田写真製版所

〔発 行〕青森県立美術館

〔発行日〕2024 年 3 月 30 日

事業解説

美術館堆肥化計画 2023

2021 年度以来実施している「美術館堆肥化計画」第三弾。今回は下北半島を特徴づける「自然」「生活文化」を手がかりに、美術館と地域の協働を通じて地域の魅力を様ざまに発掘・発信することとした。23 年度は、むつ市にあるマエダ本店を会場にした美術館 PR および事業ビジター展示「旅するケンピ」と、下北半島各地の様々な場所や施設で参加アーティストによる作品展示等を行う部門「耕すケンピ 下北編：脈動する」の二本立てで展開。美術館にまつわる経験を応用し、美術館を人が生きることをその足元から更新する経験の枠組みとして、地域の中で使いなおす試みとなった。

旅するケンピ 美術館の建築模型や外壁を彩るネオンサイン、ファッションブランド「ミナベルホネン」による監視員の制服、美術館の展示空間を模した仮設ホワイトキューブのほか、事業参加アーティスト 3 組の活動を紹介するパネル展示を行った。本展示は下北半島各所を会場としたアート展開への導入であり、「つくること」と「地域に生きること」の重なり交わりを通して、地域文化や生活の魅力を再発見するためのきっかけになることを目指してつくられた。施設の方に積極的な広報協力などいただき、施設内でにぎやかに行われた本展示は、来場者間でコミュニケーションが生まれるなどして、総じて好評であった。

耕すケンピ 下北半島域では「脈動する」をテーマとし、参加作家 3 組が地域各所で作品展示やワークショップを展開した。風間浦村の協力を得た An Art User Conference(アート・ユーザー・カンファレンス)は、下風呂温泉郷にある大間鉄道メモリアルロードとその周辺を会場とし、現在まで遺構が残る「大間鉄道」から着想を得た、まだ見ぬ世界をイメージし、そこに向かうためのサインボード状の作品を設置した。小田香は東通村、むつ市の協力のもと「寒立馬 視線の遠近」と題し、尻屋に今も生きる在来馬・寒立馬を被写体とした映像制作をおこなう過程でできた描画作品や写真作品を上記地域の二会場にて展示し、私たちが種を越えてともに生きるための「距離」を手さぐるイメージ実践

を展開した。Itazura NUMAN(イタズラ・ヌーマン)は佐井村、むつ市の協力のもと、特にむつ市では事前に市役所に設置した回収ボックスをもとに布を集め、その布を主な素材に制作した作品をマエダ本店や佐井村で紹介する活動「メダルをサムヘ」を行った。また二地域で古着や布を用いて行うリメイク・ワークショップを展開した。いずれの会場でも地域と協働し、取材しながらつくられた現代アートの展開がつくられ、地域とアーティスト、美術館との間でなされた濃密なやりとりをもとに、地域に生きることの喜びを、アートを通じて再発見する場を創出することができた。来場者からは地域に根ざした現代アート展開を歓迎する声が聞かれたほか、地域の魅力に改めて気づかされた旨の声を多くいただくことができた

でのフォローアップの方法を検討していくことを今後も続けていきたい。

最後に関係してくださった皆さま、本当にありがとうございました。

総合成果展示「美術館堆肥化宣言」

コレクション展内特別展示に位置づけられ、「美術館堆肥化計画」三年間の成果から生まれた7つの宣言(章)から構成された本展は、参加アーティストの今日まで続く地域で制作された作品に加え、事業をととして出会うことになった福祉にもとづく地域づくりや子どもの放課後支援、オリジナルの博物館構想といった自分なりのやり方で地域を豊かに耕そうとする人びとの活動、民俗儀礼やミミズ、自然石をも「堆肥者」として一律に捉え、彼らの営みを館のコレクションや関連企画とともに紹介するものである。美術館をはみ出す堆肥者が仲よく時にケンカをしながら集まってできた本展は、私たちの営みの全てを芸術に紐づけようとする美術館の従来の権力構造をやわらかく否定し、ゆるやかな機能不全を引きおこし、そこを足がかりとして私たちはいかなる形で、美術館をフェアに使いなおすことが可能かを検討するものとなった。同時に地域間交流を促進し、地域で人がともに生きるための術としてのアートの可能性をひらくものとなった。閉塞と混迷の一途を極めるこの現実世界の渦中において、美術館を私たちの「生きる力を下支えする場(リビング・インフラ)」へと生まれ変わらせることを宣言するものとなった。

担当所感

三年間にわたって県内各地で協力してくださる個人や団体、自治体と作家、美術館との濃密なやりとりのもとに展開した「美術館堆肥化計画」は、今回の総合成果展示「美術館堆肥化宣言」において事業としてはひとまずの終了となる。総じて本事業は美術館活動を地域に広く、積極的にひらいていくことで、美術館の活動可能性を拡張するとともに地域に根ざした文化的な生活の向上を図る機会として機能していた。当たり前の話だが、その結果得られた地域との縁は事業の有無に関わらず大事にしなければならない。「金の切れ目が縁の切れ目」とならないよう、地域との関係を様々な形で持続していく方法をこれからも検討し続ける必要がある。具体的には事業終了後も各地域に残る制作作品群の一部や、本事業展開がきっかけとなって深化する各地域でのアート展開をコレクション展などの美術館活動の中で紹介するなど、引き続い

5 館連携プロジェクト

5 館連携の推進

事業概要

2020 年の弘前れんが倉庫美術館の開館と 2021 年の八戸市美術館の開館を機に、青森県立美術館、青森公立大学 国際芸術センター青森、十和田市現代美術館の 3 館を加えた 5 つの公立の美術施設による連携の取組を推進するための組織として 2020 年 7 月に「青森アートミュージアム 5 館連携協議会」（事務局：青森県立美術館）が設立された。

県民及び観光客の県内周遊を促進し、美術館への入館者数の増加につなげるため、5 館連携の基盤を活用して、青森のアートの魅力を国内外への情報発信及び周遊促進に係る事業を行っている。



5 館連携ロゴ・キャッチコピー

主な事業内容

1. 5 館共通ウェブサイトを活用した情報発信

(URL : <https://aomorigokan.com>)

- ①各館の基本情報、展覧会スケジュール
- ②5 館以外のアートコンテンツ
- ③アクセス
- ④各館建築家インタビュー動画の多言語化

2. 「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」の開催に向けた準備

5 館連携協議会のこれまでの取組を基礎として、5 館、各館を所有している県と市に加え、アート周遊の取組を考えて公益社団法人青森県観光国際交流機構を含めた「AOMORI GOKAN アートフェス 2024 実行委員会」設立。(2023 年 3 月)

(1) 開催概要

タイトル：AOMORI GOKAN アートフェス 2024

「つらなりのはらっぱ」

会期：2024 年 4 月 13 日（土）－ 9 月 1 日（日）

主催：AOMORI GOKAN アートフェス 2024 実行委員会

[青森県立美術館、青森公立大学 国際芸術センター青森、弘前れんが倉庫美術館、八戸市美術館、十和田市現代美術館、青森県、青森市、弘前市、八戸市、十和田市、(公社) 青森県観光国際交流機構]
主会場：青森県立美術館、青森公立大学 国際芸術センター青森、弘前れんが倉庫美術館、八戸市美術館、十和田市現代美術館

(2) ロゴの作成



縦バージョン



横バージョン

(3) 公式ウェブサイトの作成

(URL : <https://aomori-artsfest.com>)

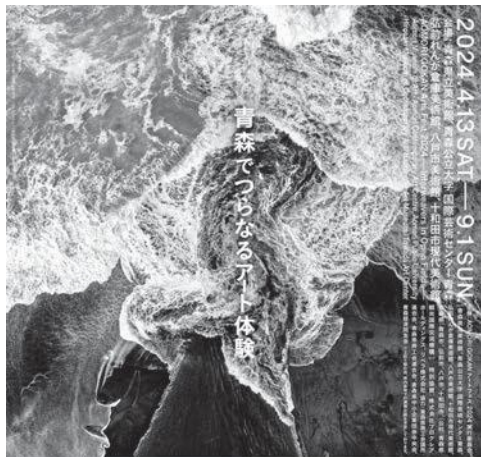
- ①開催スケジュール
- ②各展覧会
- ③イベント
- ④アクセス
- ⑤周遊モデルコース
- ⑥フェスサポーター
- ⑦周遊チケット
- ⑧グッズ

(4) ポスター・チラシの作成

開催を宣伝するポスターとチラシを制作し、県内外に配布。

制作数 ポスター：3,000 枚

チラシ：130,000 部



ポスター

青森県内5つの美術館・アートセンターによるアートフェス
AOMORI GOKAN
アートフェス2024
つらなりのほらっぱ
<https://aomori-artsfest.com>

(5) 公式ガイドブックの作成

①名称

AOMORI GOKAN アートフェス 2024 公式ガイドブック

②掲載内容

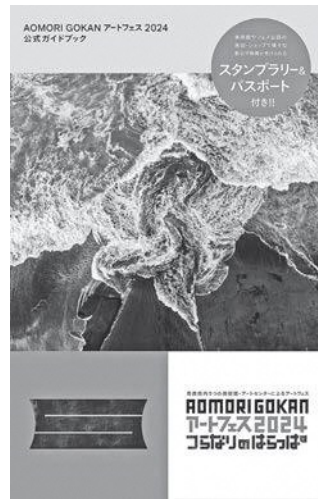
各展覧会情報、各地の食・観光情報、周遊モデルコース等

③価格

1,300 円（税込）

④発行

グラフ青森



表紙



チラシ（表）



チラシ（裏）



中面（周遊モデルコース）

(6) 周遊チケット（電子）の販売

各館のメイン企画を鑑賞できる周遊チケットを電子チケットとして販売

①名称

AOMORI GOKAN アートフェス 2024 公式ガイドブック付き 5 館周遊チケット

②価格

3,700 円

3. バブリシティ

各媒体に情報提供を行い、5 館で連動した情報発信を行った。

○雑誌等掲載実績（主なもの、順不同）

- ・ Kappo 仙台闊歩
- ・ Casa BRUTUS
- ・ 日経 TRENDY
- ・ Harper's BAZAAR ほか

4. 青森アート周遊観光コンテンツの開発

青森県ならではの文化、食などの地域資源を活用して、「アートツーリズム」の旅行商品化に向け、アートを活用した周遊促進につなげる観光コンテンツを開発した。

①一般財団法人 VISIT はちのへ

はちのへエリアの生乳を使用した濃厚なソフトクリームに、色鮮やかな地元の野菜や果物のソースなど多彩なトッピングを使用した、オリジナルソフトクリーム作りのプログラムを開発

②一般社団法人しもきた TABI あしすと

佐井村の“ホップ”を使ったハーバリウム製作体験、心を整える“写仏”アート体験などの体験コンテンツを開発

各種イベント

ナイトミュージアム

開館時間を延長した夜の美術館で、多くの方にゆったりとした時間を楽しんでいただくための「ナイトミュージアム」を開催した。

概要

日程：2023年 7月15日（土）

8月19日（土）

9月23日（土）

10月21日（土）

11月18日（土）

12月9日（土）

2024年 1月20日（土）

2月17日（土）

3月16日（土）

時間：17:00-20:00（最終入館 19:30）

広報活動

宣伝物作成枚数：

チラシ（A4版／カラー両面）16,000枚

※夏季・冬季で8,000枚を計2回印刷

広報：

- ・青森市内の文化施設、観光施設、ホテル、飲食店を中心にチラシを配布し、配置を依頼。
- ・青森県立美術館のホームページやSNS、県広報（ラジオ・新聞）等で情報を発信。
- ・青森ケーブルテレビのお知らせにて、定期的に情報を発信。



夏季チラシ



冬季チラシ

イベント

(1) アレコホール無料開放（全日実施）

「アレコホール」をナイトミュージアム限定で無料開放。アレコホールのみ入場の来館者には、青森県立美術館のロゴマークのシールを確認しやすい位置に貼付。

(2) 館内鑑賞ツアー（全日実施）

- ・青森県立美術館の建築や作品について、学芸員が解説するツアーを実施。
- ・ホームページで募集。先着順・予約制・コレクション展チケットの購入が条件のもと10名限定で実施。すべて定員上限の申込。

(3) ミュージアムコンサート

- ・第一部：「アレコホール」にてピアノを学ぶ学生等によるピアノ演奏会を開催。（詳細は65P参照）
- ・第二部：「アレコホール」にて、様々な音楽ジャンルのミニコンサートを開催。（詳細は66P参照）

(4) 12/9 特別イベント『キャンドルナイト』

「BLUE TOKYO」がプロデュースする、男子新体操のパフォーマンスや、棟方志功作品《花矢の柵》をモチーフにしたストーリーダンサーとの共演。



キャンドルナイト公演

(5) カフェ「4匹の猫」

ナイトミュージアム限定メニューを提供。

・夏季メニュー

マンゴーババロア ～ブラッドオレンジソースのせ～
¥650

・冬季メニュー

さつまいもを使ったムースのようなプリン 650円



夏季メニュー



冬季メニュー

学芸

美術資料収集

「美術資料収集」における作品データは、作家名、作品名、制作年、寸法（高さ × 縦 × 横、cm）、技法、収集区分、備考の順に記した。

令和 5 年度収集美術資料

石井康治
彩炎大鉢
1986
15.0×43.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
窓
1987
38.0×27.0×9.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
彼方
1987
23.0×53.0×20.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
挽歌
1988
36.0×25.0×11.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
波の景
1989
30.0×23.0×10.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
花の景―漸
1990
36.0×19.0×13.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
波濤
1990
32.0×25.0×19.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
波の跡
1990
41.5×35.0×13.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
雲海
1990
36.5×20.0×10.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
月夜野
1991
43.5×33.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
武蔵野
1991
45.0×34.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
秋宵
1991
45.0×34.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
雪花
1991
59.0×19.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
彩文花器
1991
29×26×19
吹きガラス
寄贈

石井康治
彩烈紋器
1991
40.5×33.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
彩烈文花瓶
1991
44×19×13.5
吹きガラス
寄贈

石井康治
テーブルランプ
1992
高 50.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
大皿―冬の詩
1992
8.0×59.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
大皿―春の詩
1992
8.0×54.5
吹きガラス
寄贈

石井康治
彩烈文器
1992
30.0×24.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
彩烈文器
1992
25.5×22.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
慕
1992
42.5×21.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
テーブルランプ
1993
高 85.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
汎状文器
1993
37.0×26.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
汎状文器
1993
32.5×27.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
モザイク文花器
1993
25.5×23.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
葉状文器
1993
23.0×24.5
吹きガラス
寄贈

石井康治
環象文器
1993
36.0×33.0×31.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
環象文器
1993
35.0×35.0×31.5
吹きガラス
寄贈

石井康治
環象文器―愁
1993
45.0×29.5
吹きガラス
寄贈

石井康治
環象文器
1993
32.5×20.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
ちろり
1993
22.0×16.5
吹きガラス
寄贈

石井康治 テーブルランプ 1994 高 72.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 彩花文モール花生 1995 42.0×27.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 高杯—春譜 1996 100.0×33.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 とっくり 1990 13.0×7.5 吹きガラス 寄贈
石井康治 テーブルランプ 1994 高 58.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 彩花文器 1995 32.5×39.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 高杯—夏譜 1996 99.0×31.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 杯 1991 10×7 吹きガラス 寄贈
石井康治 風 1994 31.0×22.0×13.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 彩花文器 1995 42.0×22.0×14.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 高杯—雪譜 1996 81.0×40.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 盃 1991 4.5×8 吹きガラス 寄贈
石井康治 彩花文器—映 1994 24.0×24.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 彩硝文器 1995 33.5×24.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 大皿—夏の象 1996 6.0×44.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 とっくり 1992 15.0×9.0 吹きガラス 寄贈
石井康治 彩花文器 1994 41.0×32.0×20.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 彩硝文器 1995 27.5×21.0×13.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 大皿—秋の象 1996 5.0×46.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 花吹雪手鉢 1994 18.0×19.0 吹きガラス 寄贈
石井康治 彩花文器 1994 42.0×28.0×26.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 テーブルランプ 1996 高 48.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 淡雪四方花瓶 1996 38.0×22.0×22.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 花吹雪鉢 1995 9.0×19.0 吹きガラス 寄贈
石井康治 ガラス筥—波 1995 18.5×15.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 テーブルランプ 1996 高 67.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 彩花文器—花筏 1996 45.0×23.0×16.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 花吹雪平鉢 1996 6.0×21.0×21.5 吹きガラス 寄贈
石井康治 流文双耳花瓶 1995 35.0×15×10 吹きガラス 寄贈	石井康治 テーブルランプ 1996 高 67.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 彩花文器 1996 37.0×28.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 とっくり 1996 10.5×7.0 吹きガラス 寄贈
石井康治 彩花文器—霞 1995 37.0×27.0×18.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 テーブルランプ 1996 高 49.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 彩花文器 1996 26.0×30.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 盃 1996 4.0×8.0 吹きガラス 寄贈
石井康治 彩花文器 1995 43.0×36.0×18.0 吹きガラス 寄贈	石井康治 テーブルランプ 1996 高 42.5 吹きガラス 寄贈	石井康治 彩硝文コンボート 1996 20.5×30.5 吹きガラス 寄贈	石井康治 盃 1996 5.5×5.5 吹きガラス 寄贈

石井康治
水玉コップ
1996
11.0 x 7.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
香炉—花吹雪
1996
17.0 x 8.5
吹きガラス
寄贈

石井康治
香炉—樹映
1996
15.5 x 8.0
吹きガラス
寄贈

石井康治
香炉—新雪
1996
15.0 x 8.5
吹きガラス
寄贈

阿部合成
スケッチ（少女）
制作年不詳（戦前）
28.0 x 23.0
鉛筆・紙
寄贈

阿部合成
スケッチ（女性）
1965
23.0 x 16.0
油彩・鉛筆・紙
寄贈

阿部合成
スケッチ（見下ろす人々）
1941
8.2 x 9.0
墨・ペン・紙
寄贈

岡本光博
r#176 PTSD Aomori
2006
250.0 x 265.0
ミクストメディア
寄贈

学芸

美術資料貸出状況

「美術資料貸出状況」における作品データは、作家名、作品の順に記した。

生誕 120 年記念特別展 友情と信頼の障屏画

貸出先

- ・棟方志功記念館

展示施設（会期）

- ・棟方志功記念館
（2023年6月20日(火)～9月18日（日））

貸出点数：2

作品名

- ・棟方志功「驚愕図」
- ・棟方志功「御三尊像図」

縄文≡現代 ～共鳴する美のかたち

貸出先

- ・苫小牧市美術博物館

展示施設（会期）

- ・苫小牧市美術博物館
（2023年7月15日（土）～9月3日（日））

貸出点数：35

作品名

- ・岡本太郎「無題」
- ・高山良策「風夜」
- ・高山良策「照葉樹林」
- ・今純三「先住民族遺物圖『青森県画譜』第12輯（東奥日報社、昭和9年9月20日発行）」
- ・今純三「コドモ風俗に関するいろいろ『青森県画譜』第7輯（東奥日報社、昭和9年4月20日発行）」
- ・阿部展也「三人」
- ・小野忠弘「タダの人」
- ・斎藤義重「あほんらだめ」
- ・成田亨「ヘル星人」
- ・成田亨「バルタン星人」
- ・成田亨「ウルトラマンイラスト」
- ・成田亨「ウルトラマン初稿」
- ・成田亨「プラチク星人」
- ・成田亨「ケムール人」
- ・成田亨「タダ」
- ・成田亨「ゴドラ星人」
- ・成田亨「メトロン星人」
- ・成田亨「ジャミラ」
- ・成田亨「カネゴン決定稿」
- ・成田亨「ガラモン初稿」
- ・高山良策「UFO飛来者」
- ・高山良策「くんぎしんじょう」
- ・小野忠弘「くれなゐ」
- ・小野忠弘「オメガの天」
- ・村上善男「変数分離」
- ・村上善男「針供養B」
- ・山口長男「作品」
- ・今井俊満「昇る太陽」
- ・工藤哲巳「自然による養殖とそれを見ている人々」
- ・工藤哲巳「黒メカから白メカへ、それから…」
- ・工藤哲巳「電子回路の中における放射能による養殖」

- ・工藤哲巳「養殖・郷愁病用・あなたの居間に」
- ・工藤哲巳「縄文の精子の生き残り」
- ・工藤哲巳「前衛芸術家の魂」
- ・荒川修作「作品」

秋の展示 安於母利妃

貸出先

- ・棟方志功記念館

展示施設（会期）

- ・棟方志功記念館
（2023年9月20日(火)～12月17日（日））

貸出点数：1

作品名

- ・棟方志功「青森山之神図」

そのとき、岩手では

貸出先

- ・岩手県立美術館

展示施設（会期）

- ・岩手県立美術館
（2024年1月6日(土)～2月18日（日））

貸出点数：2

作品名

- ・橋本花「静物」
- ・橋本花「温室と睡蓮」

連続テレビ小説「ブギウギ」と 淡谷のり子展

貸出先

- ・NHK青森放送局

展示施設（会期）

- ・青森県立美術館コミュニティギャラリー
（2024年2月17日（土）～年3月3日(日)）

貸出点数：2

作品名

- ・阿部合成「花」
- ・橋本花「紅富士」

塩竈フォトフェスティバル 2024

貸出先

- ・塩竈フォトフェスティバル実行委員会

展示施設（会期）

- ・塩竈市杉村惇美術館
（2024年3月8日（金）～3月17日(日)）

貸出点数：45

作品名

- ・小島一郎「津軽地方／1957-58年」
- ・小島一郎「津軽地方／1957-58年」
- ・小島一郎「津軽地方／1957-58年」
- ・小島一郎「津軽地方／1957-58年」
- ・小島一郎「津軽地方／1958-61年」
- ・小島一郎「津軽地方／1957-58年」
- ・小島一郎「〈北の空〉津軽地方／1957年」

- ・小島一郎「〈夕暮れ〉五所川原市十三／1957年」
- ・小島一郎「津軽地方／1957-58」
- ・小島一郎「つがる市稲垣／1957-58年「冬の野」より」
- ・小島一郎「〈石を運ぶ女たち〉中津軽郡西目屋付近／1960年頃」
- ・小島一郎「西津軽郡深浦町北金ヶ沢／1957-58年」
- ・小島一郎「つがる市稲垣沼崎～車力／1958年」
- ・小島一郎「つがる市稲垣沼崎～車力／1958年」
- ・小島一郎「〈野の地藏堂〉つがる市木造沼崎～車力／1958年「津軽風景」より」
- ・小島一郎「弘前市百沢／1959年」
- ・小島一郎「弘前市百沢／1959年」
- ・小島一郎「西津軽郡鰺ヶ沢付近／1958年」
- ・小島一郎「津軽地方／1958-61年」
- ・小島一郎「つがる市木造／1958年」
- ・小島一郎「つがる市木造柴田／1959年」
- ・小島一郎「つがる市木造／1958年」
- ・小島一郎「五所川原市十三付近／1958」
- ・小島一郎「五所川原市十三／1959年」
- ・小島一郎「津軽地方／1960年」
- ・小島一郎「弘前市悪戸／1959年「暮れゆくみちのく」より」
- ・小島一郎「津軽地方／1958-61年「津軽野夏から冬まで」より」
- ・小島一郎「五所川原市十三付近／1960年頃」
- ・小島一郎「津軽地方／1958-61年」
- ・小島一郎「つがる市稲垣付近／1960年「暮れゆくみちのく」より」
- ・小島一郎「つがる市木造～出野里／1960年」
- ・小島一郎「〈寒さにふるえる馬〉つがる市木造／1960年「冬の津軽」
- ・小島一郎「つがる市木造稲垣／1960年」
- ・小島一郎「津軽地方／1957-58年」
- ・小島一郎「〈東京の夕日〉東京都内／1961年-63年」
- ・小島一郎「〈東京の夕日〉東京都内／1961年-63年」
- ・小島一郎「〈東京の夕日〉東京都内／1961年-63年」
- ・小島一郎「〈氷結〉下北郡佐井村長後牛滝／1961年「下北の荒海」より」
- ・小島一郎「むつ市脇野沢九艘泊／1961年」
- ・小島一郎「むつ市脇野沢九艘泊／1961年頃」
- ・小島一郎「〈寒風〉下北郡大間町／1961年「下北の荒海」より」
- ・小島一郎「下北郡大間町／1961年」
- ・小島一郎「下北地方／1962年頃」
- ・小島一郎「下北地方／1961年「白い風景」より」
- ・小島一郎「下北地方／1961年」

学芸

作品保存修復

保存管理

展示・保管している美術資料の公開と保存を両立させるため、温湿度等の空調や照度の調整、粉塵・有害ガス・虫菌害等の定期的な環境調査の実施などにより展示・収蔵環境を管理している。また、日常的な点検に基づき、必要に応じて収蔵作品等のマット装や表装・額装の改善、保存箱の作成、専門家による調査・保存処置等を行った。

教育普及

普及プログラム

こどもアトリエ

小学生以下を対象にワークショップの部屋を開放し、画材、粘土などを自由に使って作品制作をする場を提供した。R5 は、ドラマリーディング「子供向け屋外公演」と連携し、本県出身の「馬場のぼる」のスタンプ等を使い星空を制作するオープンアトリエを開催した。

日時：7月22日（土）、7月23日（日）13:00 - 16:00

場所：青森県立美術館 ワークショップ A

テーマ：馬場のぼるの「11 ぴきのねこ」スタンプを使ったオリジナルの星空作品づくり

参加者数：83 人



7月22日 こどもアトリエ

企画展連携プログラム

企画展「生誕 120 周年棟方志功展」の開催に合わせ、棟方作品の図柄スタンプを使い、オリジナルの柵を作る一般向けのワークショップ「私たちの柵綴り」を開催した。

日時：7月29日（土）～9月24日（日）

平日 14:00 - 16:00

土・日・祝 10:00 - 12:00 / 14:00 - 16:00

場所：青森県立美術館 B2 エントランス

テーマ：棟方志功の図柄スタンプを使ったオリジナルの柵づくり

参加者数：4,298 人



オリジナルの柵づくり体験の様子

ビジネスパーソンのためのアート講座

ビジネスシーンにおいて欠かすことのできない力である観察力・表現力・課題解決力・発想力などを育成し、ビジネスマンに美術に触れる面白さを体験してもらうと共に、美術館に親しみもっていただくアート講座を開催した。

日時：1月22日（月）※休館日 13:00 - 16:20

場所：青森県立美術館 ワークショップ A、館内展示室

テーマ：超アート思考で芸術作品をみる

参加者数：9 人（7 社）

教育普及

スクールプログラム

概要
未来の青森県を担う感性豊かな人材を育成するためには、多くの子どもたちに対して、優れた美術作品に出会い本物が持つ素晴らしさを体験し、ふるさと青森の芸術文化や先人を学ぶ機会を提供することで、郷土に対する誇りが持てる鑑賞指導を行うことが極めて重要である。
このため、子どもたちが居住地域や家庭環境の違いの影響を受けずに、級友と語り合いながら発達段階に応じた深さで等しく学ぶ機会を提供する学校教育の場を活用して、児童・生徒、教育関係者を対象に、鑑賞指導、研修会等の多様な事業を行うスクールプログラムを実施した。

学校団体の来館受入れ
多くの子どもたちが優れた美術作品に接し、豊かな感性や能力を伸ばす機会として、学校団体の来館を積極的に受け入れている。
メニュー：鑑賞プログラム（自由鑑賞、誘導鑑賞）、オリジナルプログラム（創作体験、他）

月	学校団体 展示会毎		団体数				
	常設展	企画展	小	中	高	特	計
4月	22	22	1	0	0	0	1
5月	432	344	3	4	2	0	9
6月	1,000	556	29	3	1	2	35
7月	710	549	11	4	1	1	17
8月	77	36	2	0	1	0	3
9月	443	270	8	3	1	1	13
10月	736	92	4	2	4	1	11
11月	326	229	4	1	1	2	8
12月	0	0	0	0	0	0	0
1月	34	34	1	0	0	0	1
2月	0	126	0	1	1	0	2
3月	0	0	0	0	0	0	0
合 計	3,780	2,258	63	18	12	7	100

出前講座
学校の要望等に応じ、学校での出前形式による講座（創作体験や職業講話等）を実施することがある。
※令和5年度は実施実績なし

職場体験
美術館の教育普及活動、学校連携、キャリア教育推進等の観点から、各学校の要望を踏まえながら、中学校・高等学校等からの職場体験、

見学等を受け入れ、美術館の公共施設・観光施設としての役割や仕事の体験を通じて学ぶ機会を提供した。
受入実績：5人

アートカード
図工・美術の授業及びクラブ活動などの学校教育活動で気軽に使用できる鑑賞教材として、棟方志功、奈良美智、鷹山宇一、豊島弘尚等、本県ゆかりの作家の作品や三内丸山遺跡出土遺物などを50点にまとめた「アートカード」を制作し、平成19年度から県内9施設において学校への貸出しを行っている。
貸出実績：5件

施設・機関名
青森県立美術館
青森県総合学校教育センター
青森市教育研修センター
つがる市生涯学習交流センター「松の館」（つがる市教育委員会指導課）
五所川原市立図書館
弘前市教育センター
十和田市現代美術館
むつ市立図書館
八戸市美術館

教員研修
美術館と連携した鑑賞教育について教員の理解を深めるため、当館のコレクションや鑑賞指導法（アートカードの活用、ギャラリートーク演習等）などをテーマに、県総合学校教育センター、市町村教育委員会図工科部会及び美術等教科研究会との連携講座を実施している。
※令和5年度は実施実績なし

鑑賞サポーターの育成
学校団体鑑賞ツアーで来館した児童・生徒の鑑賞指導にあたる鑑賞サポーター（平成22年度までの「ファシリテーター」を呼称変更。）を配置・養成し、多くの学校団体の受入・指導を行っている。
令和5年度3月末現在：13人

教育普及

サポートスタッフ

概要

青森県立美術館では、県民が美術館の活動に積極的に参加できるよう常に工夫し、「県民とともに活動する」ことを目指している。その取り組みの一つとして、美術館の様々な事業等の運営に参加、協力するボランティアを「サポートスタッフ」として募集し、各種イベント運営や、管理事務の補助、環境安全整備等、幅広いボランティア活動の展開を図っている。

募集・登録

募集概要

募集期間：2023年2月6日（月）－3月3日（金）

応募要件：

- ・満18歳以上（2023年4月1日現在）。
- ・美術館活動に関心があり、積極的に学び活動する意欲のあること。

登録者数：73人（令和5年度末現在）

活動内容

1 研修

日時：2023年5月20日（土）10:00～12:00

内容：美術館の概要説明（当館の特徴、収蔵作家 / 作品、建築、V.I.、美術館の役割 / 業務等）

2 サポート活動

(1) 舞台芸術（広報物発送作業、イベント運営補助等）

- ・活動日数：69日
- ・参加人数：317人

(2) 運営管理（資料整理等）

- ・活動日数：14日
- ・参加人数：140人

パフォーミングアーツ

演劇

ドラマリーディングクラブ事業

1 ドラマリーディングクラブ

県立美術館において県民が積極的に参加できる環境を舞台芸術企画部門からアプローチする。

「青森県立美術館ドラマリーディングクラブ（2009 年設立）」は、経験や技術の枠にとらわれない幅広い年齢層の県内在住者を参加対象に、オリジナルの戯曲や詩・小説、その他の文章を用いた朗読形式による公演を実施している。

令和 2 年度に、青森県立美術館ドラマリーディングクラブ員の人数が年々減少していること等を受け、新規クラブ員の募集についての積極的な広報を行ったところ新規加入者が 16 名増え、クラブ員総数は 25 名となる。令和 5 年度は、県外転出等で 20 名。

設立：平成21年度

参加条件：

- ・青森県立美術館での稽古に参加できること
- ・年齢・経験不問（未成年者は保護者の同意が必要）
- ・年間に最低1公演には参加できる
- ・交通費や食費等など、活動に際して個人に係るものは全て自己負担

活動場所：青森県立美術館施設内を基本とする。

募集期間：募集定員に達するまで随時募集

定員：50名（欠員が出た場合は補充）

参加料：無料（交通費、食費等の個人に係わるものは全て自己負担となる。）

選考方法：書類選考とし、書類受理後に随時面談を行う。

稽古内容：

- ・青森県立美術館パフォーミングアーツ専門スタッフの指導のもと、オリジナルの戯曲や既成の詩・小説、その他の文章を使い、空間を意識しつつ朗読する。
- ・定期公演に向けた稽古を実施する。
- ・青森県立美術館企画サポート公演に向けた稽古を実施する。
- ・その他公演に向けた稽古を実施する。

2 公演概要

令和 5 年度は、奈良美智の企画展と連動した「定期公演」の実施のほか、「子供」に視点を置いて舞台芸術の活性化を図るため「星」をテーマとする子供向け屋外公演を実施した。

（1）子供向け屋外公演

演目：青森県立美術館ドラマリーディングクラブ

子供向け屋外公演「星にまつわる 3 つの物語」

日時：2023 年 7 月 22 日（土）、23 日（日）

各日 14:00 開演（13:30 開場、受付開始）

会場：青森県立美術館トレンチ

料金：無料

席数：40 席（自由席） ※イス・シート追加配置

構成／演出／照明：清水 司

作品・作者

「星どろぼう」アンドレア・ディノト

「キツネと星」コラリー・ピックフォード＝スミス

「ほしにむすばれて」谷川俊太郎

美術：三浦 孝治

音響：寺山 紀幸

出演：7 月 22 日（土）

金 恵美子、須藤 哲也、菊地 泰子、盛 桜華、永澤 恵里、
須藤 真由美、上林 有紀（計 7 名）

7 月 23 日（日）

今 ゆき子、寺山 映夢、三上 由美子、齋藤 史乃、
井上 美雪、上林 有紀、石岡 博之（計 7 名）

観客動員数：100 名（2 公演合計）



簡易チラシ



本番リーディング

広報活動

- ・ 県の広報
- ・ 美術館ホームページ、Facebook、Twitter、Instagramに掲載。
- ・ 簡易チラシ・簡易ポスターの設置
- ・ 簡易チラシの近隣小学校設置

稽古

日時：2023年7月2日(日)、9日(日)、16日(日)
2チーム 各3回 ※時間 13:00～

場所：青森県立美術館スタジオ

参加人数：38名(出演者累計)

(2) 定期公演

演目：青森県立美術館ドラマリーディングクラブ定期公演
企画展「奈良美智：The Beginning Place ここから」関連企画

「ともだちがほしかったこいぬ」の物語

日時：2023年10月28日(土)、29日(日)
各日 14:00 開演 (13:30 開場、受付開始)

会場：青森県立美術館シアター

料金：一般 1,300円／高校生以下 800円 (税・手数料込)

席数：180席 (全席指定)

構成／演出／照明：清水 司

原作：奈良美智＋清水 司オリジナル台本

作品：「朝 シロサギとにらめっこ」

「夜 プラスとマイナスのあいだ」

「昼 花も団子も」

「ともだちがほしかったこいぬ」

「エピソード」

映像／美術：三浦 孝治

音響：寺山 紀幸

出演：10月28日(土)

金 恵美子、須藤 哲也、田中 昌子、菊地 泰子、
菊地 菜美、永澤 恵里、須藤 真由美、上林 有紀
(計8名)

10月29日(日)

福田 寿枝、今 ゆき子、寺山 映夢、盛 桜華、
三上 由美子、齋藤 史乃、井上 美雪、石岡 博之
(計8名)

観客動員数：145名(2公演合計)

広報活動

①宣材物：

- ・ チラシ：(A4版／カラー、白黒) 15,000枚
- ・ ポスター：(B2版／カラー) 400枚

②広報：

- ・ 9月中旬から宣材物の配布開始。
- ・ 県広報による新聞告知、ラジオでの紹介。
- ・ 青森市内小、中学校へポスター・チラシ送付。
- ・ 県内大学、高校、図書館、文化施設、商業施設等を中心に宣材物を配布し、掲示を依頼。
- ・ パフォーミングアーツ推進実行委員会顧客へのダイレクトメールの送付。
- ・ 美術館ホームページ、Facebook、Twitter、Instagramに掲載。
- ・ 県庁インフォメーションでの告知。

チケット予約／販売

チケットサイト「カンフェティ」のWEBまたは電話で予約(WEBは販売有)、コンビニエンスストア(セブンイレブン)での発券(販売)とした。

稽古

日時：2023年9月24日(日)、10月1日(日)
10月8日(日)、15日(日)、22日(日)

2チーム 各5回 ※時間 13:00～

場所：青森県立美術館シアター、スタジオ

参加人数：69名(出演者累計)



団員の集合写真



定期公演チラス・オモテ



本番のリーディング

青森県立美術館ドラマリーディングクラブ定期公演
青森県立美術館企画展「奈良美智: The Beginning Place ここから」関連企画

「ともだちがほしかったこいぬ」の物語

奈良美智の絵本「ともだちがほしかったこいぬ」をもとに脚本家 清水司 (劇団 SOUTHERN COMFORT 代表) がオリジナル台本を制作。青森県立美術館ドラマリーディングクラブ員が絵本の世界観を映像とともに表現します。

ほくは いつも ひとりぼっちで とても さみしかった。
だれか どっから やってきて ともだちになつてくれないうつて いつも おもてた。
だって ほくは ほんとに ひとりぼっちで さみしかったんだ。
うそじゃないよ。
どうして ひとりぼっちで さみしかったか おしえてあげよう! だってね ほくはね…

原作・奈良美智
絵本「ともだちがほしかったこいぬ」 LONESOME PUPPY (原簿/マオジシハリス)
演出・清水司 (劇団 SOUTHERN COMFORT 代表) (演出・監修)
演出/青森県立美術館ドラマリーディングクラブ員

令和5年10月28日(土)・29日(日)
各日14:00開演(受付・開場13:30)全席事前購入予定
青森県立美術館シアター (全席事前予約受付 14時)

■チケット販売 (カンフェティ)
【料金】一般 1,300 円/高校生以下 800 円 (税込)
全公演全席・事前購入のみ。
全席事前販売のみ。

チケット販売開始 2023年9月13日(水)10:00

【WEB 予約】 <http://confetti-web.com/dorari-aomori>
WEB予約は、公演開始より10日前まで受け付けとなります。
全席完売 (無残) が必ずあります。ご希望の席数もお確保いただけます。
お支払い方法は、クレジット・カードまたはオンライン決済のみ (現金振替 振込 不可です)。
チケットはカンフェティ・ウェブで販売いたします (受け取りは不可)。(全席前売) (振替 13:00)

【電話予約】 0120-240-540 (受付時間・平日 10:00~18:00)
電話予約は、10月27日(金)18:00までの受け付けとなります。
全席完売 (無残) が必ずあります。ご希望の席数もお確保いただけます。
お支払い方法は、クレジット・カード決済のみ (現金振替 振込 不可) となります。
チケットはカンフェティ・ウェブで販売いたします (受け取りは不可)。(全席前売) (振替 13:00)

【ご注意】
・公演当日は当日公演の観覧・観覧はできません。
・公演中の観覧席は観覧禁止となります。
・観覧席の観覧はできません。この観覧席は観覧席とは別料金となります。

■アクセス
・青森県立美術館 (青森県青森市八木) から徒歩10分 (徒歩10分)
・青森県立美術館 (青森県青森市八木) から徒歩10分 (徒歩10分)
・青森県立美術館 (青森県青森市八木) から徒歩10分 (徒歩10分)

【公演に関するお問い合わせ】
青森県立美術館・パフォーミングアーツ推進実行委員会 事務局
TEL: 017-753-5243 (受付時間・平日 9:00~17:00)
FAX: 017-753-5244 (Eメール: dorari@confetti-web.com)

【チケットに関するお問い合わせ】
カンフェティ
TEL: 0120-240-540 (受付時間・平日 10:00~18:00)
※WEB 予約に関するお問い合わせは受付時間外にはできません。

定期公演チラス・ウラ

パフォーミングアーツ

音楽

アレコホール活用によるファン獲得事業

1 事業概要

シャガール作バレエ「アレコ」舞台背景画を展示する青森県立美術館アレコホールでは、開館以来プロによる演劇や音楽、ダンス公演が開催され、単なる展示室ではなく総合芸術の場として機能してきた。

本事業では、コロナ禍により県民が舞台芸術を鑑賞・発表する場が極端に減っていることから、アレコホールにおいて青森県出身のフラメンコダンサーによるフラメンコ公演を実施し、県民の関心を高め美術館への誘客及びアレコホールのPRを促進した。

また、県民によるミュージアムコンサートを実施し、県民の表現の場を確保するとともに、県内音楽人材の掘り起こしを進めることで、新たなファン層を取り込み、地域に親しまれる美術館として認知度の向上や利用者の拡大を目指した。

2 特別演奏会

(1) 公演概要

公演名：アレコホール特別フラメンコ公演
「抱擁の哀しき果て」

日時：2023年9月17日（日）・18日（月・祝）

開場18:30 開演19:00

会場：青森県立美術館アレコホール

席数：168席（全席指定）

料金：一般4,500円、高校生以下2,500円

※事前購入のみ。

※各種手数料込み。

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

助成：スペイン舞踊振興MARUWA財団

(2) 広報活動

宣材物作成枚数：

- ・チラシ（A4版／カラー、白黒）15,000枚
- ・ポスター（B2版／カラー）300枚

広報：

- ・PA顧客へダイレクトメールを送付。
- ・青森県内の文化施設、商業施設、音楽教室、大学、高等学校、中学校等に宣材物を配布。
- ・新聞折込による宣材物の配布。
- ・青森県立美術館のホームページ、Twitter、Instagram、Facebook等での公演情報の発信。

- ・青森県の広報枠を使用したラジオ番組や新聞広告での公演情報の発信。

- ・市町村広報誌等へ広告を掲載。

(3) チケット予約／販売

- ・来場チケット

チケットサイト「カンフェティ」のWEBまたは電話で予約（WEBは販売有）、コンビニエンスストア（セブンイレブン）での発券（販売）とした。

(4) 公演詳細

出演者：

- ・工藤 朋子（フラメンコダンサー）
- ・浅野 祥（津軽三味線）
- ・斎藤 誠（フラメンコギター）
- ・関 祐三子（カンテ）
- ・三四郎（フラメンコダンサー）
- ・高 実希子（ピアノ）
- ・佐藤 浩希（演出・バルマ）

演目：

オープニング

ゴルトベルク変奏曲よりAria（バッハ／ピアノ）

第1部

1. 村祭り／出合い
ブレリア（フラメンコ）
2. ゼンフィラの魅力
ガロティン（フラメンコ&長持唄）
3. アレコの求愛
カンティーニャス（フラメンコ）
4. 愛の芽生
ロマンセ（フラメンコ）

休憩（15分）

第2部

5. 愛の調べ
ピアノソナタ第14番「月光」第1楽章Op.27-2
（ベートーヴェン／ピアノ）
6. ゼンフィラの真実
じょんがら新節（津軽三味線）

7. アレコの嫉妬の焰
マルティネーテ（フラメンコ）
8. 愛の終焉ーゼンフィラの死
オリジナル曲（フラメンコ、津軽三味線、ピアノ）
作詞・作曲：浅野 祥

観客動員：324人（96%）

(5) 出演者プロフィール

工藤 朋子（フラメンコダンサー）：

青森県五所川原市出身

2006 年日本フラメンコ協会新人公演奨励賞（ソロ）。

2008 年河上鈴子スペイン舞踊新人賞。

2009 年日本フラメンコ協会新人公演奨励賞（群舞）を受賞。

過去 3 回のソロリサイタルを開催。

鍵田真由美・佐藤浩希フラメンコ舞踊団の中心メンバーとして数々の舞台に出演。スペイン公演にも 4 度にわたって出演。うち 2 回はスペインで毎年開催される最大の祭典 Festival de Jerez の招聘作品。2018 年に文化庁新進芸術家海外研修を終えスペインから帰国。同年、新国立劇場にて日本フラメンコ界最大のヒット作品『Ay 曽根崎心中』の主演を務める。2019 年には歴代最年少で青森県文化賞を受賞。2022 年第七回東奥文化選奨を受賞。同年工藤朋子フラメンコリサイタル vol.3『時と血と地と』にて文化庁芸術祭新人賞（舞踊部門）を受賞。

浅野 祥（津軽三味線）：

宮城県仙台市出身。三絃小田島流 二代目小田島徳旺氏に師事。7 歳の時、青森県弘前市で開催される津軽三味線全国大会に最年少出場し、翌年から各級の最年少優勝記録を次々と塗り替える。2004 年津軽三味線全国大会、最高峰の A 級で最年少優勝（当時 14 歳）その後、2006 年まで連続優勝し、3 連覇を達成。同大会の規定により、殿堂入りを果たす。2007 年 17 歳でビクターエンタテインメントより「祥風」でメジャーデビュー。民謡、Classic、Rock、Jazz、Pops、フラメンコなどジャンルにとらわれない演奏スタイルにより、様々なアーティストとの共演するほか、ジャズ界の巨匠ウィル・リーや、同じくジャズ界の若きスタープレイヤー、マーカス・ギルモア、2 度グラミー賞に輝いたリチャード・ストルツマンらとアルバム制作を行う。

本来の民謡、古典芸能の追及はもちろんのこと、幅広い世代に三味線の魅力を伝えるべく、津軽三味線の可能性を追い求める孤高の若き津軽三味線奏者。

斎藤 誠（フラメンコギター）：

13 歳でエレキギターを始め、1987 年アメリカ留学後、フラメンコギターに転向。1993 年より渡西を重ね、ヒターノのアルティスタ達と交流を深め、幾多のフィエスタに参加。

カリフォルニア州各地で活動後、帰国。現在、フラメンコの踊り伴奏を中心に活動中。

2013 年スペインにて鍵田真由美・佐藤浩希舞踊団公演「!AMOR, AMOR,AMOR!」に参加。

2013 年、2014 年、2016 年歌舞伎作品『GOEMON』に出演。2016 年アルティソレラ・スペイン公演ツアーに参加。2017 年、2018 年山田洋次作品音楽劇『マリウス』に出演。

関 祐三子（カンテ）：

2014 年日本フラメンコ協会新人公演奨励賞（ソロ）、2015 年河上鈴子スペイン舞踊新人賞、鍵田真由美・佐藤浩希フラメンコ舞踊団所属。

片岡愛之助主演の歌舞伎『GOEMON』、今井翼主演のミュージカル『GOYA』（ゴヤ）などに出演。

三四郎（フラメンコダンサー）：

2006 年日本フラメンコ協会新人公演奨励賞（ソロ）、2007 年河上鈴子スペイン舞踊新人賞、08 年日本フラメンコ協会新人公演奨励賞（群舞）受賞。過去 2 回のソロリサイタルを開催。2018 年新国立劇場『Ay 曽根崎心中』にて主演の徳兵衛役（ダブルキャスト）を務める。

鍵田真由美・佐藤浩希フラメンコ舞踊団の中心人物として活躍中。

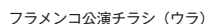
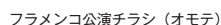
高 実希子（ピアノ）：

北海道函館市出身。桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学、パリ国立高等音楽院卒業。ショパン国際ピアノコンクール inASIA 大学生部門最高位他、国内外での受賞歴多数。ソリスト、室内楽奏者としてフランス・ベルギー・イタリア・ロシア等海外から招聘他、国内外の著名演奏家と共演を重ねる。

令和 2 年度函館市文化団体協議会青麒麟受章。

佐藤 浩希（演出・パルマ）：

1992 年より鍵田真由美にフラメンコを師事。1996 年河上鈴子スペイン舞踊新人賞及び日本フラメンコ協会新人公演特別奨励賞を受賞。2001 年の初演から再演を重ねる阿木耀子プロデュース・作詞、宇崎竜童音楽監督・作曲の『FLAMENCO 曽根崎心中』では、文化庁芸術祭優秀賞を受賞し、2004 年にはフラメンコの殿堂「フェスティバル・デ・ヘレス」に海外から初参加を果たし絶賛される。同年『ARTE YSOLERA 歓喜』で文化庁芸術祭大賞を受賞。2006 年 News week 日本版の「世界が尊敬する日本人 100 人」に選ばれた。近年は、片岡愛之助主演の歌舞伎『GOEMON』のフラメンコシーンで振付と出演、藤ヶ谷太輔主演『ドン・ジュアン』フラメンコ振付、宝塚花組『DANCE OLYMPIA』フラメンコ振付、今井翼主演『GOYA』フラメンコ振付・出演など多方面に活躍。2018 年『Ay 曽根崎心中』では当時の天皇皇后両陛下のご臨席を賜る。



・青森県立美術館のホームページ、Facebook等、ウェブ上での公演情報の発信。

ウ 実施概要

応募者数：18 名

選定者数：18 名

※15 名の募集に対し、18 名の応募があったため、演奏日を 1 日増やし、
応募者全員に演奏していただくこととした。

演奏者数：2023 年 8 月 19 日(土)3 名

〳 9 月 23 日(土・祝)3 名

〳 10 月 21 日(土)3 名

〳 11 月 18 日(土)3 名

2024 年 1 月 20 日(土)3 名

〳 2 月 17 日(土)3 名

(2) 一般演奏

ア 募集概要

2021 年度に公募した際に 38 組の応募があった。これまで、2021 年度 4 組、2022 年度 10 組のみの演奏であったため、2023 年度は新規に公募せず、2021 年度応募した組の中から 6 組を選定した。

(参考：2021 年度募集概要)

日時：2021 年 8 月 20 日(金)、8 月 21 日(土)、9 月 17 日(金)、

9 月 18 日(土)、9 月 19 日(日)、11 月 26 日(金)、

11 月 27 日(土)、12 月 18 日(土)

各日 18:50 ～ 19:20

(ナイトミュージアムのプログラムの 1 つとして実施)

会場：青森県立美術館アレコホール

募集人数：各日 1 組(全 8 組)

※個人または 5 人以内のグループ

演奏時間：1 組 30 分以内

経費：出演料、旅費、食費等の支給はしない

募集期間：2021 年 6 月 9 日(水)～ 7 月 9 日(金)

応募条件：

以下の全てを満たす者を対象とする。

- ・ 青森県内に居住している者、または青森県内の事業所に所属する者
- ・ これまで公演実績があること
- ・ 30分程度の演奏を行うことができること
- ・ アレコホールの雰囲気を損なうような大音量となる演奏をしないこと
- ・ 政治的な目的を有しないこと
- ・ 自己の営業宣伝を目的としないこと
- ・ 床や壁等の設備の破損・損壊や美術館の運営に支障をきたすおそれのあることをしないこと

選考方法：書類審査

主催：青森県立美術館

イ 実施概要

2023 年 7 月 15 日(土)ソプラノ等(3 名)

〳 8 月 19 日(土)チェロ等(2 名)

〳 9 月 23 日(土)JAZZ(3 名)※

〳 10 月 21 日(土)ソプラノ等(2 名)

〳 11 月 8 日(土)サクソフォン(4 名)

2023 年 1 月 20 日(土)フルート(4 名)

〳 2 月 17 日(土)アカペラ(3 名)

※生誕 120 年棟方志功展実行委員会が主催となり、棟方志功ピアノを用いた JAZZ 演奏を行った。

ウ 合同演奏

本事業実施の 2 年間で、一般 16 組に様々な楽器を演奏していただき、県内演奏者に対し、アレコホールという特別な空間での演奏機会を提供することができた。しかし、これは 1 日 1 組であるため、県民の音楽活動のさらなる促進を図るため、本イベントに過去 2 年間に出演いただいた中から 6 組に御協力いただき、合同演奏会を開催した。(16 組に意向調査した結果、6 組が出演可能とのことであった。)

合同演奏会を実施するにあたり、出演 6 組にはグループ LINE を活用して、相互に連絡しやすい体制をとり、合同演奏会の名称やタイムスケジュール、合同で演奏する曲等を自主的に企画していただいた。

これにより、相互理解が深まり、一体感が生まれ、公演を円滑に実施できるようになったとともに、今後の県内の演奏者の交流の輪が広がるきっかけを創出することができた。

また、合同演奏会の様子を動画にして、3 月 29 日(金)に YouTube にアップした。これにより、県内演奏家の紹介を行うとともに、県民に親しまれる美術館としてアレコホールの PR を図った。

〈特別演奏会 アレコホール ミュージアムコンサート『故郷』 スケジュール〉

①17:10 ～ 17:30 ピアノ(1 名)

②17:35 ～ 17:55 ソプラノ等(2 名)

③18:00 ～ 18:20 サクソフォン(4 名)

④18:25 ～ 18:45 ソプラノ等(2 名)

⑤18:50 ～ 19:10 トランペット等(2 名)

⑥19:15 ～ 19:35 ソプラノ等(3 名)

⑦19:40 ～ 19:45 出演全組による「故郷」演奏



合同演奏会の様子



YouTube 掲載動画

音楽事業

1 事業概要

当館では開館以来、舞台芸術事業のひとつとしてアレコホールでの定期演奏会を開催しており、毎年好評をいただいているところである。

令和5年度はヴァイオリンとピアノの公演を開催した。

2 定期演奏会

(1) 公演概要

公演名：アレコホール定期演奏会 2024

「今、奏でる旋律 ～ヴァイオリンにのせて～」

日時：2024年2月24日(土) 開場 17:30 開演 18:00

会場：青森県立美術館アレコホール

席数：145席（全席指定）

料金：一般 4,000円、高校生以下 2,000円

※事前購入のみ。

※各種手数料込み。

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

(2) 広報活動

宣材物作成枚数：

- ・チラシ（A4版／カラー、白黒）15,000枚
- ・ポスター（B2版／カラー）300枚

広報：

- ・PA顧客へダイレクトメールを送付。
- ・青森県内の文化施設、商業施設、音楽教室、大学、高等学校等に宣材物を配布。
- ・新聞折込による宣材物の配布。
- ・青森県立美術館のホームページ、Twitter、Instagram、Facebook等での公演情報の発信。
- ・青森県の広報枠を使用したラジオ番組や新聞広告での公演情報の発信。

(3) チケット予約／販売

チケットサイト「カンフェティ」のWEBまたは電話で予約

（WEBは販売有）、コンビニエンスストア（セブンイレブン）での発券（販売）とした。

(4) 公演詳細

出演者：水野 琴音（ヴァイオリン）

高 実希子（ピアノ）

演奏曲目：

・チャイコフスキー 懐かしい土地の思い出 作品42

1. 瞑想曲

2. スケルツォ

3. メロディ

・プロコフィエフ ヴァイオリンソナタ第2番 二長調 作品94bis

第1楽章

第2楽章

第3楽章

第4楽章

休憩（20分）

フランク ヴァイオリンソナタ イ長調

第1楽章

第2楽章

第3楽章

第4楽章

ラヴェル ツィガーヌ

【アンコール】

マスネ タイスの瞑想曲

観客動員：141人（96%）

(5) 演奏家プロフィール

水野 琴音（ヴァイオリン）：

2003年生まれ。10歳で青森市へ転居後、青森ジュニアオーケストラに4年間所属し、ソリスト・コンサートマスターを務めた。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、東京藝術大学音楽学部2年に宗次徳二特待奨学生第9期生として在学中。

第92回日本音楽コンクール第1位、併せてレウカディア賞、鷺見賞、INPEX賞。第21回東京音楽コンクール弦楽部門第2位及び聴衆賞。第15回アルテュール・グリュミオー国際ヴァイオリンコンクール（ベルギー）第1位及びグランプリ。第24回日本演奏家コンクール弦楽器部門・大学生の部第1位及び朝日新聞社賞、兵庫県知事賞。第12回ハマのJACKコンチェルトソリストオーディションJACK賞。

これまでに伊東暁美氏、マウロ・イウラート氏、小栗まち絵氏に、現在、玉井菜採氏、堀正文氏に師事。

使用楽器は、一般財団法人 ITOH より貸与されている1721年製のピエトロ グアルネリ。

高 実希子（ピアノ）：

北海道函館市出身。桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻、（公財）ロームミュージックファンデーション奨学生として、2008 年フランス・パリ国立高等音楽院卒業。ショパン国際ピアノコンクール inASIA 大学生部門最高位、安川加壽子記念コンクールファイナリスト、イル・ド・フランス国際ピアノコンクールドビュッシー特別賞（仏）他、国内外で多数の受賞歴を持つ。2007 年東京デビューリサイタルをカワイ表参道にて開催。2016年には、かつてモーツァルトが演奏したマフェイアーナホール（伊・ヴェローナ）においてアジア人初のソロリサイタルを行い成功を収める。ソリスト、室内楽奏者としてフランス・ベルギー・イタリア・ロシア等海外から招聘他、国内外の著名演奏家と共演を重ねる。これまで 2 枚のピアノソロアルバムをリリースし、ソロ・室内楽において国内外で演奏活動を行っている。2013 年より、国内外で活躍中のアーティストと共に、新プロジェクト「高実希子 meets」シリーズをスタート。

令和 2 年度函館市文化団体協議会青麒麟受章。

現在、函館短期大学非常勤講師、函館ミュージックアカデミー（HMA）講師、青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会委員、（公社）日本演奏連盟会員。



定期演奏会の様子



定期演奏会チラシ（オモテ）



定期演奏会チラシ（ウラ）

パフォーミングアーツ

映画

映画事業

1 事業概要

当館では平成 26 年度より、文化庁及び国立映画アーカイブが実施する「優秀映画鑑賞推進事業」の制度を活用し、所蔵フィルムを無償貸与いただきシアターで上映会を開催してきた。

令和 5 年度も同制度を活用し、日本が世界に誇るアニメ作品 4 本を 11 月 18 日（土）と 19 日（日）の 2 日間で上映した。

2 青森県立美術館映画上映会

「世界に誇る日本のアニメ」

(1) 上映概要

日時：2023 年 11 月 18 日（土）、19 日（日）

10:00 上映（9:30 開場、受付開始）

会場：青森県立美術館シアター

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館、国立映画アーカイブ

特別協力：文化庁、（一社）日本映画製作者連盟、全国興行生活衛生同業組合連合会、東映株式会社、東宝株式会社

席数：175 席（全席指定）

上映作品：4 作品 ※詳細は（2）に記載

料金：一日券 一般 1,300 円／高校生以下 800 円

※税・各種手数料込み

広報活動

宣材物：

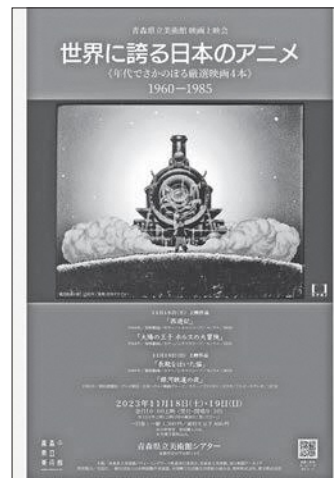
- ・チラシ：（A4版／カラー、白黒）13,000枚
- ・ポスター：（B2版／カラー）400枚

広報：

- ・9月中旬から宣材物の配布開始。
- ・県内新聞、ラジオにおいて公演告知。
- ・県内大学、高校、図書館、文化施設、商業施設等を中心に宣材物を配布し、掲示を依頼。
- ・パフォーミングアーツ推進実行委員会顧客へのダイレクトメールの送付。
- ・美術館ホームページ、Facebook、Twitter、Instagramに掲載。
- ・青森市内一部地域でのチラシ新聞折込。
- ・県内6市の広報掲載。
- ・県内一部スーパーへのチラシ設置。

(2) 上映詳細

上映作品：



PR用チラシ・ポスター



映画上映会の様子

「西遊記」（1960 年、88 分）

「太陽の王子 ホルスの大冒険」（1968 年、82 分）

「長靴をはいた猫」（1969 年、80 分）

「銀河鉄道の夜」（1985 年、107 分）

上映スケジュール

11/18 10:00 上映「西遊記」

13:00 上映「太陽の王子 ホルスの大冒険」

11/19 10:00 上映「長靴をはいた猫」

13:00 上映「銀河鉄道の夜」

観客動員数：238 名（全 4 合計）

【内訳】（カッコ内は左数字に含まれる招待者数）

作品名	動員数
西遊記	34 (4)
太陽の王子 ホルスの大冒険	35 (5)
長靴をはいた猫	65 (6)
銀河鉄道の夜	104 (5)
計	238 (20)

(3) チケット予約／販売

チケットサイト「カンフェティ」のWEBまたは電話で予約（WEBは販売有）、コンビニエンスストア（セブンイレブン）での発売（販売）とした。

パフォーミングアーツ

バレエ

青森県立美術館版バレエ「アレコ」公演事業

1 事業概要

県立美術館は開館以来、アレコホールにおいて音楽やダンス等様々な舞台芸術公演を開催し、アレコの魅力創造・発信を行ってきたが、シャガールによるバレエ「アレコ」の舞台背景画として制作されたアレコの前でバレエ公演を行ったことがない。アレコの前でバレエ公演を行うことは、観覧者にアレコ本来の魅力を体感してもらうための最も効果的な方法であるため、令和6年度にアレコホールでバレエ公演を行うこととし、令和5年度は音楽制作を行うとともに、公演開催に向けた機運醸成のためにイベントを開催する。

2 音楽制作

(1) 音楽編曲

①経緯

当館アレコホールに展示しているシャガール作バレエ「アレコ」舞台背景画全4作品は、1942年にバレエ・シアター(現アメリカン・バレエ・シアター)がメキシコで初演したバレエ「アレコ」のために制作されたものである。このバレエ公演で使用された音楽は、チャイコフスキー作曲「ピアノ三重奏曲イ短調作品50」(ピアノ・ヴァイオリン・チェロ)をエルノ・ラペーがオーケストラ版に編曲した音楽であったが、実際に使用されたオーケストラ版の譜面の所在については、同バレエ団に直接確認したが不明であり、音源も残されていないとのことである。

そのため、バレエに関する専門家である振付家や指揮者(音楽監修者)の協力を得て、当時のバレエ「アレコ」公演時と同様にチャイコフスキーの原曲をオーケストラ用に編曲することとした。

②関係者プロフィール

富田 実里(新国立劇場バレエ団常任指揮者)

国立音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業、桐朋学園大学音楽学部にて指揮を学ぶ。堤俊作、湯浅勇治、松沼俊彦に師事。2013年日本バレエ協会「ドン・キホーテ」でバレエ指揮者デビュー。その後、イングリッシュ・ナショナル・バレエ、バーミンガム・ロヤル・バレエの客演指揮者として「ロメオとジュリエット」「くるみ割り人形」「海賊」「コッペリア」「大地の歌」「ラ・シルフィード」「美女と野獣」を指揮したほか、井上バレエ団、NBA バレエ団、東京バレエ団の公演で指揮を務め、好評を得る。また、指揮者の活動以外にも様々な分野でピアニストとして活動の場を広げている。新国立劇場バレエ団では、数々のバレエ絵公演で副指揮者を務め、2017年からレジデント・コンダクターとなる。

中原 達彦(作曲家・編曲家)

福岡教育大学および同大学院を経て、東京芸術大学別科作曲専修を修了。作曲を内山信、川崎絵都夫、尾高惇忠の各氏に師事。ピアノを福田伸光氏に師事。

主な作品：ピアノと管弦楽のための「バラード」(IPSA 刊)、ピアノ協奏曲変ホ長調、吹奏楽のための協奏曲(鹿児島ウィンドアンサンブル 40 周年記念作品)、交響詩「道主貴」～宗像三女神の誕生と祭り(福津市民吹奏楽団(福岡県)委嘱作品)、吹奏楽のための「ルードゥス・トナリス」、そのほか室内楽、独奏曲も多数。子供のためのお話と音楽「わたしのワンピース」「にじいろのさかな」「三枚のお札」「かぐや姫」「赤神と黒神」その他 10 数作品も好評である。

JR九州のクルーズトレイン『ななつ星 in 九州』のテーマ曲を作曲。世界遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」に因んだ音楽物語「祈りの島」(脚本：大迫淳英)を作曲。東急 The Royal Express テーマ曲と伊豆の四季組曲を作曲。

編曲では、「ケミストリー・ミーツ・東京フィル」のオーケストラ編曲を担当したほか、二胡の姜建華(ビクター)や、テノールの五郎部俊朗(コロムビア)バリトンの福島明也(コロムビア)仲道郁代・祐子姉妹によるピアノデュオ(ビクター)等のCDの編曲も手がけている。

吹奏楽のための編曲も多く、歌劇ヘンゼルとグレーテルより「祈りとパントマイム」(フンパーディンク)「ガイーヌ」組曲(ハチャトゥリアン)交響曲第2番(抜粋)(M. アーノルド)などがある。

③編曲内容

通常、バレエの音楽のオーケストラ編成は二管以上であり、経費の面からも二管のオーケストラ編成用の編曲を行った。

オーケストラ編成

Vi.1 (8名)、Vi.2 (6名)、Vla. (4名)、Vc. (4名)、Cb. (3名)、Fl. (2名)、Ob. (2名)、Cl. (2名)、Fg. (2名)、Hr. (4名)、Tp. (2名)、Tb. (3名)、Tuba (1名)、Timp. (1名)、Per. (3名)、Hp. (1名)

(2) 音楽制作

①音楽収録

バレエは生オーケストラで行うのが一般的であるが、アレコホールの広さでは演奏者用スペースを確保できないという物理的課題がある。そのため、バレエ公演では、事前収録した音源を収録することとし、その音源を以下のとおり収録した。

収録月日：2023年8月21日(月)～24日(木)

収録会場：和光市民文化センター大ホール

指揮者：富田実里氏
演奏：NBA バレエ団オーケストラ
(コンサートマスター 東海千浪氏)
収録：寺山紀幸氏
立会者：中原達彦氏

②音楽編集

①にて収録した音楽を、アレコホールで実際に流して、収録音源の最終確認を行い、音楽を完成させた。

最終確認月日：2023年9月4日(月)

立会者：富田実里氏



演奏中の様子

3 バレエ「アレコ」プレイイベント

(1) 公演概要

公演名：バレエ「アレコ」の世界 ～青森県立美術館でよみがえるバレエ「アレコ」～

日時：2023年11月3日(金・祝)

開場 17:30 開演 18:00

会場：青森県立美術館アレコホール、シアター

席数：110席(全席指定)

料金：一般 2,000円、高校生以下 1,000円

※事前購入のみ。

※各種手数料込み。

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

助成：一般財団法人地域創造

(2) 広報活動

宣材物作成枚数：

・チラシ(A4版/カラー、白黒) 7,000枚

広報：

・青森県内の文化施設、商業施設、音楽教室、バレエ教室等に宣材物を配布。

・青森県立美術館のホームページ、Twitter、Instagram、Facebook等での公演情報の発信。

(3) チケット予約/販売

チケットサイト「カンフェティ」のWEBまたは電話で予約(WEB

は販売有)、コンビニエンスストア(セブンイレブン)での発売(販売)とした。

(4) 公演詳細

出演者：

- ・宝満 直也(振付家)
- ・大川 航矢(牧阿佐美バレエ団ファーストソリスト)
- ・久保 紘一(NBAバレエ団芸術監督)
- ・芳賀 直子(舞踊史研究家)
- ・野久保 奈央(NBAバレエ団プリンシパル)
- ・杉本 康雄(青森県立美術館館長)

内容：

第1部(会場：アレコホール)

バレエ関係者による「アレコ」トークセッション

休憩(20分)

第2部(会場：シアター)

バレエ「アレコ」音楽・振付解説

音楽：音楽監修富田実里 × ピアニスト高実希子による対談(映像)

振付：バレエダンサー大川航矢、野久保奈央によるバレエ披露

観客動員：105人(95%)

(5) 関連企画

公演名：大川航矢のバレエワークショップ

日時：2023年11月4日(土)

会場：青森県立美術館スタジオ

募集人数：各回 15名

参加料：1人 3,000円

・申込方法

県立美術館HP内の申込フォームからの申込とした。

第1回	10:00~11:15	バレエワークショップ 講師 大川航矢
	11:15~11:45	バレエトーク～「アレコ」の秘密 講師 芳賀直子
第2回	13:00~14:15	バレエワークショップ 講師 大川航矢
	14:15~14:45	バレエトーク～「アレコ」の秘密 講師 芳賀直子

(6) 出演者プロフィール

宝満 直也(振付家)：

新国立劇場バレエ団を経てフリーランスのダンサー、振付家として活動中。新国立劇場在団中は若手振付家育成公演で作品を多数発表している。2017年に退団し、NBAバレエ団にて「海賊(世界初演)」「白鳥の湖(世界初演)」に振付として参加している。大和シティバレエ(神奈川)にて2020年、オリジナルの全幕バレエ「美女と野獣」を、2022年に「ガラスの靴(シンデレラ)」をそれぞれ世界初演し、大好評を得る。2016年オン★ステージ新聞

新人振付家ベスト1 選出。MBS/TBS 系アニメ「ダンス・ダンス・ダンスール」でキャラクターの振付を担当。2021 年 Gucci 100 周年記念イベント「Aria」にて菅井円加の振付を担当。クラシックからコンテンポラリーまで、創作の幅は多岐にわたる。

大川 航矢（牧阿佐美バレエ団ファーストソリスト）：
青森県青森市の出身。

2007 年、15 歳でモスクワ国立舞踊アカデミーへ留学し、のちに首席で卒業する。

2012 年、ペルミ国際バレエコンクール アラベスク 金賞。ソチ国際バレエコンクール 金賞。

2014 年、ロシアのタタールスタン国立カザン歌劇場に入団し、ソリストとして活動する。

2016 年、ロシア国営テレビ Kultura が放映するバレエに順位をつけるショー形式のバレエ番組「ポリショイ・バレエ (ビッグ・バレエ)」に出演。

2017 年、モスクワ国際バレエコンクール シニア部門デュエット
男性の部で金賞。同年、文化庁長官表彰を受賞。

2018 年、ロシア国立ノヴォシビルスク・オペラ・バレエ劇場に入団した。同年、ロシアのバレエ専門誌が主催する「踊りの魂賞」で若手に贈られる「新星賞」を受賞した。

2022 年秋、日本に活動拠点を移し、牧阿佐美バレエ団にファースト・ソリストとして入団。

久保 紘一（NBA バレエ団芸術監督）：

元コロラドバレエ団プリンシパル、当時世界で最高峰の第6回モスクワ国際バレエコンクールでトップの成績を16歳でジュニア・シニア男女合同にて獲得し、のち渡米しコロラドバレエ団のプリンシパルとして迎えられた。以降20年同バレエ団でプリンシパルとして活躍した。「ドン・キホーテ」「くるみ割り人形」「眠れる森の美女」「ロミオとジュリエット」「シンデレラ」「白鳥の湖」等、殆どの古典の全幕作品のタイトルロールを踊った。又彼の為に作られた作品も数多くある。2010年にコロラドバレエ団を退団後、2012年NPO法人NBAバレエ団の芸術監督に就任。次々と意欲的作品を発表し日本のバレエ界にて注目されている。2015年NBAバレエ団の数々の公演の成果により文化庁芸術祭新人賞を受賞。

芳賀 直子（舞踊史研究家）：

舞踊史研究家

新国立劇場バレエ研修所（バレエ史講師）、K Ballet School TTC
コース（バレエ史講師）、大正大学客員教授

舞踊、中でも専門はバレエ・リュス、バレエ・スエドワ。1998年のセゾン美術館における『バレエ・リュス』展での仕事を皮切りに、執筆、講演、展覧会監修等を行うようになる。本年 2 月 5 日まで学術協力した『パリ・オペラ座～響き合う芸術の殿堂』展が開催。

著書：『バレエ・リュス～その魅力のすべて～』（国書刊行会）、『バレエ・ヒストリー』（世界文化社）他

野久保 奈央 (NBA バレエ団プリンシパル) :

5歳より黒田節子バレエスタジオにてバレエを始め黒田節子、橋口彩子に師事

2016年 NBA バレエ団公演「Director's Selection」に出演し、ブルッフヴァイオリン協奏曲のピンクカップルを踊る。

2018 年 NBA バレエ団入団「くるみ割り人形」よりクララ、「白鳥の湖」よりパドトロワ、「海賊」よりメドーラ、「真夏の夜の夢」よりピースブロッサム、ヨハン・コボー版「シンデレラ」よりシンデレラ、「ドン・キホーテ」よりキトリ等を踊る。

2022 年 プリンシパルに昇格。



プレイベントチラシ（オモテ）



プレイベントチラシ（ウラ）



プレイベントの様子



大川航矢のバレエワークショップ様子

サービス等 貸館

使用施設について

(1) 使用目的

展覧会や作品の創作活動、映像、演劇及び音楽などの芸術活動の発表、練習の場として本県の芸術振興に資する使用であること。

(2) 使用料

①展示施設を使用する場合

■コミュニティギャラリー

室名（面積）	使用料（入場料等を徴収しない場合）		
	9:30～12:00	13:00～17:00	左記以外の時間帯
A（148.76㎡）	2,200円	3,520円	1時間 880円
B（60.47㎡）	900円	1,440円	1時間 360円
C（131.30㎡）	1,950円	3,120円	1時間 780円

- *1 入場料等を徴収する場合（使用期間内に有料配信する場合を含む）は、上記使用料の 2 倍とします。
- *2 コミュニティギャラリーの 1 室が使用されている場合、他のコミュニティギャラリーは使用できません。

■企画展示室

室名（面積）	使用料（入場料等を徴収しない場合）		
	9:30～12:00	13:00～17:00	左記以外の時間帯
A（182.70㎡）	2,580円	4,120円	1時間 1,030円
B（140.39㎡）	2,080円	3,320円	1時間 830円
C（389.51㎡）	5,750円	9,200円	1時間 2,300円
D（228.06㎡）	3,380円	5,400円	1時間 1,350円
E（105.91㎡）	1,550円	2,480円	1時間 620円
映像室（70.38㎡）	1,030円	1,640円	1時間 410円

- *1 入場料等を徴収する場合（使用期間内に有料配信する場合を含む）は、上記使用料の 2 倍とします。
- *2 企画展示室の使用については、原則として県立美術館との共催事業に限ります。

②シアター等を使用する場合

室名（面積）	使用料（入場料等を徴収しない場合）
シアター（220席）（348.20㎡）	1時間 2,500円
映写室（36.36㎡）	1時間 260円
アナウンスブース（6.35㎡）	1時間 50円
ワークショップA（124.38㎡）	1時間 930円
ワークショップB（185.28㎡）	1時間 1,350円
暗室（22.45㎡）	1時間 160円
スタジオ（100.98㎡）	1時間 750円
映像編集室（24.77㎡）	1時間 180円
スタジオ映写室（28.88㎡）	1時間 210円

- *1 入場料等を徴収する場合（使用期間内に有料配信する場合を含む）は、上記使用料の 2 倍とします。
- *2 ワークショップ、暗室（写真現像用途には適しておりません）、スタジオ、映像編集室及びスタジオ映写室は、当面の間貸出を停止します。
- *3 映写室、アナウンスブースは、シアターを利用する場合、使用できます。
- *4 シアター借用時は、映写室も併せて借用いただきます。

(3) 使用期間

①展示施設

- ・コミュニティギャラリーは、原則として、月曜日始まり、日曜日終わりの1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできません。

- ・企画展示室については、原則として、1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできません。

②シアター等

- ・1時間単位での使用期間とし、同一の利用者について原則として引き続き10日を超えることはできません。

*美術館のすべての施設において

- ・美術館の休館日は、原則として使用できません。（準備、撤去作業の場合は除く。）
- ・毎年度日数を定めて開催している展覧会や上記使用期間では開催目的が達成されない場合において必要と認められるときは、使用期間を変更できるものとします。

(4) 使用時間

- ①美術館の施設使用時間は、美術館の開館時間（9 時 30 分から 17 時まで）とします。なお、施設使用上やむを得ない理由があると認められる場合には、閉館後、1 時間単位で 20 時まで延長することができます。開館時間前の使用については、御相談ください。

- ②施設使用時間には、展覧会等の準備の時間及び撤収の時間も含まれます。（延長した場合であっても 20 時には撤収が完了していなければなりません。）

- ③展示施設は、9 時 30 分から 12 時、13 時から 17 時の使用区分別とし、それ以外は 1 時間単位での使用とします。

- ④シアター等は、1 時間単位での使用とします。

■コミュニティギャラリー、企画展示室、シアターほか

(単位：人)

使用期間	使用者	催事名	使用施設	入場者数
4/10 - 7/21	青森放送株式会社	庵野秀明展	企画展示室ABCDE、映像室	65,212
5/19 - 5/20	株式会社インプレス デジタルカメラマガジン編集部	写真はプリントだ！	コミュニティギャラリーA	24
5/28	福士一行	写真撮影会	コミュニティギャラリーBC	18
6/14 - 6/18	柳谷暁彦	柳谷暁彦 作品展 さまよえるまち	コミュニティギャラリーBC	92
9/1 - 9/4	株式会社ツクリダス	あおりグラフィックデザイナーの1年展2023	コミュニティギャラリーABC	626
9/5 - 9/11	株式会社スタジオエアー	家族写真展2023	コミュニティギャラリーA	336
9/9	ただあるアート実行委員会	サイトウパビコさんワークショップ	ワークショップA	10
9/12 - 10/24	青森放送株式会社	サンエックス90周年 「うちのこたちの大博覧会」	コミュニティギャラリーABC	29,150
10/25 - 10/31	C-FLOWER 佐藤涼	佐藤涼 個展 Black&White"43"	コミュニティギャラリーABC	608
11/3	特定非営利活動法人ドアドアラうんど・青森	Let's 獅子踊	コミュニティギャラリーA、 ワークショップB	56
11/4 - 11/5	社会福祉法人平舘福祉会	エコル作品展	コミュニティギャラリーA	78
11/10 - 11/12	MOA美術館青森児童作品展実行委員会	第34回MOA美術館青森児童作品展	コミュニティギャラリーABC、 シアター	734
11/16 - 11/26	社会福祉法人あーど	青森ありのままの表現展2023	コミュニティギャラリーABC、 ワークショップA	931
11/25	青森三朋会	高崎経済大学同窓会青森三朋会総会	ワークショップA	42
12/2 - 12/3	久米田綾子	コンテンポラリー Sound Alchemist〜精霊の森	コミュニティギャラリーAB	61
12/11 - 1/22	青藤慎次郎	Along The Silk Roads into Japan! The Mountain of Sadness (Osorezan): Return of The Souls	コミュニティギャラリーB	306
1/14	バレエ&ボディバランススクール アロンジェ	バレエ発表会リハーサル	スタジオ、スタジオ映写室	30
1/21	バレエ&ボディバランススクール アロンジェ	バレエ発表会リハーサル	スタジオ、スタジオ映写室	30
1/26 - 1/29	青森県高等学校文化連盟美術部東青支部	令和5年度 青森県高等学校文化連盟美術部 「第59回東青地区美術展」及び「東青支部講習会」	コミュニティギャラリーABC、 ワークショップA	272
2/1 - 2/12	県民生活文化課	デジタルアート展	コミュニティギャラリーABC	2242
2/4	バレエ&ボディバランススクール アロンジェ	バレエ発表会リハーサル	スタジオ、スタジオ映写室	30
2/11	バレエ&ボディバランススクール アロンジェ	バレエ発表会リハーサル	スタジオ、スタジオ映写室	30
2/15 - 3/4	NHK青森放送局	連続テレビ小説「ブギウギ」と淡谷のり子展	コミュニティギャラリーABC	6355
3/2	青森大学	令和5年度 第2回 芸術科学会東北支部研究会	ワークショップA	21
3/8 - 3/10	池田豊苑	大日本書芸院児童生徒作品展	コミュニティギャラリーB	77
3/15 - 3/17	津軽裂織ざくり会	津軽裂織教室作品展ー私の好きな裂織-	コミュニティギャラリーBC	197
3/17	バレエ&ボディバランススクール アロンジェ	バレエ発表会リハーサル	スタジオ、スタジオ映写室	30
3/19 - 3/24	未来環境開発有限会社	「もしフランク・ロイド・ライトが青森で住宅をつくったら」 2024住宅展	コミュニティギャラリーB	578
3/24	バレエ&ボディバランススクール アロンジェ	バレエ発表会リハーサル	スタジオ、スタジオ映写室	30
3/28 - 3/31	PHOTO STUDIO らいず	「縫道石山」写真展	コミュニティギャラリーA	238
3/31	バレエ&ボディバランススクール アロンジェ	バレエ発表会リハーサル	スタジオ、スタジオ映写室	30

合計 108,474 人

サービス等

図書室

概要

図書室は、館の美術情報センターとしての機能を担い、その機能のうち美術に関する図書資料情報を収集、整理、保存、提供することで美術の普及を図ることを目的として、一般開放している。

具体的には、美術に関する専門ライブラリとして、来館者に対し、当館所蔵作品・作家に関するものをはじめ、美術に関する知識を深める図書資料情報の提供、閲覧、美術及び図書資料に関する相談受付（レファレンス）、他美術館等の展覧会情報の提供等を行っている。

設備：図書閲覧席 20 席

開館日・開室時間：美術館開館日の 10:00-16:00

図書資料の収集方針

「青森県立美術館作品収蔵基本方針」に準じ、1) 近・現代の青森県出身作家及びゆかりのある作家に関するもの、2) 青森県以外の近・現代の美術状況に対応するために必要な優れた美術作品に関するもの、3) 今に生きる県民の心の原点に関わり、未来に資するもの、4) 1-3 を理解するために必要なもの、を購入および寄贈により収集した。

蔵書数（令和 5 年度 3 月末現在）

- ・美術図書 6,073冊
- ・デザイン・建築関係図書 514冊
- ・写真関係図書 703冊
- ・絵本・イラスト関係図書 1,302冊
- ・民俗・歴史関係図書 638冊
- ・音楽・映画・舞台関係図書 1,072冊
- ・展覧会カタログ 16,376冊
- ・その他（自然科学、文学など） 2,814冊
- ・雑誌（約60タイトル） 12,998冊

※継続購入は 14 タイトル

計 42,490 冊

サービス

図書資料閲覧

美術に関する映像ソフトの鑑賞

美術に関する図書資料に係る相談受付（レファレンス）

当館に関する情報の掲載誌の閲覧

実績

開室日数：315 日

利用者数：5,704 人

レファレンス利用件数：73 件

令和 5 年度図書室利用実績

	開室日数（日）	入室者数（人）		レファレンス	
	月計	月計	1日平均	月計	1日平均
4月	23	169	7.3	0	0.00
5月	29	362	12.5	7	0.24
6月	28	202	7.2	6	0.21
7月	25	361	14.4	3	0.12
8月	29	684	23.6	9	0.31
9月	21	383	18.2	10	0.48
10月	29	476	16.4	3	0.10
11月	28	419	15.0	5	0.18
12月	23	328	14.3	5	0.22
1月	28	675	24.1	8	0.29
2月	25	1187	47.5	16	0.64
3月	27	458	17.0	1	0.04
計	315	5,704	18.1	73	0.23

事業

1 美術館事業への支援・事業との連携

当館で行う常設展示及び企画展示と連携し、開催期間中、所蔵図書資料のうち展示に関連する資料を展示用書架にて紹介した。

2 他の美術館・関係団体等との連携

「新着カタログコーナー」にて、新しく受け入れた他美術館の展覧会カタログを継続的に紹介した。

サービス等

キッズルーム

概要

絵本やお絵かき、積み木などを親子で楽しむことを通じて、子どもたちの美術への関心を高めることを目的として、地下1階「キッズルーム」を、来館者の多い土日祝日に無料で開放している。

「キッズルーム」は、約600冊の絵本をはじめとして、スイスのnaef（ネフ）社製やおもしろ木製玩具研究会「わらはんど」製作の色や形の美しい積み木やお絵かきを自由に楽しめる空間となっている。

利用実績

開室時間：土日祝日 10:00－12:00 13:00－15:00

（※12:00－13:00の間は閉室）

令和5年度キッズルーム利用実績

	開室日数（日）	入室者数（人）			
	月計	こども	おとな	月計	平均
4月				0	0.0
5月				0	0.0
6月				0	0.0
7月				0	0.0
8月				0	0.0
9月				0	0.0
10月	2	14	15	29	14.5
11月	10	63	81	144	14.4
12月				0	0.0
1月				0	0.0
2月				0	0.0
3月				0	0.0
計	12	77	96	173	14.4

※令和2年度より新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から閉室していたキッズルームを、令和5年10月より再開。12月より冬季期間のため閉室とした。

サービス等

博物館実習

概要

博物館法施行規則第 1 条に定められた学芸員資格取得に関する博物館実習を実施した。

実施内容：美術館における諸活動（展示・収蔵・教育普及等）

期間：2023 年 8 月 22 日（火）～ 26 日（土）

実習指導：青森県立美術館職員他

実習生：4 大学 5 名

弘前学院大学（2 名）、東北芸術工科大学（1 名）、秋田公立美術大学（1 名）、宮城学院女子大学（1 名）

プログラム

令和 5 年度 博物館（美術館）学芸員実習日程

第 1 日目 8 月 22 日（火）

- ・オリエンテーション
- ・施設見学（バックヤードおよび作業導線含む）
- ・青森県立美術館の概要について
- ・学芸員の仕事について
- ・美術館のコレクション形成について
- ・5館連携事業と美術館の広報について
- ・アートプロジェクトについて
- ・実習日誌作成

第2日目 8月23日（水）

- ・来館者対応と美術館のホスピタリティーについて～アテンダントの仕事～監視・受付
- ・美術館の施設およびサイン計画について(サイン等掲示物の作成実技含む)
- ・作品の取扱いおよび調書作成（日本画、油彩画、立体、紙作品）
- ・作品の保存・管理について(空調設備見学含む)
- ・実習日誌作成

第3日目 8月24日（木）

- ・美術館の教育普及活動について
- ・美術館のバフォーミングアーツ活動
- ・展覧会の作り方1 棟方志功展を例に
- ・展覧会の作り方2 梱包、展示ケース・照明器具取扱い等実技演習
- ・ディスカッション「文化財の保存と活用」
- ・実習日誌作成

第4日目 8月25日（金）

- ・[演習] 展覧会を企画してみよう（1）テーマ設定、作品リスト作成
- ・棟方志功展ワークショップ体験
- ・[演習] 展覧会を企画してみよう（2）関連イベント、普及活動の検討
- ・棟方志功展関連イベント（鼎談）見学
- ・実習日誌作成

第 5 日目 8 月 26 日（土）

- ・[演習] 展覧会を企画してみよう（3）展示プランニング、（4）展示上の留意点
- ・[演習] 企画した展覧会の発表（発表＋講評）
- ・実習日誌作成

サービス等

サポートシップ倶楽部

概要

青森県立美術館の活動に協力するとともに広く県民の美術その他の芸術文化の向上に寄与するために平成27年度（平成28年3月）に発足した任意団体。

会員の区分と年会費

一般会員

成人会員：3,000 円、学生会員（高校生以上）：2,000 円、法人会員：30,000 円

特別会員（総会出席）

法人会員：一口 100,000 円

会員数（令和6年3月31日現在）

一般会員：成人会員 110 名、学生会員 5 名、法人会員 4 団体

特別会員：17 法人（35 口）

特典

会員への情報提供

一般会員

常設展観覧料無料観覧（法人会員は3名まで同時観覧可能）
企画展観覧料無料招待券配布のほか、いつでも団体料金で観覧可
ミュージアムショップ割引
カフェ割引
等

特別会員

企画展内覧会・レセプション招待
等

令和5年度事業報告

1 美術館活動への支援事業

(1) 美術品購入及び寄贈

県ゆかりの作家作品を購入し、青森県立美術館へ寄贈する事業であるが、候補となる作家との日程等の調整がつかず、当該事業の実施を見送った。

(2) 美術資料の充実

美術品寄付のための積み立て。

(3) 美術館ファンの拡大

一般会員の会員特典（観覧料無料）をアピールし、観覧者数の増加を図った。延べ観覧者数 473 名。

2 県民の美術その他の芸術文化の向上に寄与するための事業

(1) 展覧会関連の講演会・ワークショップ等への協賛等

①企画展「生誕 120 年棟方志功展メイキング・オブ・ムナカタ」関連事業への協賛

○「生誕 120 年棟方志功展 記念鼎談「スピーキング・オブ・ムナカタ」

「石井頼子 × 原田マハ × ヤマザキマリ」

令和5年8月25日（金）14:00～16:00／青森県立美術館スタジオ

②企画展「奈良美智：The Beginning Place ここから」関連事業への協賛

○「矢野顕子ギャラリーライブ」

令和5年12月7日（木）19:00～20:00／青森県立美術館企画展示室

(2) 企画展オープニングセレモニー及び内覧会への招待

①「生誕 120 年棟方志功展メイキング・オブ・ムナカタ」

オープニングセレモニー及び内覧会 令和5年7月28日（金）13:30～16:00

②「奈良美智：The Beginning Place ここから」

内覧会 令和5年10月13日（金）15:15～17:00

③「フランク・ロイド・ライトー世界を結ぶ建築」

オープニングセレモニー 令和6年3月20日（水・祝）9:15～9:30

(3) ビジネスパーソンのためのアート講座（共催）

ビジネスシーンにおいて欠かすことのできない力である観察力・表現力・多様性の理解などを育成するため、ビジネス層にも役立つ実践的なプログラムを通して、美術に触れる面白さを体験してもらうとともに美術館に親しみをもってもらうため実施。

日時 令和6年1月22日（月・休館日）13:00～16:20

主催 青森県立美術館・青森県立美術館サポートシップ倶楽部
対象 特別会員企業・団体他
参加者 9名

3 理事会及び総会の開催について

(1) 第1回理事会

- ①議決日 令和5年6月2日（金）14:00～14:25
- ②場所 青森県立美術館地下1階 ワークショップA
- ③議事
 - 第1号議案 令和4年度事業報告の件
 - 第2号議案 令和4年度収支決算の件
 - 第3号議案 令和5年度事業計画（案）の件
 - 第4号議案 令和5年度収支予算（案）の件

(2) 第1回総会

- ①議決日 令和5年6月2日（金）14:30～15:00
- ②場所 青森県立美術館地下1階 ワークショップA
- ③議事
 - 第1号議案 令和4年度事業報告の件
 - 第2号議案 令和4年度収支決算の件
 - 第3号議案 令和5年度事業計画（案）の件
 - 第4号議案 令和5年度収支予算（案）の件
- ④購入作品目録贈呈

資料

広報

県の広報媒体を活用した広報活動や、Twitter・Facebook 等のソーシャルメディアネットワークによる活動を展開した

(1) ・青森放送(RAB ラジオ)「県広報タイム」

- ・エフエム青森「あおり・ふぁん」
- ・東奥日報、デーリー東北、陸奥新報「広報あおりけん」
- ・広報広聴課 Facebook「県政トビックス」
- ・コンビニ等から県政情報の発信！

- ・ Casa BRUTUS
- ・ クリッパー
- ・ ART iT
- ・ WTS MAGAGINE
- ・ GQ JAPAN
- ・ 月刊 MOE
- ・ TJAPAN
- ・ acute ほか多数

(2) ソーシャルメディアネットワーク

- ・ Twitter
アカウント：aomori_museum_of_art@aomorikenbi
- ・ Facebook
アカウント：www.facebook.com/aomori.museum
- ・ Instagram
アカウント：aomorikenbi

(3) ホームページ

URL：www.aomori-museum.jp

年間アクセス数（2023.4 - 2024.3）：2,961,581 件

(4) 雑誌等掲載実績（主なもの、順不同）

- ・ ウェブ版美術手帖
- ・ 美術の窓
- ・ 和楽
- ・ 美術展びあ
- ・ arch
- ・ 月刊美術
- ・ 芸術新潮
- ・ アートアジェンダ
- ・ アートコレクターズ
- ・ 新美術新聞
- ・ ウォーカープラス
- ・ まっふる
- ・ るるぶ
- ・ ことりっぶ
- ・ じゃらん
- ・ 大人の休日倶楽部
- ・ 旅の手帖
- ・ rakra
- ・ あおりのき

資料

広聴

青森県立美術館アドバイザー・ボード

青森県立美術館のより良い運営を推進するため、青森県立美術館の運営に関して専門的及び県民の立場から必要な助言等を行う第三者委員会を設置。

アドバイザー

座長 建畠 哲（全国美術館会議会長・多摩美術大学学長・埼玉県立近代美術館館長）

三上 満良（東北芸術工科大学講師、宮城県美術館元副館長）

山田 泰子（八戸市美術館美術専門監）

蜷川 有紀（画家・女優・大正大学客員教授）

三澤 一実（武蔵野美術大学教授）

佐藤 健一（青森観光コンベンション協会会長）

花田 玲子（県民代表）

会場：青森県立美術館（オンライン開催）

第8回

開催日：2023年3月8日（水）

会場：青森県立美術館

第9回

開催日：2024年2月21日（水）

会場：青森県立美術館

会議開催状況

第1回

開催日：2016年3月19日（土）

会場：青森県立美術館

第2回

開催日：2017年2月9日（木）

会場：青森県立美術館

第3回

開催日：2018年3月12日（月）

会場：青森県立美術館

第4回

開催日：2019年2月28日（木）

会場：青森県立美術館

第5回

開催日：2020年3月19日（木）

会場：青森県立美術館

第6回

資料送付日：2021年3月23日（水）（書面開催）

第7回

開催日：2022年3月30日（水）

資料

入館者数

(単位:人)

		H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度 ①	R5年度 ②	増減 (②-①)
常設展	一般観覧者	193,501	89,229	109,609	190,672	233,192	141,904	177,266	179,793	73,541	137,198	92,714	125,342	134,453	92,807	39,216	38,421	80,313	136,943	56,630
	スクール免除	12,685	6,968	6,668	9,098	11,574	6,777	5,798	3,712	3,845	3,530	3,295	2,448	2,612	1,898	2,868	3,249	2,284	3,137	853
	常設展計	206,186	96,197	116,277	199,770	244,766	148,681	183,064	183,505	77,386	140,728	96,009	127,790	137,065	94,705	42,084	41,670	82,597	140,080	57,483
企画展	シャガール展	192,918																		
	縄文と現代展	14,894																		
	工藤甲人展	1,680	10,950																	
	旅順博物館展		30,065																	
	舞台芸術の世界展		6,282																	
	棟方志功・崔榮林展		4,156																	
	寺山修司展			9,533																
	大ナボレオン展			46,609																
	小島一郎展			8,660																
	ウィーン展				36,884															
	(特別展 太宰治と美術展)				(23,191)															
	馬場のぼる展				25,464															
	ラブラブショー				5,160															
	ローマ展					45,622														
	ロボット展					25,076														
	芸術の青森展					3,530														
	印象派展						105,758													
	今和次郎展						4,807													
	フィンランド展							31,876												
	Art and Air展							18,267												
	奈良美智展							80,275												
	種差展								16,807											
	横尾忠則展								10,516											
	日本の民家展								5,115											
	工藤哲巳展									5,056										
	美少女展									33,866										
	関野準一郎展									8,158										
	成田亨展										18,257									
	化け物展											32,984								
	「青森EARTH2015みちの奥へ」展示											3,022								
	棟方志功展											17,427								
	日展											19,094								
	青森EARTH2016根と路											11,190								
	澤田教一展											10,195								
	ラブラブショー2展												10,962							
	遙かなるルネサンス展												40,188							
	近代洋画展												6,762							
	シャガールー三次元の世界展												4,057	14,665						
	フランスと日本展													31,543						
	めがねと旅する美術展													16,867						
	アルヴァ・アアルト展														12,858					
	子どものための建築と空間展														13,431					
	青森EARTH2019:いのち紡す場所														5,944					
	阿部合成展															5,354				
	富野由悠季の世界展															6,079	10,474			
	大・タイガー立石展																7,549			
	あかし testaments展																6,246			
	石井康治展																	17,500		
	つつく展																	28,568		
	生誕120年棟方志功展																		34,486	
	奈良美智展2023																		87,790	
	フランク・ロイド・ライト展																		2,781	
	企画展計	209,492	51,453	64,802	67,508	74,228	110,565	130,418	32,438	47,080	54,263	57,906	61,969	63,075	32,233	11,433	24,269	46,068	125,057	78,989
教育普及	スクールプログラム	18,775	9,905	9,242	7,087	7,272	7,368	6,310	5,792	3,974	4,065	4,158	2,687	3,762	2,265	3,840	5,305	3,228	4,394	1,166
	普及プログラム	2,300	2,148	2,873	886	718	11,763	2,565	2,744	1,575	557	96	851	1,692	568	331	0	36	83	47
	お出かけ講座	1,196	1,587	1,122	1,119	537	1,250	1,022	1,245	383						0	0	72	0	△ 72
	展示関係プログラム			625	1,526	7,546	930	909	1,738	932	757	1,688	482	549	541	0	143	333	4,374	4,041
	その他	500		464	266	399	387	351	136	440	393	411	1,161	285	281	5	6	11	5	△ 6
	教育普及計	22,771	13,640	14,326	10,884	16,472	21,698	11,157	11,655	7,304	5,772	6,353	5,181	6,288	3,655	4,176	5,454	3,680	8,856	5,176
アパ リフ ォー ミ ン グ	演劇	2,170	1,821	1,516	1,333	1,085	2,962	3,468	5,255	2,258	2,140	2,163	3,054	835	2,101	326	486	146	245	99
	ダンス			1,419	1,089	520			339	699	662	490	632	602			0	0	489	489
	音楽	1,559	471		1,583	1,959	970	1,133	810	469	479	469	428	573	629	303	125	398	145	△ 253
	映画	975	1,954	1,584	685				240	991	503	1,024	818	1,993	446		44	234	137	△ 97
	パフォーマンスアート計	4,704	4,246	6,102	5,066	2,575	3,941	4,601	6,644	4,417	3,784	4,146	4,932	4,003	3,176	629	655	778	1,016	238
貸館		10,268	26,481	194,807	104,625	144,520	20,735	33,410	126,284	26,192	71,045	58,931	28,185	47,790	11,421	4,154	42,308	22,107	110,404	88,297
図書館		2,552	7,727	12,910	10,012	7,864	6,561	10,688	6,818	4,662	4,307	6,557	3,467	4,474	3,542	1,961	1,529	2,023	5,701	3,678
キッズルーム			2,850	3,690	3,127	3,555	20,501	15,889	4,267	2,602	3,118	3,545	2,738	3,015	1,799	15	0	0	173	173
合 計		455,973	202,594	412,914	400,992	493,980	332,682	389,227	371,611	169,643	283,017	233,447	234,262	265,710	150,531	64,452	115,885	157,253	391,287	234,034

※キッズルームは平成19年4月28日からオープン

※特別展太宰治と美術展入館者数は常設展入館者数に含む

資料

運営予算・決算

令和 5 年度
一般会計予算額

(単位:千円)

事業名	収入	収入科目	支出	支出細目	支出説明
美術館費	61,640	使用料及び手数料	155,411	職員費	人件費
	0	国庫支出金	707,379	美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ事業費 他
	49	財産収入	708	公園管理費	青森県総合運動公園管理費
	132,900	繰入金			
	78,008	諸収入			
	89,000	県債			
	507,901	一般財源			
合計	863,498		863,498		

令和 5 年度
一般会計決算額

(単位:千円)

事業名	収入	収入科目	支出	支出細目	支出説明
美術館費	69,854	使用料及び手数料	149,814	職員費	人件費
	0	国庫支出金	732,988	美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ事業費 他
	48	財産収入	703	公園管理費	青森県総合運動公園管理費
	130,816	繰入金			
	70,434	諸収入			
	131,000	県債			
	481,353	一般財源			
合計	883,505		883,505		

資料

組織

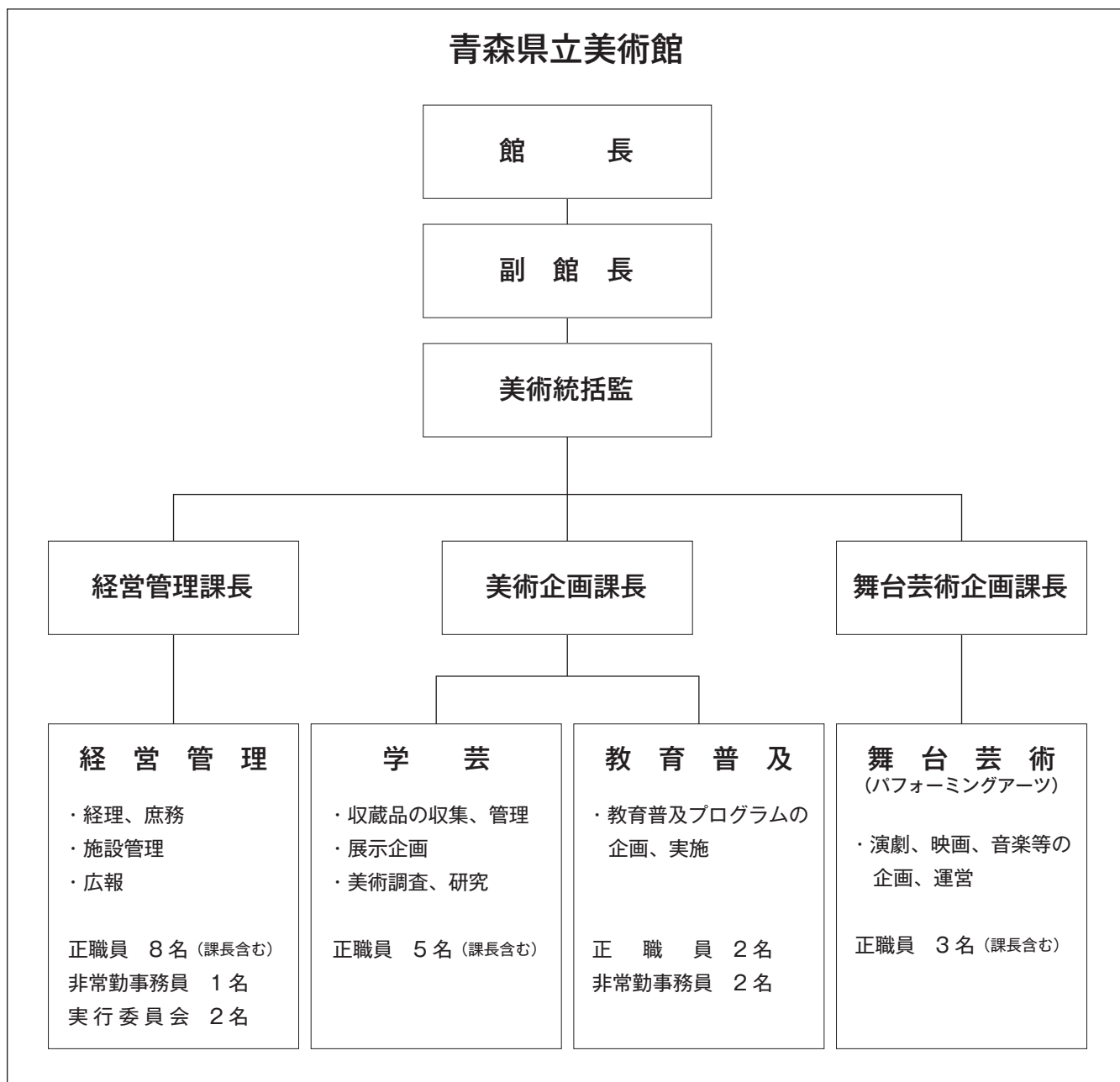
青森県立美術館の運営体制

□県立美術館の運営は、アドバイザー・ボードからの助言を得ながら行っている。

□館長及び県職員（非常勤含む）23名の計24名が美術館運営にあたっている。

このほか、企画展実行委員会職員2名が配置されている。

（令和5年4月1日現在）



資料

関係規程等

青森県立美術館条例

(設置)

第一条 美術その他の芸術の鑑賞及び学習の機会並びに創作活動の場の提供を行うことにより、県民の芸術に関する活動への参画を支援し、もって文化の振興を図るため、青森市に青森県立美術館（以下「美術館」という。）を設置する。

(業務)

第二条 美術館は、次に掲げる業務を行う。

一 美術品その他の芸術に関する資料（以下「美術品等」という。）の収集、保管及び展示に関すること。

二 美術品等の利用に関し必要な説明、助言及び指導に関すること。

三 美術品等に関する専門的、技術的な調査研究に関すること。

四 美術品等に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の作成及び配布に関すること。

五 美術その他の芸術に関する講演会、講習会、映写会、研究会、公演会等の開催に関すること。

六 美術その他の芸術に関する情報の収集及び提供に関すること。

七 美術その他の芸術に関する創作活動の場の提供に関すること。

八 その他県民の芸術に関する活動への参画を支援するために必要な業務

(使用の承認)

第三条 別表第二号又は第三号に掲げる場合において、美術館の施設を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

(使用料)

第四条 美術館の施設を使用する者（以下「使用者」という。）は、別表に定める使用料を納入しなければならない。

2 知事は、特別の理由があると認めたときは、前項の使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用の制限等)

第五条 知事は、使用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、当該使用者の美術館の使用を拒み、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

一 他の使用者に迷惑をかけ、又はそのおそれがあるとき。

二 美術館の施設、設備等をき損し、若しくは汚損し、又はそれらのおそれがあるとき。

三 この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

2 知事は、前項に規定する場合のほか、美術館の管理運営上支障があると認めるときは、美術館の使用を制限することができる。

(委任)

第六条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

附則 この条例は、規則で定める日から施行する。

別表（第三条、第四条関係）

一 美術品等の観覧のための使用の場合

区分	金額（一回につき）
常設展の観覧	一人につき 千円を超えない範囲内で知事が定める額
企画展の観覧	知事がその都度定める額

二 展示施設の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	九時三十分から 十二時まで	十三時から 十七時まで	九時三十分以前、 十二時から十三時 まで及び十七時以降
コミュニティギャラリー A	二千三百十円	三千四百円	八百五十円
コミュニティギャラリー B	八百八十円	千四百円	三百五十円
コミュニティギャラリー C	千八百八十円	三千円	七百五十円
展示室 A	二千五百円	四千円	四千円
展示室 B	二千円	三千二百円	八百円
展示室 C	五千五百円	八千八百円	二千二百円
展示室 D	三千二百五十円	五千二百円	千三百円
展示室 E	千五百円	二千四百円	六百円
映像室	千円	千六百円	四百円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合
イの場合の使用料の額の二倍に相当する額

三 シアター等の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	金額（一時間につき）
シアター	二千四百円
映写室	二百六十円
アナウンスブース	五十円
ワークショップ A	九百円
ワークショップ B	千三百円
暗室	百六十円
スタジオ	七百二十円
映像編集室	百八十円
スタジオ映写室	二百十円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合
イの場合の使用料の額の二倍に相当する額

四 食堂施設又は売店施設の使用の場合

知事が定める額

青森県告示第 五百二十五 号

青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号）別表第四号の規定により、青森県立美術館の食堂施設及び売店施設の使用料の額を次のとおり定める。

平成十八年七月十二日

青森県知事 三村申吾

区分金額	金額（一年につき）
食堂施設	八十三万四千八百円
売店施設	六十六万五千六百円

備考 使用期間が一年に満たないとき、又は使用期間に一年に満たない端数があるときは、その全期間又は端数部分について日割で計算する。

青森県立美術館規則

（趣旨）

第一条 この規則は、青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号。以下「条例」という。）第六条の規定に基づき、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）

第二条 美術館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時まで（六月一日から九月三十日までの期間にあっては、午前九時から午後六時まで）とする。

2 美術館の副館長（以下「副館長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の開館時間を変更することができる。

第三条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

一 毎月第二月曜日及び第四月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第七十八号）に規定する休日にあたるときは、その翌日）

二 十二月二十七日から同月三十一日までの日

2 副館長は、必要があると認めるときは、前項の休館日に開館し、又は同項の休館日以外の日に休館することができる。

（使用の承認の手続）

第四条 条例第三条の規定による使用の承認（以下「使用の承認」という。）を受けようとする者は、使用申込書を知事に提出しなければならない。

2 知事は、使用の承認をしたときは、当該使用の承認を受けた者に使用承認書を交付するものとする。

（使用料の免除の申請）

第五条 条例第四条第二項の規定による使用料の免除を受けようとする者は、免除申請書を知事に提出しなければならない。

（使用の承認の取消し等）

第六条 副館長は、美術館の施設を使用する者（以下「使用者」という。）が不正な手段により使用の承認を受けたと認めるときは、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

（原状回復等）

第七条 使用者は、故意又は重大な過失により美術館の施設、設備、美術品その他の芸術に関する資料等をき損し、又は汚損したときは、原状に復し、又は現品若しくはそれに相当する代価をもって弁償しなければならない。

附則

この規則は、平成十八年七月十三日から施行する。

附則

この規則は、平成二十七年四月一日から施行する。

青森県立美術館管理規程

（趣旨）

第1条 この規程は、青森県立美術館条例（平成17年10月青森県条例第69号。以下「条例」という。）及び青森県立美術館規則（平成18年7月青森県規則第72号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（観覧券の交付）

第2条 条例別表第1号に定める使用料を納入した者に対し、観覧券を交付するものとする。

（使用の承認）

第3条 規則第4条第1項に規定する使用申込書の様式は、第1号様式とする。

2 規則第4条第2項に規定する使用承認書の様式は、第2号様式とする。

3 規則第4条に規定する使用承認の手続きに関し必要な事項は、副館長が別に定める。

（使用料の納付）

第4条 使用の許可を受けた者は、納入通知書により指定する日までに使用料を納入しなければならない。

（使用料の還付）

第5条 納付された使用料は、還付しない。ただし、天災その他利用者の責めによらない理由により美術館を使用できなくなった場合は、この限りではない。

2 前項ただし書きにより使用料の還付を受けようとする者は、使用料還付請求書（第3号様式）を副館長に提出しなければならない。

（使用料等の免除）

第6条 副館長は、条例別表第1号に規定する常設展の観覧が次の各号のいずれかに該当するときは、規則第5条の規定により使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 教育課程に基づく学習活動として観覧する小学校、中学校、中等教育学校前期課程及び特別支援学校の児童、生徒及び引率する教職員が観覧するとき使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年及び引率する当該施設の職員が観覧するとき使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条

第 4 項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。）使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和 25 年法律 123 号）第 45 条第 2 項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者、療育手帳の交付を受けている知的障害者及びこれらの付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。）使用料の全部の額

五 前各号に掲げるもののほか、副館長が特別の理由があると認めるとき 使用料の全部の額又は一部の額

2 前項第 1 号、第 2 号及び第 5 号に規定する常設展の使用料の免除を受けようとする者は、常設展の観覧使用料免除申請書（第 4 号様式）を副館長に提出しなければならない。

3 副館長は、条例別表第 2 号又は第 3 号に掲げる施設の使用が美術館の目的にふさわしい資料展示、講習会、研究会等のためであり、かつ、次の各号のいずれかに該当するときは使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 学校教育法（昭和 22 年法律 26 号）第 1 条に規定する学校が教育課程に基づく学習活動として使用するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和 22 年法律第 164 号）第 7 条に規定する児童福祉施設に入所している少年を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和 24 年法律第 283 号）第 15 条第 4 項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和 25 年法律 123 号）第 45 条第 2 項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及び療育手帳の交付を受けている知的障害者とこれらの付添人を対象とする事業に使用するとき使用料の全部の額

五 美術館を構成員とする実行委員会等が主催して使用するとき 副館長が事案に即して相当と認める額又は使用料の全額

六 芸術の振興を目的として活動している団体が主体となつて、美術館と共催し使用するとき 使用料の 2 分の 1 に相当する額を基本として副館長が事案に即して相当と認める額

七 前各号に掲げる場合のほか、副館長が特別の理由があると認めるとき 副館長が定める額

4 前項に規定する施設の使用料の免除を受けようとする者は、施設使用料免除申請書（第 5 号様式）を副館長に提出しなければならない。

（美術品等の貸出）

第 7 条 副館長は、別に定めるところにより美術館の資料を貸し出すことができる。

（美術品等の寄託又は寄贈）

第 8 条 副館長は、別に定めるところにより美術資料の寄託又

は寄贈を受けることができる。

（美術資料の特別観覧）

第 9 条 副館長は、美術館に収蔵されている美術資料について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術資料の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をさせることができる。

2 前項に規定する特別観覧をしようとする者は、特別観覧承認申請書（第 6 号様式）を副館長に提出しなければならない。

附則

この規定は、平成 18 年 7 月 13 日から施行する。

この規程は、平成 19 年 6 月 25 日から施行する。

この規定は、平成 21 年 1 月 19 日から施行する。

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

青森県立美術館アドバイザー・ボード設置要綱

（設 置）

第 1 青森県立美術館（以下「美術館」という。）のより良い運営を推進するため、青森県立美術館アドバイザー・ボード（以下「アドバイザー・ボード」という。）を設置する。

（所 掌）

第 2 アドバイザー・ボードは、美術館の運営に関して必要な助言等を行う。

（構 成）

第 3 アドバイザー・ボードは、8 名以内のアドバイザーをもって組織する。

2 アドバイザーは、学識経験を有する者その他適当と認められる者から知事が委嘱する。

3 アドバイザー・ボードに座長を置き、アドバイザーの互選により選出する。

4 アドバイザーに欠員を生じた場合の補欠のアドバイザーの任期は、前任者の残任期間とする。

（任 期）

第 4 アドバイザーの任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

（会 議）

第 5 アドバイザー・ボードは、青森県立美術館長が招集する。

2 アドバイザー・ボードの議長は、座長が務める。

3 座長に事故があるときは、座長が指示するアドバイザーがその職務を代理する。

（庶 務）

第 6 アドバイザー・ボードの庶務は、美術館において処理する。

（その他）

第 7 この要綱に定めるもののほか、アドバイザー・ボードの運営に関し必要な事項は、美術館が別に定める。

附 則

この要綱は、平成 27 年 8 月 20 日から施行する

資料

施設設備概要

建設概要

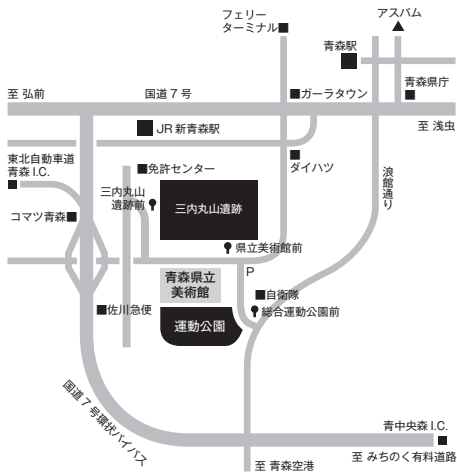
施設名称	青森県立美術館
所在地	青森市大字安田字近野 185
主用途	美術館
事業主体	青森県
設計期間	平成 11 年 (1999 年) 12 月—平成 14 年 (2002 年) 3 月
施工期間	平成 14 年 (2002 年) 12 月—平成 17 年 (2005 年) 9 月
設計監理	青木淳建築計画事務所 構造：金箱構造設計事務所 設備：森村設計 音響：永田音響設計 土系素材：INAX
施 工	建築：竹中・西松・奥村・北斗特定建設工事共同企業体 強電：きんでん・五十嵐・野呂特定建設工事共同企業体 弱電：奈良・高田特定建設工事共同企業体 空調：高砂・青木・佐藤設備特定建設工事共同企業体 衛生：芝管・五戸特定建設工事共同企業体 昇降機：三菱電機株式会社
面 積	敷地面積：129,536.37 m ² 建築面積：7,223.07 m ² 延床面積：21,222.19 m ² 地下 2 階：4,736.15 m ² 地下 1 階：3,965.11 m ² 1 階：5,339.02 m ² 2 階：2,403.81 m ² 3 階（機械室エリア）：4,778.10 m ² 建ぺい率：5.58% 容積率：16.38%
階 数	地下 2 階 地上 3 階
寸 法	最高高：16,160mm 軒高：15,150mm 階高：地下 2 階 2,300—19,000mm 地下 1 階 2,500—7,500mm 1 階 2,700—11,000mm 2 階 2,500—4,000mm 主なスパン：3,000mm×3,000mm

地域・地区	都市計画区域内 市街化区域
構 造	鉄骨鉄筋コンクリート造（地下 1・2 階） 鉄骨造（地上 1—3 階） 杭・基礎：杭基礎（PHC-ST 杭）600φ・700φ、（PHC 杭）600φ
外部仕上げ	屋根：ウレタン塗膜防水 外壁：煉瓦＋アクリルシリコン塗装 外構：コンクリート舗装ほうき目仕上げ
内部仕上げ	【展示室（白）】 床：カラーモルタル金こて押え t=20mm＋防塵防汚塗装 壁：合板 t=15mm×2＋プラスターボード t=12mm＋全面寒冷紗パテ処理＋EP 天井：合板 t=12mm＋プラスターボード t=9mm＋EP 【展示室（土）】 床：タタキ t=50mm 壁：版築 t=200mm 天井：合板 t=12mm＋プラスターボード t=9mm＋EP 【コミュニティホール】 床：クリフローリング t=15mm 壁：プラスターボード 12mm×2＋スタッコ 天井：人工木材ローズウッド練り付け 【シアター】 床：フェルト t=8mm＋カーペット t=7mm 壁：プラスターボード t=15mm＋グラスウールボード＋エキスパンドメタル t=6mm（樹脂コーティング処理） 天井：グラスウール＋プラスターボード t=15mm＋エキスパンドメタル t=6mm（樹脂コーティング処理） 【オフィス】 床：システム根太ユニット 600mm×600mm＋コンパネ t=12mm＋クリフローリング t=15mm 壁：プラスターボード t=12mm×2＋EP 天井：プラスターボード 12mm＋吸音板 t=12mm＋EP
空調設備	AHU・定風量単一ダクト方式、一部 FCU、空冷パッケージ方式、冷温水発生機、加湿用蒸気ボイラ、空冷チラー
照明設備	LED 照明、スポットライト及び蛍光灯（調光設備・

	紫外線カット付)
消火設備	屋内消火栓、スプリンクラー、不活性ガス（窒素）消火、 加圧式粉末A B C 消火器 設備項目：防排煙設備、屋内消火栓設備、スプリン クラー設備（開放型、予作動型）、窒素ガス消火設備（一 部展示室、収蔵庫、熱源機械室）
排煙設備	機械排煙設備（3 系統）
防犯設備	常時警備員巡回。展覧会開催中は会場内に監視スタッ フを配置。展示室等に監視カメラを設置。
衛生設備	給水：受水槽（42t）＋加圧給水ポンプユニット方式 給湯：貯湯式電気温水器、ガス湯沸器（厨房） 排水：下水道放流（污水・雑排水）
電気設備	受電方式：高圧電力 3φ3W 6,600V（業務用電力＋ 融雪電力） 設備容量：2,650kVA 契約電力：830kW 予備電源：非常用発電設備 500kVA、直流電源設備 （非常照明用） 設備項目：受変電設備、自家発電設備、動力設備、 電灯設備、展示調光設備、避雷設備、構内交換設備、 情報通信設備、誘導支援設備、テレビ共同受信設備、 監視カメラ設備、拡声設備、自動火災報知設備、演 出照明設備（シアター、スタジオ）、演出音響設備、 映写設備（シアター）
昇 降 機	荷物用エレベータ 1 台 乗用エレベータ 8 台

アクセス

- JR 新青森駅から車で約 10 分
- 青森駅から車で約 20 分
- 青森空港から車で約 20 分
- 東北縦貫自動車道青森 I.C. から車で約 5 分
- (八戸方面から) 青森自動車道青森中央に I.C. から車で約 10 分
- 市営バス 青森駅前 6 番バス停から三内丸山遺跡行き
「県立美術館前」下車 (所要時間約 20 分)
- ルートバスねぶたん号新青森駅東口バス停から乗車
「県立美術館前」下車 (所要時間約 10 分)



青森県立美術館年報

令和 5 年度

編集・発行：青森県立美術館

青森市安田字近野 185 038-0021

017-783-3000

表紙デザイン：菊地敦己

印刷：川口印刷工業株式会社

発行日：2025 年 3 月